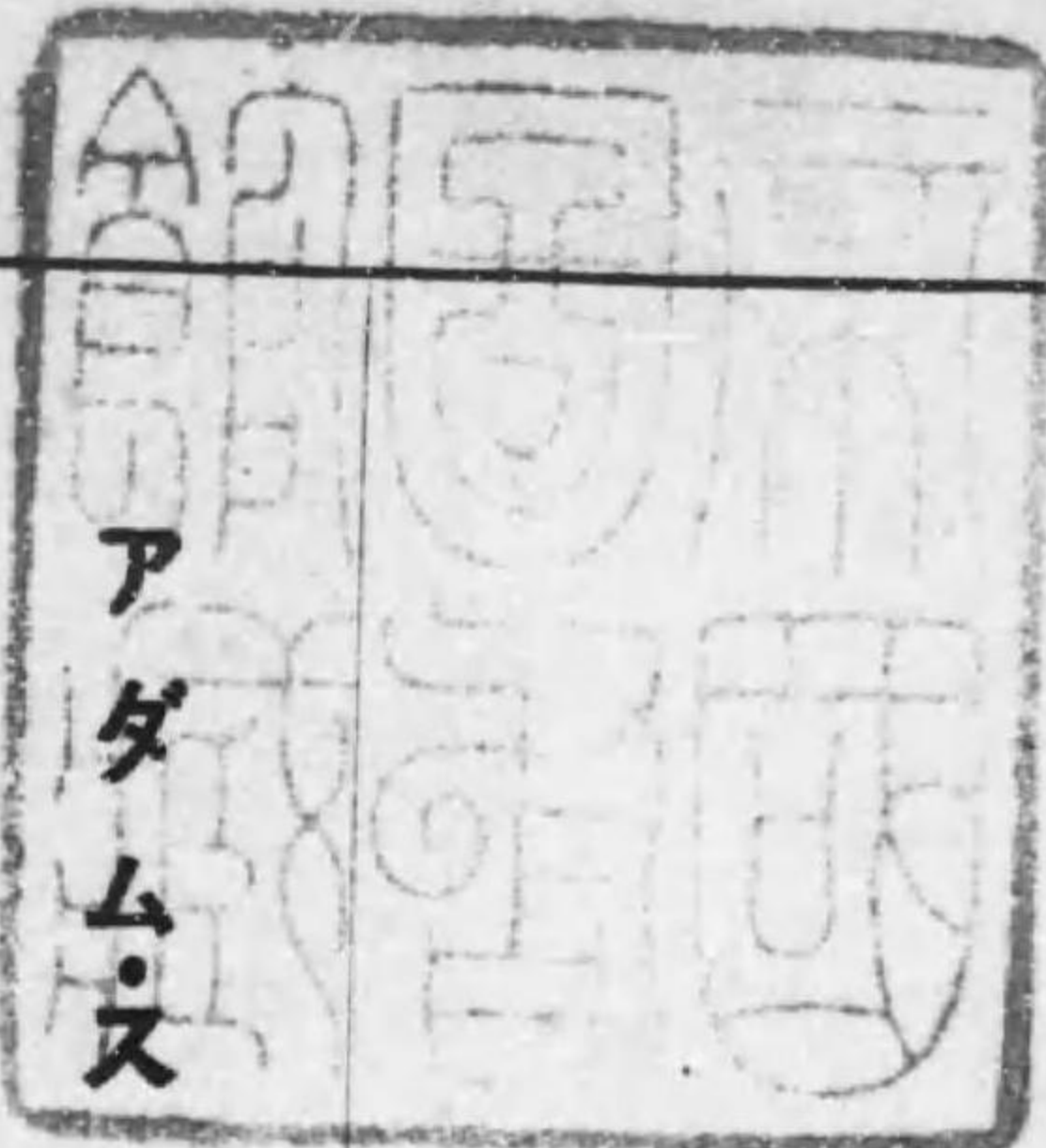


527
68



始





富
國
論

アダム・スミス著

Handwritten signature or initials

哲學會新學說大系 (5)

Handwritten note: 新學說大系

新潮社出版

神永文三譯述

大正
14. 4 20
丙午

527-68
Adam Smith

緒言

1740-1790

近世經濟學の鼻祖といはれるアダム・スミス (Adam Smith) は、一七二三(一七二三年)六月五日に英國スコットランドのエジンバラ附近のカーコデイーなる小都會に生れた。父は矢張りアダム・スミスといつて、スミスが生れる八週間ほど前に死んだ。其當時父はカーコデイーの關稅検査官であつた。母はマグレート・ダグラスといつて、九十歳まで長生し、スミスに先立つこと僅か六年前に死んだ。兄弟もなく又た一生妻らなかつたスミスにとつて、母は此世で一番大切な、慕しい人であつた。

スミスはカーコデイーの學校を出てから、十四歳の時グラスゴー大學に入學した。それは一七三七年の十月で、それから一七四〇年の春まで此處でラテン、ギリキの古典と數學と、道德哲學とを勉強した。

一七四〇年に獎學資金給與の恩典を得て、オックスフォード大學學生となり、十七歳から二十三歳まで其處で學んだ。一七四六年八月カーコデイーの母の許に歸り、一七四八年秋まで、何もすることなく讀書に耽つてゐた。

一七四八年冬、二十五歳の時、エジンバラ大學の講師となり、英國文學史を擔任した。

著書

Adam Smith

著書
スミス
1740-1790

Handwritten notes and signatures at the bottom of the page.

一七五一年、グラスゴー大學に招かれて、最初論理學の講座を受持ち、次に道德哲學講座を受持った。グラスゴー大學教授の任にあること十四年、一七六四年に海外旅行のために其職を辭した。これより先一七五九年即ちスミスが三十五歳のときに、學校の講義を土臺として『道德情操論』を著し、これによつて彼は一流の學者と認められるに至つた。

一七六四年二月、彼はバウクルー公に伴つて、公の教師として佛國に旅立つた。パリ、ツールーズ、佛國南部地方、ゼネヴァ等を歴遊し、約二ヶ年半の旅を畢へて、倫敦に歸つたのは一七六六年十月であつた。此間かれは佛國の學者政治家等と相識り、佛國の政治經濟の實狀を知る機會を得た。

一七六七年カーコデイーに落着き、それから約九年間といふもの、彼が畢生の大著たる『富國論』の著作に心血を注いだ。『富國論』の原稿は一七七三年春に一旦脱稿されたが、スミスは更に其後三年の間、倫敦に於て補正の筆を加へた。かくて、『諸國民の富の性質及び原因に關する研究』(An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations) 略して『富國論』(Wealth of Nations) は、一七七六年三月九日に其第一版を發行されることになつた。

一七七八年、彼はスコットランドの關稅委員に任命され、エチンバラに居を定めた。一

七八四年、彼が還曆に達したとき、彼の母は九十歳の高齢で死んだ。一七八七年に彼は、母校たるグラスゴー大學の總長に推薦された。翌一七八八年秋、彼の從妹が死に、彼は全く孤獨となつた。彼はそれでも勉強を怠らず、彼の死によつて遂に現はれずに仕舞つた大著の計畫を進めてゐた。併し『富國論』完成以來著るしく弱つてゐた彼の健康は、終に回復する折なく、一七九〇年七月病床の人となり、同月十七日永眠した。

スミスの經濟學の根本思想は、大抵の人が知つてゐるであらうやうに、利己主義(自愛心)に立脚する自由競争主義である。彼の利己主義の思想は、その當時の功利主義の哲學の影響を受けたのであつて、スミスがグラスゴー大學修業時代に最も思想的感化を受けたのは、同大學の教授たるフランシス・ハッチンソンであつたといはれる。ハッチンソンは當時最も有名な功利主義の哲學者であつた。スミスはまた師ハッチンソンの引合せでダギット・ヒュームと知己になり、非常に親しい交際を續けて、死ぬ時まで變らなかつたことが知られてゐる。ヒュームも亦、功利主義の大哲學者で、ハッチンソンとは同年代の人でスミスにとつては先輩である。

スミスは、『富國論』中でも言明してゐる如く、『自然の法則』を信じた。人間は自愛心す

なほ己れを利するの性情をもつて居り、各人が自愛心を正當に働かせることにより、社會の最大幸福は自然と齎らされると考へた。經濟的行爲に於て、各人は各々自己の利益を追求する。そして人間といふものは——他の動物には見られない所の——物を交換しようとする性情を持つてゐる。だから人間は、己れが生産するに最も都合の好い、自己の得意とする所のものを生産し、之を矢張り同様にして生産された他人のものと交換する。各人の自由が完全に認められ、各人が正當に働くことを妨害さへされなかつたら、各人は各々その得意の仕事に精を出し特長を磨いて益々多くの生産を得、相互に交換するから、人々が獲得し消費し得る財貨の量は非常に豊富になる。即ち社會の物質的幸福が大いに増進される。自愛心と自由とは彼の經濟學說の根幹であるといつて好い。だから彼は獨占、自由の干渉束縛を排する。國內では、同業組合法などが、少數の人々にある特權を與へて、多數の競争者が入り來ることを妨げることを惡とし、外國との交貿に於ては、一國が特に自國內の商工業者を保護するために、外國商品の輸入に制限或ひは禁止を加へ、もつて内國の特殊商工業者をして内國市場を獨占せしめるのを惡とした。スミスは、外國貿易もまた、各地方の國々がその國の得意なる生産物——他の國には不足し自國には有り餘るやうな生産物を相互に交換するので、それは各個人がその餘剰生産をもつて他人のそれと交換すると

同様の作用に屬するのであると考へた。だから個人の場合と同様に外國貿易も自由を原則としなければならぬと説いてゐる。それでスミスは、民間に於ける獨占を排するとともに、**政府が人民の經濟行爲に干渉することを排した。**人民の行爲は、それが社會の安寧秩序を亂し、他人の生命財産の神聖を犯すやうな範圍に亙らない限りは、自由に放任さるべきだと唱へた。**政府の爲すべきことは國家を防衛すること、犯罪を防ぐこと、教育その他の事業を爲すことがその主なるものであつて、産業を指導し資本の配置を按配しようとするなどは、身の程を知らない出しやばりだと唱へた。**

次にスミスが取扱つた、「富」、それから富の「生産」、さういふものゝ内容は、現今の進歩した經濟學、たとへばマルクスの經濟學に於ける觀念と異つてゐる。

スミスは「富」或ひは「生産」を、自然現象的に見て、その社會的性質には考へ及んでゐない。彼は一國の富（社會の富といふも同じ）とはその國で、年々生産される所の財貨の量だといつてゐる。「富國論」諸論の冒頭は「國民が年々消費する必需品並びに便宜品を供給する源本は、その國民の年々の労働である。各國民は直接にその労働で生産したものを消費するか、然らざればその労働の生産物をもつて、他國民より購買した物を消費するか、この二つの方法より外にはない」といふ文句で始つてゐる。即ち消費し得べき物質

を年々多量に生産する國民は富み、さうでない國は貧乏なのである。

で、「生産」「労働」といふことも自ら自然現象的になつて来る。労働者がその身體を働かし道具を用ひて土地の上に、また土地の産物の上に労働を仕かけそして物を作り出す。この自然と人間との關係が労働で、それから物の作り出される現象が生産である。今の經濟學の觀念では、もつと社會的に「労働」や「生産」を視てゐる。即ち生産といふことは單に物を作り出すことではなくて、物の「價值」、手取り早く云へば貨幣價值を増やすことだ。物を作り出されても貨幣價值が増えなければ、「生産」した意義はないのである。一定額の金額の資本を下して、材料を買ひ労働者を雇ひ、商品を作つて賣つて、初めの資本よりも何程か多額の、即ち餘剰の價值を伴つた金額を回收する。生産の目的は即ちこの「餘剰價值」にある。所で労働者といふものは、この餘剰價值を生産すべく、資本家に雇はれ一定の賃銀でその労働力の使用を資本家に委し、その命令の儘に働く。労働者は既にその労働力を資本家に賣つて仕舞つてゐるので、彼の労働の結果に對し、彼は何等の權利も關係も持たない。

スミスは「労働賃銀」はその労働の結果に對する労働者の分前であるとし、「利潤」は資本に對する資本所有者の分前であるとし、「地代」は土地から生産された物に對する地主の分前であるとしてゐる。で、その労働、利潤、地代の實質收入は、貨幣額ではなくして、それによつて支配又は購買し得る他人の労働量——スミスはこの言葉をよく使つてゐるが労働の結果たる「財貨」といふも同じである。スミスは、或る財貨の價值は、その財貨の生産に含まれてゐる労働の量と等しいと考へる——である。貨幣は單に、名目賃銀、名目利潤、名目地代を示すに過ぎない。

かう云ふ次第で、スミスが「富國論」で論じてゐる所は「價值」「労働」「生産」「利潤」「資本」等、社會的關係を離れては考へることの出来ない——社會的産物といつても殆んど差がない所の題目の、社會的方面の研究ではなくて、その自然現象的方面である。マルクスの「資本論」とはこの點で正反對だ。

是れだけの事は、「富國論」を讀むに就て念頭に置く必要がある。さうでないといふと、現今我々が使用した聞かされる「労働」「生産」その他の言葉の内容と、スミスのそれと混線して分らなくなる。勿論スミスの觀念は現今の我々のと全く關係を絶したものではない。スミスの觀念から我々のそれが進化して來て、たゞその祖先と大分毛色が變つて來たのである。

目次

結 言

第一章 分 業 論

第一節 分業の効果…………… 3

第二節 分業の原因…………… 10

第三節 分業の範圍…………… 13

第二章 貨 幣 論

第一節 貨幣の必要…………… 15

第二節 金屬貨幣…………… 17

第三章 價值及び價格論

第一節 價 値…………… 20

Handwritten signature and notes:
At the end of the page, there is a handwritten signature in cursive, possibly reading 'Takemura', and some illegible handwritten notes below it.

第二節 眞實價值即ち勞働價值……………二

第三節 價格の組成分……………三

第四節 自然價值と市場價值……………六

第四章 勞働賃銀論

第一節 勞働の報酬……………八

第二節 勞銀の決定條件……………一三

第三節 高い勞銀、高度の生産力……………一四

第四節 眞實の勞銀……………一五

第五節 勞銀騰貴と生産力増進との相殺……………一六

第五章 利潤論

第一節 資本と利潤との關係……………一六

第二節 各國々情と利潤との關係……………一七

第三節 金利を昇騰せしむる諸原因……………一八

第四節 法律制度の不備に因る高利……………二二

第五節 普通利潤の最低限……………二七

第六章 異なる産業間に於ける賃銀と利潤

第一節 賃銀及び利潤の平均化……………二七

第二節 産業の性質より起る不同……………二八

第三節 政策より起る不同……………三七

第四節 農村及び都市の利潤平均の傾向……………三三

第五節 人爲的に競争を増加する政策……………三九

第六節 賃銀及び物價の公定……………四六

第七章 地代論

第一節 地代の性質……………四九

第二節 常に地代を生ずる土地生産物……………一〇三

第三節 時として地代を生じ、時として地代を生ぜぬ土地生産物……………一〇七

第四節 常に地代を生ずる生産物と、時として地代を生じ、時として地代を生ぜぬ生産物との間の價值比例の變動……………一七二

第五節 實收地代増加の傾向……………一七三

第八章 資本論

第一節 概説……………一七三

第二節 資本の發生及種類……………一七六

第三節 資本の蓄積——生産的勞働と、不生産的勞働……………一七六

第四節 金利資本……………一七九

第五節 資本の用途……………一八〇

第九章 重商主義論

第一節 富と貨幣との同一視……………一八一

第二節 貿易均衡説……………一八二

第三節 競争と貨幣……………一八四

第四節 外國貿易より得る眞の利益……………一八七

第十章 保護貿易論

第一節 内國市場獨占の效果……………一七二

第二節 保護關稅の必要な場合……………一七七

第三節 貿易均衡上から加へる輸入制限……………一八二

第四節 貿易均衡説の不合理……………一八五

第十一章 重農主義論

第一節 重農派の由來……………一八八

第二節 重農派の所謂生産……………一九〇

第三節 重農派の政策……………一九九

第十二章 租稅論

第一節 租稅徵收の原則……………一九〇

富 國 論

アダム・スミス
神永文三譯述

第二節	土地收入に課する租税……………	二〇六
第三節	家屋の賃貸に課する租税……………	二〇九
第四節	資本より生ずる收入に課する租税……………	二一四
第五節	特種營業の利潤に課する租税……………	二一六
第六節	勞働賃銀に課する租税……………	二一九
第七節	消 費 税……………	二二三

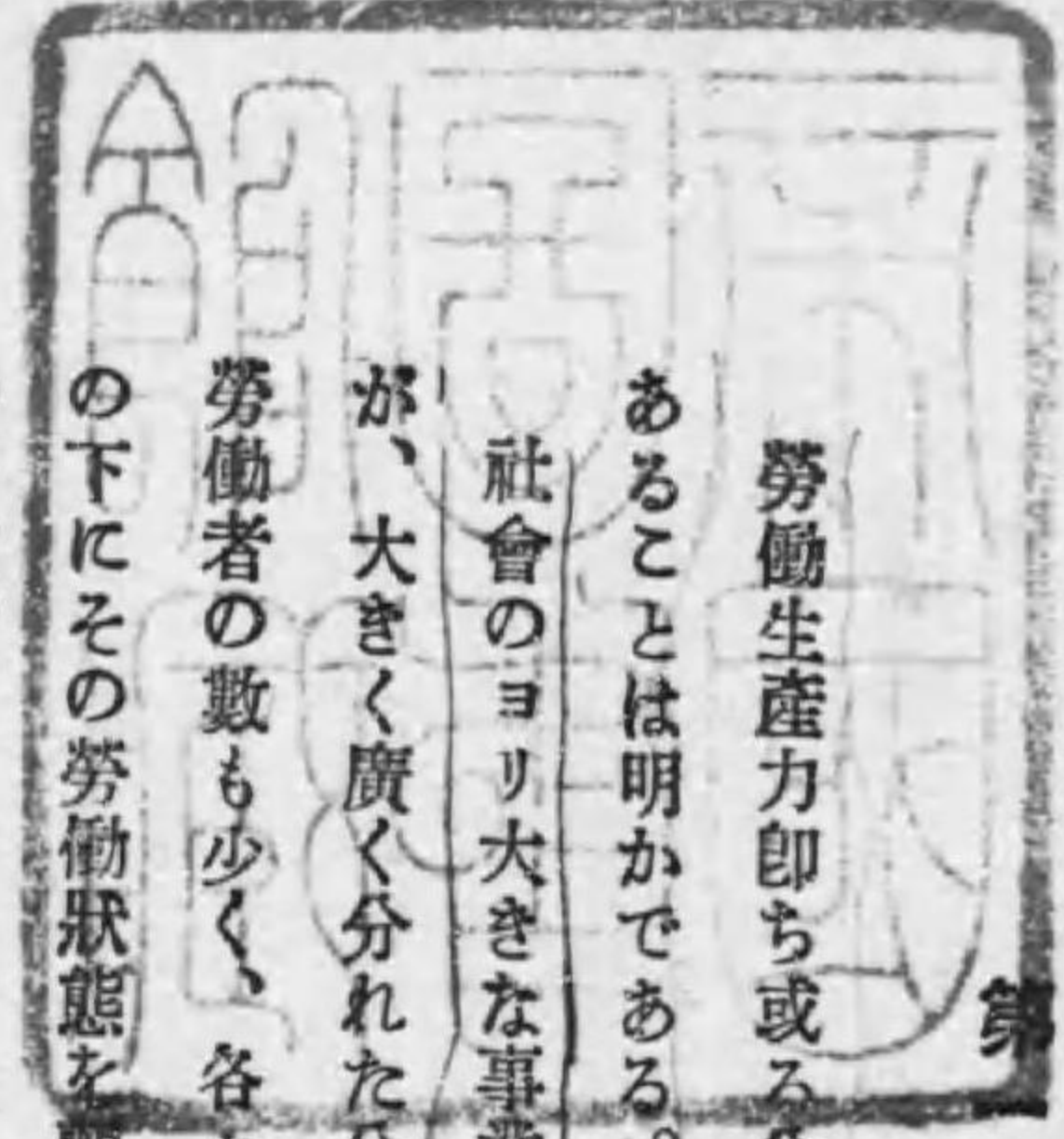
— 目次了 —

誤譯多し
注意せよ

第一章 分業論

第節 分業の效果

労働生産力即ち或る分量の労働が物を生産し得る力の増進は、分業の發達に俟つものであることは明かである。



社會のヨリ大きな事業ほど、分業は大仕掛に複雑に行はれ、その効果も大きいのであるが、大きく廣く分れた分業は、一般の人の眼には明かに入り難い。小さな製造業などでは労働者の數も少く、各々異つた部分を擔任する職工も一つ工場に集めることが出來、一目の下にその労働状態を觀察することが出來る。しかし大製造業にあつては、一部分を受持つ労働者だけでも、一工場に集合させることが出來ない程多數に上ることもある故に、吾吾が一目の下に觀察し得るのは、單に一局部の労働に従事する者に過ぎない。されば大製造業では實際小製造業よりも多くの部分に労働が分れてゐて、十分にその分業の状態を觀

察することが出来ないのである。

それで茲に、最も単純な製造業で、何人にも熟知されてゐるピン製造業に就て一の實例を提出する。ピン製造に就ての特別の熟練も、またその器械の用法にも通ぜぬ素人は、一日一本のピンを作ることも困難であらう。況んや一日二十本を作ることは、到底不可能である。しかし實際は、今日のピン製造は全體の仕事が一の特殊な職業であるばかりでなく、その職業がまた幾つかの小部分に分れ、各々特別の仕事となつてゐるのである。即ち分業が行はれてゐるのである。

一人の者が針金を引出せば、一人は之を眞直に伸し、三人目のものは之を所定の長さに切斷し、四人目の者は切斷した針金の一端を尖らし、五人目の者は頭をつけるために上部を磨く、そして頭をつくる爲めには又、二三の異なる手数をかける。それから頭をつける者、漂白する者、紙に包む者、何れも重要な仕事であつて、一本のピンを作り上げるには、十八箇からの手数を要する。そしてある工場では、一人一役づゝを受持たせるが、ある工場では一人の職工に二三の仕事を兼ねて受持たせる。

私(スミス)は嘗て、僅かに十人の職工を使用する工小場を視察したことがある。小工場のことでは職工も少なかつたので、一人の職工が二三の仕事を担当してゐた。貧しい工場では、必要な器械さへ十分には備つてゐなかつたに拘らず、彼等は一日十二パウンドのピンを製造し得るといつてゐた。一パウンドのピンは、中形のもので四千本以上を含んでゐる。だから彼等は十人の頭數で一日四萬八千本以上のピンを作る譯で、一人に割當てれば一日四千八百本以上を作り出す勘定になる。

彼等がもし、各々孤立して作業に従ひ、且つ仕事に對する特種の習熟を受けて居なかつたならば、さきにも云ふ通り、彼等は一日二十本を作り得ないのは勿論、一本を作ることさへ困難なのである。換言すれば、彼等が今日適當な分業の結果として作り得る數の二百四十分の一を作り得ないのは勿論、四千八百分の一を作ることさへ困難なのである。

分業がどれほど労働生産力を増加するものであるかは、右の實例でも知らるゝ通りである。どうしてそれ程労働能率が激増するかといふと、それは左の三つの事情に因るのである。第一は労働者の技巧の進歩すること、第二は一の作業から他の作業に轉ずる間に失はれる時間を省約すること、第三は機械の採用を促すこと、これである。

労働の技術の進歩が生産力を増加するのは云ふまでもない。そして技術の進歩は主とし

て、分業によつて促進されるのである。何故といふに、分業は各個の労働者が受持つ仕事を單純にし、且つ同一仕事を繰り返しいつ迄も從事し得るやうにするからである。普通の鍛冶工で、鐵槌を振ることには慣れてゐても、釘を製作したことはない者が、何かの事情で釘を作るべく餘儀なくされたとする。恐らく彼は、一日二三百本を作り得るに過ぎないだらう。釘を作つたことはあつても其道の専門家でない者に作らせたら、恐らく一日千本位しか作れぬであらう。然るに之を専門の釘鍛冶に作らせたら何うであるか。私は二十歳以下の少年で、一日二千三百本も製作するのを見たことがある。これは決して稀有の場合ではない、普通に見られることなのである。

第二、一の作業から他の作業に轉する間に失はれる時間を節約することの利益は、世人が想像するよりも大なるものである。異なる道具で、異つた場所で行はれる一の作業から他の作業に轉することは、決して迅速に爲し得るものではない。何人でも一の作業から他の作業に移るに當つては、多少間諛つくものである。そして新たな仕事に手を着けた頭初には、何となく仕勝手が悪く、仕事に油が乗るまでには多少の時間を要する。是等の事情が仕事の効果を減ずることは甚だ大なるものである。田舎の労働者の多くは一日のうちに

幾度も道具を取換へ、幾度も異つた作業に從事しなければならぬ境遇にあるので、必然の結果として、其逡巡と緩慢は習慣となり、急ぎの仕事にも銳意熱心になることが出来なくなる。技巧熟練に關することは暫く措くとしても、この一事だけでも作業の効果を減ずることは甚だ大といはねばならない。

第三に、適當な機械を用ゐる爲めに如何に作業上に便利を得、勞力を節約するかは何人も知つてゐることで、別に説明するものはない。だが、斯様に便利な機械の發明は、主として分業に負ふ所が多いといふことを云ひたいのである。多種多様のことに心意を散らすより、一事に注意を集中した方が、目的を達する手段方法を發見するに容易であるのは勿論である。そして分業は自然に人をして、最も單純な一目的に注意を集中せしめる故に、隨つて其從事する仕事に改良の餘地ある限りは、改良手段を發見せしめる傾向がある。一職工がその取扱ふ機械に就て、有益な改良を發明することのあるのは、多々ある事實である。始めて消火用ポンプが發明された頃には、是を使用するに當つて、唧子の上下する毎に、汽罐と汽筒との間の連結を開閉するために、小兒の手を用ひたものである。或時一人の小兒が其役目を守つてゐたが、何とかして手を用ゐずに瓣が開閉し、そして自分も他の

子供のやうに遊べる工夫はないものかと考へた。ふと彼は、此連絡箇所を開閉する柄の部分より、機械の他の部分に紐を連結すれば、瓣は自ら開閉するであらうと氣附いた。さうして、消火ポンプ發明以來の一大改良は、小兒が遊びに耽らうため、其勞力を省かうとする動機から成し遂げられたのである。

しかし機械の改良發明はすべて、機械を使用する人々に依つてのみ成し遂げられたのではない。機械製造が一の獨立職業となるに及んでは、是等製造家の工夫によつて幾多の改良が案出された。また學者、思索家等によつて發明された機械も少くない。彼らは他の人々と異つて、物を考へることに一身を傾注する便宜を有し、しかもその思索方面も社會の進歩に従つて幾多の専門的部門に分立され、各部門がそれ／＼専門職分となるので、産業方面に於けると等しく、學問の進歩も一層速かとなるのである。

今日の文明國の普通労働者の生活品を見ると、その製出には無數の人々の参加してゐることが分る。例へば彼が身に纏ふ粗末な羅紗服を見ると、それには無數の労働の手がかゝつてゐる。牧羊者、羊毛を選り分けるもの、是を梳くもの、染色するもの、紡ぐもの、織るもの、漂白するもの、衣服に仕立てるもの、其他様々の労働者が之に關係してゐる。如何に單純な生活でも、文明國に住する者は、數千數萬人の共働補助なくしては立ち行かないのである。王侯の生活に比すれば労働者の生活は比較にならぬほど單純である。しかも文明國に於ける微賤な一職工の生活は、亞弗利加土人の王侯の生活に比すれば遙かに複雑である。

進歩せる文明國の社會が一般に富裕で、最下級の労働者でさへ、生活必需品を得るに苦しまない所以は、分業の結果として、凡ての事業より生ずる生産高が非常に増加する結果である。各労働者はその労働の結果として、その必要以上の物資を生産する故に、自己に餘れる物と、他の餘れる所とを交換する。斯くて、一人は他の者に向つてその需要する所の物資を十分に供給し、他の者は亦彼に向つて彼の需要する所の物資を十分に供給する故に、社會は全階級を通じて、必要を充足することが出来るのである。

文明國に於ては常に分業の進歩を見るが、産業によつて分業進歩の程度を異にするものがある。農業に於ては、家畜を飼ふことと田を耕すことは、工業に於ける鍛冶と建築との如く截然區別することが出来ない。耕し、鋤き、播種し、收穫することは、多く同一人によつて爲される。農業は其種々なる作業が同時に並存するのではなくて、季節々々によつ

て作業を異にするのである故、一人の者が断えず同一作業に従事することは出来ない。従つて分業を行ふことが不可能なのである。思ふに、農業の生産力の進歩が工業の夫れに伴ふことが出来ないといふ現象は、全くその産業の性質によるのである。富める國民は、概して農業に於ても工業に於ても卓越するものであるが、殊に其工業に於て優秀なるを常とする。其土地はよく耕され、多くの労働と資本とが投下され、随つて其廣さと天然の地味の割合に多くの收穫を得るのが常であるが、しかも其増收の割合は、投下されたる労働、資本の割合に勝ることは稀である。進歩せる國民の労働は、必ずしも工業生産の如く、農業の生産物を増すものではない。故に進歩せる國の穀物は、其品質が同等である限り、必ずしも遅れた國よりも廉價ではない。

第二節 分業の原因

前節に述べたやうな莫大な利益を與へる分業は、其結果を豫見して社會の幸福のために人類が其智慧を振つて案出したものではない。それは一見、斯様に莫大な利益を齎すだらうとは思はれない所の、人類自然の性情から徐々に發達し來れる必然の結果である。

然らば其の自然の性情とは何であるかといふに、それは人々が互に物を交換しようとする傾向に外ならない。この傾向は、更にそれ以上に遡るべき原因を有せぬ本原的の性情であるか何うかは茲に論ずる必要はない。何にしてもこれは人類一般の性情で、他の動物間に決して見出すことの出来ないものである。

人は常に他人の助力を乞ふ必要を感じる。しかもその助力は、他人の恩恵に依頼して是を得ようとしても得られるものではない。彼れの要求に應ずるのは、自ら利する所以であることを知らしめて、他人の自利心に訴へるの外はない。凡て賣買交換はかく自利心に訴へることによつて成立するのである。「吾れに吾が求むる物を與へよ、さすれば君は君が要する所の物を得るであらう」と。斯くて吾々は吾々の要する所の物の大部分を得るのである。吾々が必要な飲食物を得るのは、肉屋、パン屋、酒屋の恩恵によるのではない。彼ら商人自身の利益によるのである。吾々は彼らの恩恵に頼らずに、彼らの自利心に訴へる。

吾々の必要品の大部分は、斯く相互の交換、契約、賣買によつて得られるのである故に、分業の起る原因は全く人類が交換を求めむる性情によるのである。例へば遊獵種族の中で、他人よりも勝れて速く且つ巧妙に弓矢を作る男があるとする。彼はその作れる弓矢と、他

人の家畜或は野獸肉と屢々交換するとすれば、彼は遂には、自ら山野に駆け廻つて狩獵するよりは、家に坐つて居つて弓矢を作り、それをもつて他人の獲物と交換した方が、遙かに有利であることを覺えるに至るであらう。斯くして彼は、その一身の利益上より打算して弓矢を作ることを其職業とするに至るのである。或は又家屋を作るに妙を得た者があるとするれば、自然に彼等の仲間より家を作ることを依頼されその報酬として獸肉を得ることがあるべく、弓矢作りの場合と同様にして、遂には一箇の大工となるのである。斯様にして或者は鍛冶屋となり、或者は製革者となり、或者は裁縫者となる。換言すれば自己の生産物の餘剰をもつて、他人の餘剰物と交換し得ることが確實となれば、何人も自己に最も適當な特殊業務に身を委ね、益々その特長を練磨發達せしめんとするに至るのである。

人の天賦の才能なるものは、普通世人が考へてゐるやうに、それ程相異のあるものではない。人が特種の仕事に對して獨得の技倆を有するときは、一の天才と見做されるが、其實、分業の結果である場合が多い。哲學者と市井の勞働者との間には、その能力上に大なる相違があるが、天賦によるよりは習慣教育に負ふ方が一層多いといふべきである。しかるに若し人類に交換交易の性向がなかつたならば、人は皆その必需品を自ら製作獲得しな

ければならない。そして凡ての人が皆同様の作業に従ひ、同様の業務を果さねばならぬ。才能の上の相異も隨つて、著るしくはならない。

人の此の傾向は、異なる仕事に従事する者の才能をして、非常の相異を生ぜしめると同時に、亦その相異をして有用ならしむるものである。

人類以外の動物に於ては、同種類に屬する異種族間に於ける天賦の才能の相異が、人間よりも甚だしいものがある。例へば犬のうちで、「マスチフ」と「グレーハウンド」、「グレイハウンド」と「スパニエル」、「スパニエル」と「牧羊犬」とは、其天性の相異すること、到底人間の哲學者と勞働者の比ではない。しかし是等の犬屬が、互に其才能の相異を利用して、長短相扶け、有無相通するといふことを聞かない。それをするのは只だ人類のみである。人類には、互に交換せんとする性向がある故に、各異なる能力によりて生産された異なる物品が、互に交換賣買され、異なる能力の協力を現すのである。

第三節 分業の範圍

分業の原因は交換力にある故に、分業の行はれる範圍は交換力の廣狹によつて制限され

る。換言すれば分業の範圍は市場の範圍と同一でなければならぬ。市場とは商品の流通交換される範圍のことである。市場が甚だ狭小な場合には、自己の生産の餘剩をもつて、他人の生産の餘剩と交換する機會が十分與へられない故に、何人も専心して、専門の仕事に従ふわけには行かない。市場の範圍が擴大されるに従つて分業は發達し、産業は隆盛となるのである。

經濟發達の遅れた田舎では、人々が皆その家族の爲めに屠殺者となり、パン焼きとなり、醸造者となる。斯る地方では、鍛冶屋、左官、大工等の如きものすら、數哩も離れなければ他の同業者を見出すことは出来ない。都會ならば、直ちに他の労働者を備つて來て濟まされる種々の仕事も、各隣家から何十丁も離れた田舎では、自らしなければならぬ。田舎の職工は大抵、同種の材料とするあらゆる仕事に従ふのを常とする。大工は木を以てするあらゆる仕事をし、鍛冶屋は鐵を以てするあらゆる仕事をする。

市場の廣狹如何は、交通運輸の便の如何によつて左右される。何程餘剩の生産をしやうとも、之を他に運んで他物と交換する便がなければ仕方がない。

水運の便は、陸運に比して一層有利である。八頭立て二人の御者の乗組む荷馬車に、四噸内外の荷物を積み、倫敦とエチンバラの間を往復するとすれば六週間を必要とするが、六人乃至八人乗組の舟で倫敦とライスの間を往復すれば、同じ六週間のうちに二百噸の貨物を運ぶことは困難ではない。さればもし水運によつて倫敦とエチンバラとの間を往復するとすれば、同時日の間に六人乃至八人で、五拾臺の馬車が百人の御者と四百頭の馬で運ぶと同量の貨物を運送することが出来るのである。

水運の便は斯様に大である。されば其産物を世界の各地方に向けて輸送する便宜を有した海岸地方が、内陸地方に比して早く經濟上の發達を來したのは毫も怪しむに足らない。内陸地方では、往時鐵道の開けなかつた頃には、不完全な道路に馬車を駈るか、小さな舟を河川に浮べるかの外、交通運輸の手段はなかつた。従つて一地方の産物が他地方に届く距離が短く、即ち市場の範圍は狭く、經濟的進歩が遅れざるを得なかつたのである。信ずべき歴史に徴するも、最も早く開化した國民は地中海沿岸に住した。地中海は甚だ多くの港灣と島嶼とを有し、未だ航海術の幼稚であつた時代の航海者にとつて、最も安全な海であつたのである。

第二章 貨幣

第一節 貨幣の必要

分業が確立するとともに、各人が自己の労働によつて生産する物は、其需要の一部分を充すに過ぎなくなる。其需要の大部分は、自己が生産する所の餘剩をもつて、他人の生産の餘剩と交換して之を得る。斯くて凡ての人が交換に立脚した生活をする事となり、各人が或程度に於て商人となり、やがて社會そのものが一箇の商業社會となる。

然し分業の行はれ始めには、交換の實行上屢々不都合に出くわすことを免れない。此處に一人があつて、自己に必要であるよりも以上の物品を所有し、また他に一人があつて、該物品に不足を感じてゐると假定する。前者は固より所有品を手放さうと望み、後者は之を手に入れやうと望んでゐる。併し若し後者が、前者の欲するやうな物品を持たなかつた場合には、此二人、間に交換は成立しないであらう。肉屋は其家族の需要を充して餘りあ

る肉を持つてゐるし、酒屋は、何程かの肉を得たいと思つてゐる。しかし酒屋は、酒を持つてゐるのみで、他に交換すべき何物も持つてゐない。所が肉屋は酒嫌ひで酒に用はないとする。此場合彼等の間に交換は成立しないことは明かである。肉屋は酒屋の爲に商人たり得ず、酒屋は肉屋の爲に顧客たり得ないのである。

斯様な不都合を除くために、分業が行はれるやうになつて以來、斷えず人々の間に、彼等自ら生産する物品の外、世の中の大多數が何時でも喜んで引取することを望むやうな物品を備へようと企てられたのは、當然である。

第二節 金屬貨幣

思ふに幾多の物品が、此目的に用ひられんとし、亦實際に用ゐられたであらう。昔し家畜が此目的のために使用されたことは、普く人の知る所で、物品の價格が家畜の頭數で云ひ表はされたことのあるのは、吾々の屢々發見する所である。例へばホーマーの云ふ所に據ると、ダイオメデスの甲冑は僅か牡牛九頭に値し、グラツカスの甲冑は牡牛百頭に値した。アピシニアでは鹽、印度の海岸地方の或所では一種の貝殻、ニューファウンドランドでは

干鱈、ヴァージニアでは煙草、西印度植民地の或所では砂糖、又或國では獸皮を交換の用具として用ひた。

併し乍ら總ての國に於て、或る不可抗的の理由に依り、金屬が他の一切の財貨に代つて交換用具に用ひられるに至つた。蓋し金屬は他の財貨に比して貯藏に便利で、減損するところが最も少く、そして分割することも結合することも自由である。任意に分割し結合し得るといふことは、永續性に於て金屬同様であつても金屬以外の財貨の決して具へぬ所の性質であつて、此性質こそ金屬をして他の財貨に勝つて商業及流通の用具たるに適せしめるものである。例へば鹽を買ひたい人が家畜以外に交換に提出し得る何物も持つてゐないとすると、其人は一頭の牛又は羊に相當する鹽を一時に購買しなければならぬ。何故なれば、彼は、家畜を殺して非常にその價値を減損しないでは分割することが出来ないから。同じ理由で牛一頭に相當する鹽の量以上の鹽を買はうとするには、その二倍或は三倍の量を買はねばならない。則ち二頭或は三頭の牛に相當する鹽を買入れねばならない。しかるに牛や羊の代りに若し彼が交換に提出し得る金屬を持つてゐたとすれば、彼は適度に其金屬を分割或ひは結合して、所要の鹽と交換することが出来る。

各國民はこの目的のために、種々なる金屬を使用した。古代スパルタでは鐵は商取引の共通用具であり、古代ローマでは銅を用ひ、そして金銀は凡ての富んだ國民の間に、商取引の共通用具として使用された。

是等の金屬ははじめ、粗製の棒金の儘で使用され、何等刻印もなく又現今の貨幣のやうに鑄造されもしなかつた。

金屬の棒金が牛羊等の代りに使用されるに至り、大いに便利となつたが猶未だ二箇の重大な不便が残存するを免れなかつた。一つはその重量を量らねばならぬことで、二つはその品質を吟味せねばならぬことである。分量が少くて價格の大なる金屬は、受授には甚だ便利であるが、若しそれを一々秤量せねばならぬとすると、餘程精確な秤器を要する。少しばかりの重量の相違が左程苦心にならない鐵のやうな金屬は、金銀の如く精確なるを要しないが、一錢二錢の物品を賣買するのに一々目方を秤量せねばならぬとしたら、何人もその煩はしさに堪へぬであらう。

若し夫れ品質を吟味する段に至つては、困難は一層大である。金屬をルツポに入れて溶解して見なければ、その品質を確かめることは出来ない。しかし詐欺にかゝるまいとすれ

ば、困難でもそれをしなければならぬ。或物品の代價として一ポンドの金を受取つた積りで、其實外面だけ金に見せ掛けた粗末な金属を受取ることがないとも限らない。斯る不正を防ぎ、交換の方法を便利にし、商工業の進歩を促すために、進歩せる國民にあつては、其國內に流通する特種の金属の一定分量に、刻印を押す必要を感じるに至つた。

最初の間は此通貨の刻印は、金属の品質を保證するに止つたやうである。金銀の地金の一部だけに刻印を押して全面を覆はず、またその品質を證明するのみで重量を記さなかつたので、夫れは分る。それで金属貨幣はなほ、取引に當つて一々秤量する必要があつた。

かく是等の金属を正確に秤量することの困難と不便は、「鑄造貨幣」制度の發生を促したのである。鑄造貨幣の刻印は貨幣の両面を全く被うてゐるのみならず、往々その縁までも被ひ、品位ばかりでなく重量をも確證するものとされた。それ故かゝる鑄造貨幣は、もはや秤量するの面倒がなく數で受授されるやうになつた。

是等の鑄造貨幣の名稱は、もと此貨幣の含有する金属の量目を表はしてゐたやうだ。ローマで最初に貨幣を鑄造したセルピウス・テリウスの時代には、ローマの貨幣なるアス又

はポンドは純良なる銅のローマの一封度を含有した。此重量の單位たるローマの一封度は、英國の封度同様に十二オンスに分れ、每一オンスは良質の銅を實際一オンス含有してゐた。英國の英貨一磅はエドワード一世の時代に於ては、一定品位の銀をタワー衡で一封度含有してゐた。英蘭、佛蘭西、蘇格蘭の鑄造貨幣たるベニーも亦凡て、純銀一ベニー（重量の單位）だけ含有してゐた。一ベニーは一オンスの二十分の一に當り一封度の二百四十分の一に當る。又志（シリリング）なる貨幣の名稱も本來は一定量目の名稱であつた。ヘンリー三世の法律によると、小麦一クオーターにつき、十二シリリング（價格）なる時は、一フ、アーチング（價格）の純良なる白パンの重量は、十一シリリング四ペンス（共に重量單位）たることと定められてゐた。

しかし鑄造貨幣たる志と片及び志と磅との間の比例は、片と磅との間の比例のやうには不易一様ではなかつたやうだ。例へば佛蘭西王國時代には、佛蘭西の鑄造貨幣たる一スウ即ち志は、或時には五片、時としては十二片、別の時には二十片或は四十片に當つたやうだ。佛蘭西ではカール大帝以降、英蘭ではウキリアム・ゼ・コンクエラー以降、志片碎間の比例は今日と等しく一定してゐたやうだが、併しその實質價值には大差があつた。といふ

のは、帝王がその臣民の信用を悪く利用して、一定名目の貨幣の中に含まれる金屬の純分を減少させたからである。英蘭の磅貨幣と片貨幣とは、今では本來の價値の三分の一、蘇格蘭の磅貨幣と片貨幣とは本來の價値の約三十六分の一、佛蘭西の磅貨幣と片貨幣とは本來の價値の約六十六分の一しか含有してゐない。この様に貨幣の實質價値を減少させることによつて、君主及び政府は、貨幣の名目價値を増加し、從來よりも少量の金銀を以て其債務を辨償し支拂ひをすることが出來た。政府のみならず、一般國民もこの名目と實質の伴はない貨幣で支拂ひすることが出來た。曾て舊良貨で借りた如何なる債務も含有量の少い惡貨で支拂ふことを許され、債權者にとつては甚だ都合の悪い事實を示した。昔一萬磅の貨幣に換算される財産を所有した者と、現今一萬磅の貨幣に換算される財産を所有する者との、實際に所有する價値は、かくて非常に徑庭あるものとなつたのである。今日の「一磅金貨は昔の如く一封度ポンドの重量の純金を含んでゐないで、たゞ國法によつて、一磅金貨なる名稱を與へられてゐるにすぎないのである。

斯様にして、右に述べたやうに鑄造貨幣はあらゆる文明國民間に於ける一般的共通的の商業用具となり、そして此貨幣なる取引用具の媒介によつて、あらゆる種類の財貨が賣買交換されるに至つたのである。

我々はこの貨幣を用ひて、他のあらゆる財貨の價値を定める。あの品物は幾磅の價ひがあるとか、この勞働は幾片に價ひするとかいふ風に。しからば斯様に財貨の價値を決定する標準は何であるか、即ち財貨の交換價値を決定するものは何であるか。次章でこれを研究する。

第三章 價值及び價格論

第一節 價 値

人が物を交換するに當つて、自然に注意するところの交換の標準は何であらうか。この標準こそ、物の相對的價值即ち「交換價值」を定めるものである。

價值といふ語は、二つの異なる意義を持つてゐる。時としては或物品の効用を言ひ現はし、時としては或物品の他物品に對する購買力を言ひ現はすに用ゐられる。前者は「使用價值」と云ふべく、後者は「交換價值」といふべきである。効用上偉大な價值を有するもので、交換上極めて僅かの價值を有し、或ひは全然價值を持たないものがあり、之に反して、交換上に重大な價值を持ちながら、効用の點では極少の價值しか持たず、或ひは全然これを持たないものがある。例へば水の如きは、その効用莫大であるが、水をもつて他の何物も購買することは出来ない。之に反してダイヤモンドは効用上何等價值のないものであるが、是をもつて他の多くの物品と交換することが出来る。

交換價值を支配する法則を知るには、吾々は左の問題を解釋しなければならぬ。

第一、交換價值の眞實の尺度は何であるか。換言すれば、凡ての物品の「眞實價格」は何によつて成立するか。

第二、右の眞實價值を組成する組成分は何々であるか。

第三、此等の價格の諸組成分の或もの、又は全體をして、時としては其自然率或は普通率より高からしめ、時としては其以外に低落せしめる事情は何々であるか。換言すれば物品の市場價格をして、其自然率と合致するを得ざらしむる事情は何であるか。

第二節 眞實價格即ち労働價值

人は其生活上の必要、便宜、享樂を満足せしむべき事物を享受する程度に従つて、或は富むといはれ、或は貧しいといはれる。しかし分業がひと度び完全に樹立されるに至つてからは、各人が自身の労働によつて調達し得るものは、彼れの生活必需品の一部分に過ぎず、大部分は他人の労働によつて生産されたものを、交換によつて獲得する外はないの

である。したがつて彼が富めると否とは、彼れがそれによつて他人の労働を購買又は支配し得る財貨を多く持つか少く持つかによつて決定されるのである。だから或る財貨を所有し、これを自ら使用又は消費せず、他の財貨と交換しようと欲する者にとつての其財貨の價値は、其財貨が彼れに購買又は支配し得しむる他人の労働量に等しい。

各財貨の眞の價格、即ち之を得ようとする人に對する眞實の代價は、其財貨を獲得するに要する困難と骨折りである。各物が、是を所有して居て之れを手放し或ひは他物と交換しようとする人にとつて、眞實に價値ある所以は、此物が其人に右の骨折り及び困難を省いて、之を他人に負擔せしめ得るにある。吾々が金錢で買ひ、若くは物品を以て交換する所のは、自ら身體を勞して獲得したものと等しく、何れも労働によつて購買する譯で、只だ其金錢と物品とが吾々をして勞作に服することから免れしめるのである。即ち其金錢若くは物品は労働の或る分量を含有するもので、吾々は、夫れと同等の労働分量を含有すると想像する他の物品と交換するのである。労働は最初の代價、凡ての物品に向つて支拂はるべき原始的貨幣である。世界の凡ての財貨は、元來金銀によつて購買されず、労働によりて獲得されるのである。そして、是を所有し或他の物と交換しようと欲する者がある

ならば、其物が其人に對して有する價値は其人をして、他の物品を獲得することを得しむるに足る労働の分量と全く等しいのである。

ホップスが云つたやうに、富は力である。しかし大なる財産を獲得し若くは繼承した者は、必ずしも政治上、社會上に勢力を有するわけでない。彼が財産を持つてゐるといふことは、單にそれだけで勢力とはならないのである。財産を所有することによつて、彼が直接に得る所のは購買力である。即ち市場にある労働力と、労働の結果たる生産物に對する支配力である。彼の財産の大小と、この支配力の大小とは正確に比例する。換言すれば、彼れが購買若くは支配し得る他人の労働分量、即ち他人の労働によつて生産された物品の多少に比例して、彼の富は大となり、また少となるのである。

各財貨の交換價値は常に、其所有者に與ふる右の支配若くは購買力と同一なのである。かくて、凡ての財貨の交換價値を定める眞の尺度は労働である。しかし實際に於ては、財貨の價値が常に労働によつて計量される譯ではない。二種の異なる労働の分量間の割合を定めることは、屢々困難なことである。二種の相異なる仕事に費やされた時間だけで、この割合を決定することは出来ない。忍ばれた骨折りや、費やされた熟練の程度も、考量に入

れねばならない。二時間の輕易な労働よりは、一時間の困難な、熟練を要する事務の方が遙かに多くの勞力を要する。是を習得するに拾年を要する難しい仕事に一時間從事するのは、何人でも爲し得るありふれた仕事に一ヶ月間從事するのよりも勝れてゐる。然し、骨折りと熟練の程度を計算すべき精確な尺度を發見するのも、容易な業ではない。即ち、種類の異なる労働の生産物を交換するに當つては、精確な尺度を發見することは不可能なのである。そこで實際に於ては、交換の割合は、大體の算定に隨つて爲す所の市場の取引によつて決定されるのである。

且つまた、多くの財貨は、労働夫れ自身と比較し交換されるのではなくて、他の財貨と比較し交換される、彼の牛は米三石に價し、彼の家は馬五頭に價するといふ風に。かくて財貨の交換價値は、労働量によつて計算されるよりは他の財貨の量によつて計算されるに至るのである。

併し物々交換に代つて、貨幣が取引の媒介者として現はれるに及んでは、凡ての財貨は他の財貨と交換されるよりは、貨幣と交換される場合が多くなる。隨つて各財貨の交換價値は、労働又は労働によつて獲得さるべき他の財貨の量によつてよりも、貨幣の量によつて計算されるに至る。かくて貨幣が、一般的の價値の尺度となるのである。彼の家は牛何頭、彼の牛は米何石といふ代りに、彼の家は金何磅、彼の牛は銀何十匁といふ風に、計算されるに至るのである。

然し金銀も亦他の財貨と等しく、價格の變動を免れない。或時は高く、或時は安い。第十六世紀中アメリカに豊富な金銀鑛が發見された爲め、歐洲に於ける金銀の價格は其以前に比して三分の一に下落した。それは金銀を得るに要する労働量が少くなつたので、金銀が市場に現はれて、購買し得る労働の量も亦隨つて少くなつたからである。これは恐らく金銀價格の變動の最大なるものであらうが、然し歴史上金銀價格の大きな變動は決して稀ではないのである。

一步の廣さ、兩手を擴げた長さといふやうな、それ自身變化するものが、他物の分量を計る精確な標準となり得ないと等しく、夫れ自身の價格の絶えず變動する財貨は他の財貨の價値を測定する精確な尺度となり得ない。然るに同分量の労働は、時と處とに關らず、労働者にとつては常に同一價値の筈である（其心身が普通状態にあり、其熟練技術が通常程度であるとき）。彼は常に其安樂と自由と幸福の同一分量を犠牲に供せざるを得ないの

である。彼が代償として受ける財貨の分量の如何に拘らず、彼の支拂ふ代償は常に同一である。それ故彼が労働によりて購ひ得る財貨の分量には時によつて多少の差があるであらうが、變化するのは財貨の價值そのものであつて、是等の財貨を購ふ労働は常に變化しないのである。何れの時代、何れの場所に於ても、是れを得るに多くの労働を要するものは高く、是を得るに少量の労働でこと足るものは安いのを常とする。凡ての時代、凡ての場所を通じて、凡ての財貨の價值を比較計量すべき、最終にして眞實の尺度は、労働を措いて外にはない。労働は究極眞正の標準で、貨幣はただ名目上の價格に過ぎない。

労働者にとつて同量の労働は、常に同一の價值を有するが、是を雇傭する者にとつては、即ち労働を購買するものにとつては、其價值が時には高く、時には安く見える。彼は時には多量の財貨を支拂はねば労働者を使用することが出來ず、時には少量の財貨で使用することが出來る故、彼らにとりては労働も亦他の財貨と等しく、時に代償に高下ある如く思はれるのである。

故にこの通俗の意味で、労働も亦他の財貨と等しく眞實の價格と、名目上の價格とがあると云ひ得るであらう。其眞實の價格は労働に向つて與へられる生活上の必需品及び便宜品の分量より成り、其名目上の價格は貨幣の分量より成るといふことが出來る。労働者は其労働に對する眞實の代償の如何によつて或は富裕たるべく、或は缺乏を感すべく、其名目上の報酬如何には更に關しなく。

第三節 價值の組成分

土地が未だ私有されず、資本が未だ蓄積されない原始時代には、自己の物を他人の物と交換するに當り、交換の割合を定める唯一の標準は、其物を獲得するに要した勞力の多少であつた。例へば狩獵民の社會に於て、一頭の海狸を獵るに要する勞力は、一頭の鹿を獵るに要する勞力の二倍であつたとすれば、一頭の海狸は二頭の鹿と交換されるのである。二日若くは二時間の勞力を要する物品が、一日若くは一時間の勞力で完成し得る物品の二倍に價ひするのは當然のことである。しかし一の労働の性質が、他の労働に比して、一層困難である場合には、自然、二者の間に多少の酌量を加へなければならぬ。一時間労働の生産物が、二時間労働の生産物と交換されることは、斯くして生ずる。

若し又その仕事の性質として、特別の思慮と熟練とを要する場合には、費やされた時間の

割合に比して餘分の代價が支拂はれるのは、當然である。永い年月の熟練によらなければ出来ないやうな、技倆を要する仕事で生産された物品に對して支拂はれる特別に高價な價格は、多くは其熟練を習得するに要する時間と勞力に對する相當の報酬に過ぎない。

かやうに勞働より生ずる生産物の全部が、勞働者に歸屬する状態の下にあつては、或物品を獲得若くは生産するに要した勞力の多少こそは、是れを購買し、支配し、若くは交換せんとする勞力の分量を支配する唯一の事情である。

然るに一度、或特定の人々の手に資本が蓄積されるや、彼等は「働く人」を使用する爲にこの資本を使用するであらう。即ち他人に對して勞働の材料と、勞働期間中の生活費とを供給して勞働に従はせ、自分はその生産品を賣り若くは材料の價値を増さしめることによつて、利益を得んとするであらう。斯様にして出來上つた物品を金錢、勞働、若くは他の物品と交換するに當り、材料と勞働賃銀を支拂つた外に、危険を冒して資本を提供した企業家の手に、何物かが與へられねばならない。かくて勞働者とその勞働によつて材料に添加した價値は、二箇の部分に分れ、一は勞働賃銀となり、一は資本家の利潤となる。資本家は、勞働者の手によつて生産されたものを賣つて、其提供した資本を回収した上、尙

ほ幾何かの利潤を得ればこそ、危険を冒して資本を提供するのである。

「資本利潤」なるものは、畢竟するに、事業の監督指揮の勞力に對する報酬の別名に過ぎぬと考へられるかも知れないが、然しそれとこれとは全く異なる原理に支配されるものである。資本利潤は所謂監督指揮の勞力なるものの分量難易若くは巧拙等とは一向關することなく、全く使用されたる資本の大小に比例するのである。

例へば茲に普通の製造業に於て、毎年一割の利益を擧げ得べき地方に、二種の異なる製造業があり、各々一年百五十圓の賃銀で二十人の勞働者を使用すると假定する。即ち毎年千圓を勞働者に支拂ふと假定する。そして一の製造所では粗製品を製造して、毎年七千圓の費用を要し、他の製造所では精製品を製造して、毎年七萬圓の費用を要すると假定する。此場合に於て、一の製造所では毎年一萬圓の總費用を要するだけであるのに、他の製造所では七萬三千圓の總費用を要するのである。そこで年一割の利益とすれば、一方の製造家は毎年一千圓の利益を得、他方の製造家は七千三百圓の利益を得るであらう。

右の二つの製造業に於て、利益は斯くの如く相異なるが、其監督指揮の勞力に至つては全く異なる所がないか、或は極めて少しの相異しかないのであらう。多くの大製造所では、監

1300

督指揮の任務は、重立つた使用人に委されてゐる。されば監督指揮の労働價値なるものは、彼ら重立つた使用人の俸給によつて代表されてゐると云ふべきである。資本家自身は殆んど何等の勞務にも服せず、しかも其投下資本に比例する利益を收めんことを期待する。利益の大小が資本の大小に比例するのでなければ、好んで大資本を危険に曝す資本家はないであらう。されば物品の代價の構成因子たる資本利潤なるものは、給料とは全く別なものである。

斯る生産事情の下に於ては、労働の結果たる生産物の全部は必ずしも労働者に歸屬せず、多くの場合に於て、労働者は彼を使用する資本家と利益を分たなければならぬ。また或物品を獲得若くは生産するに要した労働分量のみが、他の労働を購買し、支配し、交換せんとするに當つての、唯一の標準となり得ない。賃銀を前拂ひし材料を供給した資本に對する利潤も、其勘定に加へなければならぬ。

一國の土地が悉く何人かの私有に歸するや、地主は其土地の利用に對して代價を要求し、土地の天産物を採取することに對してすら、代價を求めらるに至る。森林に於ける樹木、野草、野生果實等は、土地公有の時代には、只だ之れを採取する勞力だけを支拂へば、何人も自由に享有し得たが、今は何れも労働以外の一定の代價を要することとなつた。されば其採取物を金錢、労働、若くは他の物品と交換するに際しては、採取の勞と、資本に對する利潤とを償ふだけでは足らず、地代即ち地主に對して支拂はれた代價をも計算に加へねばならぬ。斯くて地代は、多くの物品の價格を組成する第三の要素となるのである。

試みに穀物の價格を見る。一部は地代として地主に支拂はれ、一部は労働者の賃銀並に家畜の飼養料に支拂はれ、殘餘は農夫の利益となる。(日本では餘り見られないが、英國では、農業企業家とも云ふべきものがあつて貴族などの大地主から土地を借り入れ、多くの農耕労働者を雇ひ入れて、農業を經營する者がある。茲に農夫といふものはこれである) 斯様にして、穀物の全價格は、以上の三部分から成立する。麥粉の代價に於ては、麥の代價に製粉者の利潤と其使用人の賃銀を加へ、パンの代價に於ては、パン屋の利潤と其使用労働者の賃銀とを加算し、又農家より製粉業者の家まで麥を運び、製粉業者の家よりパン屋まで麥粉を運ぶ勞力と、その労働賃銀に充當された資本に對する利潤とを加算しなければならぬ。

併し乍ら多くの物品中には、利潤と勞賃とのみで成立し、地代を含まないものがあり、

また勞賃のみで成立するものがある。例へば海魚の代價に於ては、其一部は漁夫の賃銀となり、その餘は漁業に對する利潤となり、地代の入ることは稀である。尤も、時としては漁獵に地代を要することも無い譯ではない。漁業權の借區料は、地代と其性質を等うするものである。ところで、河原から石を拾つて來て、石屋に賣つて得る所の代價に至つては全部が勞働であつて、地代も資本利潤も全く關係する所がない。

要するに、如何なる物品の代價も、之を分析すると、利潤、勞銀、地代のうちの二つ、若くは二つ、或ひはその全部より成るのである。故に是を全體として考へれば、一國家が年々其勞働によつて生産する凡ての財貨は、必ず以上の三部分から成立する。而して勞銀、利潤、地代として國內の種々の階級に分配されるのである。されば勞銀、利潤、地代の三つは一切の所得並に一切の交換價值の原本であつて、凡て他の所得は是等の三者若くは其中の何れかから派出し來るに過ぎないのである。

如何なる人でも、其所得を得るには、或ひは勞働より得、或ひは資本より得、或ひは土地より得るのである。而して勞働より得る所得を勞銀と云ひ、資本を自ら運轉して得るものを利潤といふのである。而して自ら資本を運轉せず、之を他人に貸して得る所の所得を

利子といふのである。利子は貨幣の利用によつて得たる利益のうち、借主から貸主に支拂ふ代價である。故に利子は常に、利潤から派生したものである。

土地から生ずる利益は即ち地代であつて、地主の手に歸する。農夫の所得は、一部分その勞働より生じ、一部分はその資本より生ずる。土地は彼にとつて、其勞働賃銀と資本利潤を得しむる一の道具に過ぎないのである。

要するに以上三つの所得は基本所得であつて、すべての租税、及び租税によつて支拂はれるすべての給料、年金等は、何れも皆この基本收入から派生するもので、間接直接に、勞賃、利潤、地代中より支拂はれるのである。

是等の異なる所得が各別人に屬する場合には、是を區別することは容易であるが、三種或は二種の収入が只一人の手に納められる場合には、これを區別することが、困難である。少くとも普通の言葉の用法では、混淆を免れない。

此處に一人があつて、其所有地の一部分を耕すと假定する。そして其収入は、耕作に要する費用を支辨した上に、尙地主としての地代と、農夫としての利潤を剩すと假定する。彼は其全収入を利益と稱するであらう。かくて利潤と地代とは混淆される。自作農の場合

が即ちこれである。彼等が利潤に就て云々するのは聞くが、地代に就て云々するのは聞くのは稀である。

普通の農家では、自ら手足を働かして田園に労働する者が多い。彼等は其收穫中より、地代を支拂ひ、資本を回収し、相當の利潤を控除して、尙監理者労働者としての勞賃を残すであらう。然るに彼らは、地代を拂ひ、資本を回収した上の殘餘を悉く利潤と呼ぶのを常とする。此の場合は明かに利潤の中に勞賃が混つてゐるのである。

自ら其所有に係る果樹園に働く者は、一身に地主と労働者と資本家の三資格を具備する。さればその収入は地代と利潤と勞銀との三つから成立するが、普通には其全體を彼の勞銀と見做すのを常とする。

第四節 自然價格と市場價格

各社會若くは各地方には、勞銀及び利潤の普通率即ち平均率なるものがある。而してこの平均率なるものは、一部分は社會の一般狀態、即ち富めるか貧しきか、進歩しつつかあるか退歩しつつかあるか等の事情によつて支配され、他の一部分は、労働若くは資本が如何なる性質の産業に使用せられてゐるかによつて、支配せられる。この事に就ては後に詳説する。

是と同じく各社會若くは各地方には、地代の平均率があり、而して其高低は、一部分其土地の存在する地方の一般狀態によつて支配され、他の一部分は、天然若くは人爲による土地の肥瘦によつて決定される。此點に關しても後に述べる。

此普通率なるものは、其勞銀、利潤、地代の存在する一定時代一定場所に於ける、是等のものの自然價格と云へるであらう。

物品の代價が、之を生産し市場に送り出すに必要な地代、勞銀、利潤を支拂うて過不足のない場合には、其物品は自然價格で賣られるといふ。

此場合には、右の物品は正しく交換價值通りに賣られたのである。換言すれば、是を市場に送り出せる人が其物品に對して支出した實際の價格で賣られたのである。何となれば、普通の意味で物品の原價といへば、之を賣つて得る利益を含まぬのが常であるが、彼が若し其社會に於ける普通の利潤を得能はぬ價格で賣るとすれば、彼は慥かに其商業に失敗する筈だからである。彼が若し他の事業に資本を投じたならば、相當の利潤を擧げ得たであ

らう。のみならず、利潤は商人の正當なる生活費用である。彼の生活費は利潤より生じ、利潤は物品の賣却によつて得らるべきものである。若しこの利潤が得られなければ、彼は其商品から、回收すべきものを回收したとは云はれない。

されば、商人をして以上の利潤を得せしめるに足るべき代價は、決して彼が時としては賣却することのあるべき最低の代價ではない。彼が何時でも不利な商賣を捨てる自由を持つ場合に於て、相當の期間、引續いて賣却して差間へない代價の最低額である。

凡て商品が普通に賣買される實際の代價を市價（市場價格）といふ。市價は時の事情によつて、自然價格より高いこともあり、低いこともある。

商品の市價は、實際市場に送り出される數量と、商品の自然價格、即ち其商品を生産するに要する地代、勞銀、利潤の全部を支拂ふことを惜まぬ需要者の數との割合によつて決定される。斯る需要者を經濟學上『有効需要者』といひ、其需要を『有効需要』といふ。何故『有効』といふかと云ふに、斯る需要あつて始めて、商品は市場に持ち出されるからである。有効なる需要は、絶對的需要と異つてゐる。貧民も猶馬車を欲することがあらう。しかし斯る需要は、需要の欲望があつても購買の能力を持たない。即ち馬車と交換すべき貨幣を持たない。斯る需要は何程あつても、馬車を市場に持ち出す役には立たない。

市場に持ち出される商品の分量が、効果ある需要に比して不足するときには、需要者の需要は満足されない、即ち供給不足となる。茲に於て彼等需要者の或者は、全く其品物を持たずに不自由しやうよりは、他人より少し高價な代金を支拂つても、夫れを手に入れやうとするであらう。斯くて需要者間に競争を起し、市價はせり上つて、自然價格の上に騰る。而して其市價昂騰の割合は、供給不足の大小、或は競争者の富、又は奢侈の度の大小によつて生ずる、競争者の熱心の多少によつて決するのである。富と奢侈の程度の同等な競争者間にあつては、其商品が彼に對する重要な程度に隨つて、熱心の度に高低を生ずる。敵に四周を圍まれた時とか、饑饉年に、食物の價が法外の高値に上る如きは、此理由によるのである。

市場に持ち出された商品の分量が効果ある需要に超過する場合には、其商品は之れを市場に持ち出すに要する地代、勞賃、利潤の全部を支拂はんとする人々を見出すに困難を感じる。そこで、或部分は一層小額の代價を支拂はうとする人に賣られねばならず、遂に全體の代價を引下げるに至るのである。斯くて商品市價は、自然價格以下に降下することに

なる。而して其降下の度の多少は、商品過剰の大小によつて生ずる商人間の競争程度、即ち其商品を手放さねばならぬ必要の程度によつて決する。腐敗し易い商品の過剰な場合には、永く保存し得る商品の過剰な場合よりも一層競争は激烈である。生魚の多くとれた時の魚價の暴落は、よい實例である。

若しも市場に持ち來される商品の分量が、丁度効果ある需要を満たす丈けで、少しも過不足のない場合には、市價は自然價格と全く同一であるか、若くは最も近いものとなる。商人の手中にある全體の物品は、自然價格で残らず賣却することが出来るであらう。しかも、それ以上の代價を要求することは出来ない。何故なれば販賣者の競争があるからである。然し、それ以下の値で、安賣する必要もないのは勿論である。

市場に持ち出される商品の分量は、自然に効果ある需要に適應するのが常である。何故さうであるかといふに、市場に持ち出される商品の分量が需要に超過しないことは、土地、資本、勞力を使用する人々の利益であつて、其供給が需要に不足しないことは、消費者の益からである。

若しも商品の供給が、需要に比して過剰なる場合が生じたとすれば、其代價の組成分、

即ち地代、勞銀、若くは利潤の何れかに對する収入の割合は減少しなければならぬ。若し地代が減少したとすれば、地主は其土地の幾分を、その商品生産に提供することを中止して、他の方面の使用に向け、若し勞賃或は利潤の減少した場合には、勞働者及び資本家は、其勞働若くは資本の一部分を其使用から撤去するであらう。かくして、商品の供給は減少して、臆て効果ある需要に適應するに至り、其市價は自然價格に復する。

是に反して、商品の分量が需要に比して不足する場合には、其代價の組成分たる地代、勞銀、利潤の何れかに對する収入の割合を増加する。若し地代が増加した場合には、どの地主も争つて其商品生産の爲めに土地を提供すべく、若し勞銀或は利潤が増加した場合には、他の生産に従事せる勞働者及び資本家はこれに集り來り、かくして忽ちのうちに、需要を満たすに至るであらう。而して其地代、勞銀、利潤の割合は自然の標準に復し、商品の全代價は自然の價格に復する。

されば、自然價格は、中心價格である。凡ての商品の市場價格は、常にこの中心價格を中心にして上下に變動し、常にこの中心に向つて復歸せんとしつある。時として以下に降り、以上に騰ることはあつても、結局その中心點に安定せねば止まぬのである。

斯様にして生産界は、自然に効果ある需要に適應するに至るのである。

併し乍ら、産業の性質によつては、人爲をもつて其産出額を如何ともすることの出来ないものがある。農業に於ては、年々同数の労働者が働いても、年々收穫する穀物、野菜、果實等の分量は決して同一ではなく、その年の豊凶によつて非常な相違がある。斯る生産品にあつては、假定需要に變化はないとするも、之に對して年々の供給を調節することが出来ない。だから穀價はあらゆる物資の中でも、年々の市價變動の最も激しい部類に屬する。しかし、何ヶ年間かの穀物供給と、その需要とを平均すると、そこに略々見當のつく標準を定められるわけである。

之に反して工業品は、生産額を調節することが比較的容易である。同数の工場と同数の労働者をもつてすれば、年々同量の生産品を造り出すことが出来る。されば需要の情態に變化さへなければ、市價も動搖せず、概して自然價格と同様の地位に止るのである。織物や藥品の代價が穀物に比して變動の少いのは、誰人もよく知つてゐることである。

一時的の市價の變動は、市場に物資が潤澤であるか何うか、また勞力が容易に供給されるか否かによつて來るものである。例へば國葬の場合には、黒布の代價が暴騰する。斯る

黒布の大需要があるべしとは、豫想することが出来ず、従つて品不足を來すのは當然だからである。若し、多數の染物労働者を短時間のうちに集めることが出来たならば、是等の労働者を働かせて黒布を急造し、供給を潤澤にし得るであらう。しかし世間の實際は、左様にうまくは運轉しない。他方面の労働者をすぐに染物労働者に仕立てることは、左様に急速には行かないのである。

更に、市價をして自然價格の上にあらしめる重要な事情は、獨占である。茲に染物屋があつて、從來世に用ゐられた材料の半額にしか價せぬ新材料で、或種の染色を爲し得る方法を發見したとする。彼はその祕法によつて一生の間利益を壟斷し得るのみならず、之を子孫に傳へることも出来る。これは技術上の獨占とも稱すべきであらう。

また或種の天産物は、一定の地域にのみ産し、他地方には絶対に産出せず、あるひは不良のものしか産しないといふことがある。例へば佛蘭西の或地方に産する葡萄は、美味なることに於て世界に冠絶し、他地方では絶対に之を眞似ることが出来ない。この葡萄酒に對してはいつも需要が溢れ、その産額の全部を賣出しても猶應じ切れない有様である。斯る事情によつて、その葡萄酒は普通の葡萄酒に比して法外に高い價格を維持してゐる。斯

様な場合は、自然の獨占とも稱し得るであらう。

一箇人若くは一會社に專賣權を許された場合には、其結果は商業上及び工業上の祕密と等しい。專賣者は常に商品の供給を手控へて、其市價を自然價格以上に保ち、巨利を得ようとする。專賣品の代價は常に、能ふ限りの最高價である。自由競争によつて賣られる商品の代價は、賣手がその商業を維持しつゝ通常手放し得べき最低の代價であるに反して、專賣品の代價は、常に買手より搾り得る最高の代價である。即ち買手が支拂ふことを承諾する最高の代價である。

會社の特權、組合法、其他すべて或種の産業に關して、其競争を狭い範圍に制限せんとする法律規則は、その程度は種々であつても、皆專賣と同一傾向を有する。範圍の廣い一種の專賣といへる。

斯くの如き事情其他によつて、商品の市場價格は、長期に亘つて自然價格以上に留ることを得るが、決して長くそれ以下に留ることはない。何となれば、生産者はその爲めに損失を蒙り、直ぐに今迄使用してゐた土地、資本、勞働を撤去すべく、忽ち供給は減少して需要を満すに足りなくなり、したがつて市價は其自然價格に上らざるを得ぬからである。

是れは少くとも、完全に自由競争の行はれる場合に於ける必然の作用である。

Handwritten notes in Japanese, including the characters '淨物' (Shimotsu) and '組合' (Kumiai), and some illegible scribbles.

第四章 勞働賃銀論

第一節 勞働の報酬

土地が未だ私有されず、資本が未だ蓄積されない原始の状態にあつては、勞働より生ずる總ての生産物は、悉く勞働者の手に歸し、是の分配にあづかる地主若くは傭主なるものは存しない。

若しこの状態が永續したならば、分業によつて生産が増加すると共に、勞働賃銀は増加したであらう。(但し、茲に云ふ「勞働賃銀」とは、勞働より生ずる報酬、自然を相手として爲されたる骨折の收穫を意味する。)そして、凡ての財貨は漸次廉價となつたであらう。凡ての財貨は、分業の結果比較的少量なる勞力により生産される。そして原始のこの状態に於ては、同量の勞力によつて生産されたものは、互に交換され得るが故に、比較的小量の勞働によつて生産された財貨で種々なる他の物品を購買することが出来る。

しかし勞働者が勞働の結果を全部領有し得る原始的の状態は、土地の私有と、資本の蓄積が現はれてからは、存続を許されない。土地が私有財産となるや、地主は直ちに、勞働者が土地の上に作り、若くは土地から收穫する一切の産物に對して、分前を要求する。斯くて地代は、土地に加へられた勞働の生産中より、まづ第一に引き去られる。土地を耕す者(農業使用人)が、其收穫時まで自ら其生活を支持する場合は寧ろ稀である。通常其生活費は傭主即ち彼を使役する農業家によつて支辨される。然し若し、豫め使用人の爲めに支出した資本が利潤を加へて歸つて來ないとしたら、斯かる資本を投下する者はあるまい。斯くて利潤なるものが、土地に加へられた勞働の生産物のうちから引き去られる。

要するに殆んど總ての勞働なるものは、右の如く其生産中より資本に對する利潤を引き去らるべき運命を有する。如何なる産業に於ても、勞働者の大部分は、其仕事の完成するまで、其生活費と、材料とを供給する傭主を必要とする。そこで傭主は、勞働者の勞働の結果、即ち材料に附加された價値の分前を要求する。是を利潤といふのである。勿論時としては職工自ら其材料を購入し、又た其仕事の完成されるまで、其生活を維持し得る獨立的のものもないではない。此場合には、彼は傭主と勞働者との兩者を兼ねるものと云はね

ばならぬ。其労働の結果、其材料の上に附加したる全價值を独占するのは固より當然である。彼の収入は通常二人の手に歸すべき、二種の、性質を異にしたものより成る。即ち一は資本に對する利潤で、他は労働に對する報酬である。

併し斯様な場合は寧ろ稀有であつて、歐洲の全體を通じて、獨立の職工は傭主の下に働く職工の何十分の一に過ぎない。そして何處でも、労働賃銀といへば労働者と資本の持主と別々の場合に於ける、労働者の収入を指すのである。

何處に於ても労働の額は、互に利害を異にする二箇の當事者間の契約によつて決定される。労働者は出来るだけ多くを得ようとし資本家は成るべく少く與へようと欲する。前者は賃銀を値上げする爲めに結合し、後者は是を低減しようために同盟する。

そして通常の場合、以上二者中何れが最も便宜の地位に立ち、他をして自己の望みに服従せしめるかは問ふまでもなく明白である。傭主の數は僅少である故に結合するに便利であるばかりでなく、法律も亦労働者の團結を禁ずる一方で傭主の結合を認め、少くとも之を禁止することがない。労働賃銀を低下せんが爲めの結合を禁ずる法律はないけれども、是を値上げせんが爲めの結合に對しては種々の法律があつて禁止してゐる。加之、爭議の

際して、傭主側には持久の策を講ずる準備があり、労働者は大方其日暮しであつて斯る準備がない。

世人は労働者の團結には氣が附くが、傭主の結合には氣が附かない。されど傭主等は騒ぎ立てこそせざれ常に到る所に於て、労働賃銀を昂騰せしめざらんが爲めに、強固な團結を作つてゐる。此團結を破るものに對しては必ず刑罪が加へられる。世人がこの團結の存在に氣附かないのは事實であるが、蓋しそれは事の自然の傾向であつて餘りに普通の事實だからである。彼等は常に賃銀の昂騰を防止する爲めに團結するのみならず、労働賃銀を其實質以下に低落させる爲めに特種の團結をすることさへ珍らしくない。併し斯かる計畫は屢労働者の防禦同盟によつて反抗される。労働者は傭主の挑戦に對して應戦するのみならず、時としては自ら進んで労働賃銀値上げのために團結する。その理由とするところは、時としては生活費の高價なること又時としては彼等の労働によつて傭主が巨利を獲得してゐること、等である。防禦的、進撃的の何れの場合にしろ、労働者の團結は世の視聽を動かすのを常とする。それは、彼等の行爲が捨鉢で激烈だからである。そして彼等と傭主との對戦は、常に彼等の失敗に終る。その原因は、一は官憲の干渉であり、二は傭主側の實

力の強固なること、三は労働者の生活状態は彼等をして持久戦に堪へざらしめることである。

勞資の戦ひに於て、傭主は常に優勝の地位に立つ。併し或一定の限度以下に長く勞銀を引下げることが不可能である。

第二節 勞銀の決定條件

労働者は其労働によつて生活するものであるから其勞銀は少くとも其生活を維持するに十分でなければならぬ。否只だに生活を維持するばかりでなく、多少の餘裕がなければならぬ。さもなければ彼等は子女を養育することが出来ず、労働階級は其後繼者を失ふであらう。カンテイロン(一七〇〇年代の始め佛國で銀行業に従事してゐた英國人。「商業性質概論」の著あり。一派の人々から重農學派の始祖とも呼ばれてゐる)は、最下級の労働者でも、其一身を維持するに必要な生活費の二倍を得なければならぬと考へた。

傭主は労働賃銀を最低限度に保たんとするが、時としてはその限度よりも遙かに勞銀を昂騰せしめる事情がないではない。一國に於て、工場労働者、職人、僕婢其他給料で衣食

する者の需要が断えず増加し、毎年其前年度に使用したよりも多くの労働者を要する様な場合には、労働者は其給料を値上げせん爲めに團結する必要がある。労働者の拂底は傭主の間に競争を起し、給料を昂騰させぬ爲めに結ぶ彼等の同盟は自然に破れて、給料の昂騰を來すからである。

給料に依つて生活する者に對する需要は、給料の支拂に差向けらるべき資金の増加に比例して増加するの外はない。そしてこの資金は二種に區分しなければならぬ。第一は生活の必要以上に生ぜる所得の餘利、第二は傭主が其業務を營むに必要とする額以上の資本である。

地主、年金受領者、資本家等が其家族を維持するに必要と考へたより以上の歳入を有する場合には、彼等は其剩餘の全部若くは一部をもつて僕婢を使用するであらう。織匠若くは靴製造者の様な獨立的營業者が、若し其材料を買ひ且つ製品を賣却するに至る間の生計費を除いて、尙餘分の資本がある場合には、彼らは一層多くの利益を得る爲めに其剩餘を以て職人を傭入れるであらう。そして其剩餘が増加するに従つて、益々多くの職人を傭入れるであらう。

54
19/2/26
Although it is possible:
されば給料に依つて生活するものの需要は、一國の歳入及資本の増加に従つて益々増加すべく、歳入と資本の増加なくして、労働者の需要のみ増加することは決してあり得ない。歳入と資本の増加は即ち國富の増加である。

第三節 高い勞銀、高度の生産力

勞働賃銀を昂騰せしめるものは、其國富の大なることではなくて、國富が絶えず増進することである。現今に於て、英國が北米の何れの國よりも富んでゐることは何人も疑はぬであらう。然し勞働賃銀は、北米合衆國の方が英國の何れの部分よりも遙かに高い。

一國の富が如何に大であらうとも、若し長く停滞不動の状態にあるならば、其國の勞働賃銀は決して高價なるを得ない。給料支拂ひに差向けらるべき資本と、其國民の歳入とが如何に豊富であらうとも、若し數世紀間同一の状態が續いたならば、或ひは同一に近い状態が續いたならば、年々必要の労働者は容易に供給せられるであらう。否、供給が需要に超過することがあらう。労働者の數は働き口に比して多く、彼等は労働口を得る爲めに競争しなければならぬ。若し斯る國家社會に於て、労働賃銀が労働者自身と其家族を支持

するに必要であるより以上に高額の場合があれば、労働者相互の競争と、傭主の利益打算とは、やがて忍び得る限りの最低限度に引下げなければ止まぬであらう。支那はその好例である。

支那は停滞不動の國で進歩しないが、敢て退歩するでもない。一度開墾された土地が委棄されたこともなく、市街が荒廢に歸したこともない。故に年々労働者に対する需要は増加はせぬが減することなく、又是を維持するための資本が減することもない。故に最下級の労働者は惨めであるけれども、兎に角其種族を存続することが出来るのである。

然るに労働者を維持する爲めの資本が年々減少しつゝある社會に於ては、労働者僕婢の需要も年々減少しつゝある。上流社會に教養せられた者も適當の職業を見附けるに苦んで、下級の職業に就き、かくて下級社會の者は仲間から壓迫されるばかりでなく社會の全階級より壓迫されることとなり、其競争は激甚となり、賃銀は生命を維持し能ふ限りの最低限に落ちる。否それさへも得ることの出来ない不幸な人民が多數に生ずる。

されば労働賃銀の高いのは其國富の増加しつゝある自然の證據であつて、賃銀の低いのは其經濟状態の靜止的であることを示し、饑餓にせまる状態にあるものは、其國富の減退

しつゝあることを示すものである。

英國現在の労働賃銀は、労働者がその家族の生活を維持するに必要な程度以上にある。これは甚だ明白な事實であつて、この事實を證據立てるために、面倒な統計計算をあげる必要はないだらう。その證據は英國社會の至る所に容易に發見されるのである。

第一、英國内何れの地方に於ても、最下等の労働に至るまで、夏期と冬期とによつて賃銀に差異がある。夏期の賃銀は冬期に比して高いのを常とする。しかるに、冬期は薪炭等の爲めに一層多くの生活費を要する筈なのである。生活費の低かるべき時期に賃銀が高く生活費の高かるべき時に賃銀が安いといふのは、英國の労働者の賃銀は、生活の必要に決定されないで、其仕事の多い少いと、労働の値打とによつて決定されることを明證するものである。彼等労働者は夏期の賃銀の殘餘を貯蓄して、冬期の不足収入を補はねばならぬ。それ故一年を平均すれば、彼等の収入は家族を養ふに足るのみとなる。結局必要生活費以上の賃銀は得てゐないことになるのであるが、しかし奴隸や其他絶對的に他人の手に自己の生活を依頼する者は、その日その日の必要を満して行くだけで、將來の爲めに貯へる餘裕はないのである。

第二、英國に於ては、労働賃銀は食料の價格の高下によつて支配されない。日用品の物は年々變動し、又た月々變動する。しかし労働賃銀は十年二十年も變動せぬものが屢々ある。故に若し、かゝる不變動の労働賃銀を得てゐる者が、凶年に際會してもその家族を維持し得たとすれば、平年に於ては相當の餘裕あるべく、豊年に於ては其生活は甚だ安樂であるべきである。或る方面では、過去十年間日用品の物價が著しく騰貴したにも拘らず、労働賃銀は著しく上進しなかつた。また或る地方では労働賃銀は著しく上進したが、その原因は食料品が騰貴したからではなくて、労働者の需要が急速に増加したが爲めである。

第三、食料品の價格は年々非常な變動を起し、労働賃銀はそれ程高下しない。労働賃銀は甲の地方と乙の地方とで大なる差異があるのに、食料品の代價はそれ程の差異がない。パン及び肉類は、英國内大部分の地方に於て略ぼ同一價格で賣買される。其他小賣店で販賣される多くの物品（労働者は凡て小賣店で物を買ふのが常である）は、田舎も大都會も其代價に大した差異がなく、時としては都會の方が田舎よりも遙かに高い。倫敦及其附近で一日十八片を普通労働者の賃銀とするのに、數哩を離れた田舎では十四片乃至十五片となり、更に離れてエチンバラ附近に至れば十片を普通賃銀とし、其處から更に田舎に入り

込めば、八片に低下する。

これを蘇格蘭に見るに、一日八片は普通労働者の賃銀である。蘇格蘭は英國の如く、地方によつて労働賃銀に大なる差異がない。それは同國には大都市が發達してゐないからで、何處の地方も同じ田舎の状態にあるからである。場所を異にするに従ひ、何故労働賃銀に差異が生ずるかといふに、労働者は物品の如く容易に甲地から乙地へ移動しないからである。物品の價格が何處でも大差ないのは、如何に巨大な物品でも、供給餘れる所より需要のある所へ容易に移動され、忽ちにその價格を平均するからである。人心浮薄といふけれども、由來人間は最も移動し易からぬ物品である。ともかくも労働者が、賃銀の最も低廉な地方で、其生活を持続することが出来るとすれば、最も高い地方の労働者は生活上十分の餘裕がある筈である。

第四、労働賃銀は時と場所とに於ける食料品價格の變動に隨伴しないのみならず、時としては反對の方向に動くことがある。

蘇格蘭人の食物は英國人のそれに比して甚だ劣り、普通の社會では、その食物の大部分はオートミールが占めてゐる。彼等はこれを最良の食物と考へてゐる。英國人はオートミ

ールを決して最良の食物などとは思はないのである。或る人は、斯る食物上の優劣によつて、蘇格蘭と英國との労働賃銀の差等の原因と見るが、是は大なる誤解であつて、賃銀の差異こそ、斯る食物上の差等の原因なのである。原因と結果を取り違へてはいけない。

英蘇兩國の穀價は、前世紀の方が現世紀に比して、多少高價であつた。これは明かな事實である。しかるに労働賃銀は前世紀の方が低廉であつた。故に前世紀の労働者が、能く家族を維持し得たとすれば、現世紀の労働者は、頗る安樂の境遇にあるといはねばならぬ。

第四節 眞實の勞銀

何處にても労働賃銀を正確に計算することは頗る難事である。何となれば同一地方に於ける同一種類の労働でも、其賃銀は必ずしも同様でなく、労働者の技倆のみならず儲主の寛大と冷酷とによつても其賃銀に大なる相違を來すことがあるからである。法律によつて労働賃銀を規定せぬ場合、是を決定する事情は極めて常識的なものである。しかも、法律を以て労働賃銀を規定しようと企てられたことは屢々であるが、經驗上全く不可能である

ことが判つた。

六〇

労働に對する實際の報酬、即ち労働者が獲得し能ふ生活上の必需品と便宜品の分量は、現代に至つて、貨幣によつて示された労働賃銀の増加の割合よりも大きな割合で増加した。管に穀物の價が下落したばかりでなく、労働者の生活に必要な日用品の多くは下落の傾向にある。農業が發達したばかりでなく、麻布、毛布等の製造業も大いに發達し、労働者は廉價に衣類を購買することが出来るやうになつた。奢侈品や贅澤品にして、課税の結果騰貴したものはあるが、労働者は是等の物品を要することが少く、他の多くの必需品の下落によつて得る幸福の大いさに比すれば云ふに足りない。奢侈の風が下層階級に浸入したとの非難は屢々聞く處であるが、是れは慥かに貨幣上の賃金が増加したのみならず、實際所得の増加したことを證明するものである。

労働者の生活状態が斯くの如く改善されたことは、社會全體にとつて利益であるか何うか。多言を俟つ迄もなく明白な問題である。何の國でも社會を構成する大多數の人民は、婢、労働者職工等の階級に屬するものである故に、其大多數者の便利幸福は即ち其社會の便利幸福であると云はねばならない。

凡ての動物は其生活の便宜に比例して増殖する。決してそれ以上に増殖することはない。然し、文明の社會に於て、食物の缺亡のために人口の増殖を制限するのは、全くの社會のみである。そしてそれは、結婚の結果として生産した子女の大多數を死亡せしめることによつて行はれるのである。労働賃銀の高額であることは彼らの子女に對する手當を厚からしめ、隨つて多數の子女を養育することによつて、右の制限を擴張する傾向がある。更にまた注意すべきことは、此制限の擴張が労働者に對する需要の割合に應じて爲されることである。労働者の需要が引續き増加する場合には、労働賃銀は必然の結果として昂騰すべく、労働賃銀騰貴の結果は、労働者の結婚を促進して人口を増殖し、そして増加せる需要に應ずるに至つて止むのである。若し之に反して、労働者の得る所の收入が結婚の目的を達するに不足な場合には、自然に労働者の數を減じ、以て其賃銀を騰貴せしめる。斯くて再び餘裕を生ずるに至れば總てまた人口の増加を來し、以て賃銀を下落せしめることとなるのである。人間に對する需要が、其生産（生殖）を支配することは、斯様にして、他の貨物の場合と異なる。

それ故労働賃銀の昂騰は、國富の増進の結果であると共に、人口増加の原因である。勞

Principle of Labor
Subsistent theory

働賃銀の高價なことは、人口の繁殖を促すと共に、一般社會の産業を増進する。産業も亦人間社會の他の事物と同じ様に、其受くる獎勵に比例して進歩發達するものであつて、働銀の高價であることは即ち産業に對する獎勵となるのである。生活の豊かなことは労働者の身體を健全にし、生活状態を向上するの愉快な希望と、安樂に一生を終らんとする安心とは、彼を鼓舞して、十分に活動せしめる。是故に賃銀の高い國の労働者は、低い國の労働者よりも快活、勤勉で且つ敏捷である。例へばスコットランドよりもイングランドに於て、僻遠の田舎よりも大都會の附近に於て、多く是等の労働者を見るのである。

奴隸の「使ひ耗り」(労働の結果身體衰へ、遂に使用不能となり或ひは死亡すること)は其主人の損失に歸し、自由労働者の「使ひ耗り」は彼自らの損失に歸すとは、普通世間に唱へられることであるが、其實自由労働者の「使ひ耗り」も、奴隸の夫れと同じく傭主の損失に歸するものである。萬般の労働者及び僕婢に支拂はれる賃銀給料は、是等の人々に對する需要が増進的であるか、停止的であるか、減退的であるかにしたがつて、その社會を永續するに足るものでなければならぬ。

尤も、自由労働者の「使ひ耗り」は奴隸の「使ひ耗り」に較べて、傭主の負擔する損失は少額である。奴隸の「使ひ耗り」は、其主人又は監督者によつてその「入れ換へ」若くは「修覆」のための資本を處理されるのであるが、自由労働者の場合に於ては、労働者自らがその資本を處理する。労働者は傭主から受取る賃銀の幾分をもつてこの資本に宛てるのであるから、その處理は細心な注意をもつてせられる。普通に怠慢な主人や不注意な監督者によつて處理される場合は、どうしても濫費浪費は免れない。是故に各時代各國民の經驗に徴すれば、自由労働者の労働は、奴隸の労働に比べて結局廉價なのである。大工業地方の普通の働賃銀の非常に高い所でも、同じことである。

第五節 勞銀騰貴と生産力増進との相殺

働賃銀の騰貴は云ふまでもなく、貨物生産の費用を増加する故に、必然の結果として、貨物の代價は騰貴せざるを得ぬ。随つて國の内外に於て、其貨物の消費を減ずる傾向を有する。然し、これと同時に、働賃銀を増加する原因たる資本の増加は、生産力を増進する傾向を有し、少量の労働をもつて多量の生産を獲得し得させる。多數の労働者を有する大資本家は出来る限り多額の生産を得るために、必ず其労働者をして適當の分業をさせる。

同一の目的によつて彼は又、能ふ限り上等の機械を備へることに努力する。一製造所の労働者間に起り得べき分業は、一社會の労働者間にも起るであらう。其數が多數である程、種々の階段に分れ、小區分に分れるであらう。そして以前よりも多くの人々が新機械の發明に潜心する故に、隨つて多くの適切な機械を發明するであらう。斯の如く諸方面の改良進歩により多くの物品は以前よりも少量の労働によつて生産され、自然に貨物の代價を引下げ、労働賃銀の高額と相殺して尙餘りあるのである。

第五章 利潤論

第一節 資本と利潤との關係

資本に對する利潤の高下も、労働賃銀の高下と同じく、其の國富が増進的であるか減退的であるかによつて影響されるものであるが、其の影響の仕方は大いに異なるものである。

資本の増加は労働賃銀を増加するが、反對に資本に對する利益を減少する。多くの商人が同一の商業に資本を下せば、自然に彼等の間に競争が生じて其の利益を減少するのは勿論、一國一社會の商業がすべて潤澤な資本を得れば、また同様な競争に依つて凡ての商業に對する利益を減殺することとなる。

労働賃銀の平均額を知ることとは、前章にも述べた様に甚だ困難であるが、資本に對する利益の平均額を知る事は一層困難である。商人の利潤は、商品價格の變動によつて影響を受けるは勿論、其の競争者及び顧客の榮枯盛衰によつて影響を受け、又商品の運送中、若

くは倉庫にある間の出来事などによつても大なる影響を受ける。故に其の變動は、年々測り得ぬばかりでなく、日々變化して止まぬものである、まして、一大國に於ける各商業の平均利潤に至つては、一層これを確知することが困難である。

資本に對する平均利潤を知る事は、斯くの如く困難である。しかし金利の高低に據つて多少の概念を得られないではない。何故なれば、何處でも、金錢の使用によつて多くの利潤の得られる處では、多くの使用料が支拂はるべく、僅少の利潤しか得られぬ處では僅少の使用料が支拂はるべきだからである。されば利潤の變動は利息の變動と相伴ふと見られ金利の變遷の跡を尋ねれば、大體に於て、利潤の變遷を察することが出来る。

ヘンリー八世は法律第三十七號によつて一割以上の利子を徵收することを禁じた。エドワード六世の時に、宗教上の熱心により、一切の利子徵收を禁じられたが、エリザベス女王の法律第十三號第八條はヘンリー八世の利息制限法を復活した。ジエームス一世の時に至り法律第二十一號をもつて八分に遞減され、王政復古の後間もなく六分に遞減され、更にアンヌ女王の治世に至り五分と規定された。以上の金利制限法は何れも慎重な考察の結果設けられたものではあらうが、法律が實際市場の金利に先驅したためしはない。常に市

場に於ける金利の趨勢の跡を逐ふのみである。以上の法律は、ヘンリー八世の時以來英國の富と歳入(國民の)が斷えず増加しつゝあり、歲月と共に益々急激に増加しつゝあつた事實の反面を示すものである。此期間に於て、労働賃銀は引續き上進したが、商工業の大部分は、其の資本に對する利益を減少した。

第二節 各國國情と利潤の關係

何の商業によらず、村落に於てするよりも都會に於てする方が、多くの資本を要する。都會の商業には大なる資本が投下され、富裕なる競争者が多いので、商業の利益をして田舎のそれよりも低下せしめる。都會の資本家は、往々にして十分の労働者を求め得ぬことがあつて、資本家の間に労働者争奪戦が行はれ、労働賃銀を騰貴せしめ、斯くて資本に對する利益を低減するに至る。是に反して田舎では、資本が乏しい故に多くの労働者を必要とせず、隨つて労働者の間に競争を生じ、労働賃銀を低減し、以て資本に對する利益を多くする。

スコットランドに於ては、イングランドよりも少い資本をもつて營業することが出来る

故、普通利益の割合は英國よりも多い筈である。スコットランドの労働賃銀はイングランドのそれよりも低い。そして法定の利子は二者同一であるが、市場の金利はスコットランドの方が高い。フランスは現今英國程富んでゐなく、そして法定利子は佛國の方が英國より低い。市場の實際の金利は、概して佛國の方が高い。労働賃銀は勿論、英國よりも佛國の方が低い。英佛兩國で商業に従事した経験のある一商人から聞いた所によると、佛國の方が英國よりも商業上の利益が多いと云ふ。多くの英國資本家が、商業の繁盛な國よりも、寧ろ盛んならぬ國に資本を投下しようとして希望するのは、全く以上の理由によるのである。

オランダは其土地の廣袤と人口に比例すれば英國よりも富めりと云はねばならない。オランダ政府の公債は二分利で、信用ある私人は三分で金を借りることが出来る。労働賃銀はオランダの方が英國より高く、オランダ商人が歐洲中何の國民よりも薄利に満足するとは普く人の知る所である。オランダの商業は衰退しつゝあると云はれる。勿論或種の商業は衰退しつゝあるであらうが、右の徵證に據れば決して其の大體に於ては衰頽してゐないのである。商業上の利益が漸次衰退するのを見て、商人が悲觀するのは寧ろ當然である

が、其の實、商業利益の減少するのは社會の繁榮であつて、巨額の資本が商業に投下された證據である。

第三節 金利を昂騰せしめる諸原因

北米及び西印度の植民地に於ては、労働賃銀が高いばかりでなく、金利も、随つて資本に對する利潤も英本國よりは高い。これは植民地の特別の事情によるのである。植民地に於ては最初暫くの間は、其土地の廣さに比して資本が少く、又資本に比して労働者の數は一層少い。彼等は多くの土地を有しても之を開墾する資本を持たない。故に資本は只だ最も豊饒な土地及河岸海岸等運輸の便ある地方にのみ運用される。斯の如くに投下された資本は固より莫大の利益を生ずべく、随つて高歩の利息を拂ふに躊躇しないのである。斯くて彼等資本家は巨利を博するにより更に事業を擴張して、多くの労働者を需要し、自然に労働者の不足を來し、労働賃銀は愈々昂騰する。然し豊饒な土地が漸く開墾し盡され、資本が徐々に劣等の土地に向けられるに至つて、其利益は減少し随つて其金利も低下する。是故に英國植民地の大部分に於て、現世紀中（十八世紀）法定利子も、市場の金利も漸く

遞減しつゝある。富と諸般の設備と人口とが共に増加した故に、金利は低落した。だが労働賃銀は、資本の利益と共に低落しない。労働に對する需要は資本の増加に従つて増加する。其利益の如何には關しないのである。

富の迅速に増加しつゝある國でも、新領土を加へ、若くは新産業を開始した場合には、時として資本利潤を増し、隨つて金利の昂進を見ることがある。

商人の多くは利益の最も大きな、新規の産業にその資本を差し向ける故に、舊來の産業から資本の引上げられるものを生じ、舊産業間に於ける競争は以前よりも減少する事になる。そして、舊來の産業によつて市場に送り出される商品の量は減少する故に、供給不足を來して價格が昂騰し、その生産者の利益は増進し、隨つて高利を拂ふことを躊躇しなくなる。

戦争其他によつて、大なる領土を得、新産業を得たる場合、利潤が増加し金利が昂騰することは資本の減少を想像しなくとも、右の理由に依つて十分理解することが出来る。

然し一社會の資本、即ち産業維持のために使用さるべき資本の減少する場合には、一方に於て労働賃銀を低落せしめると同時に、一方に於て資本の利潤を増進せしめ、隨つて金

利を昂騰せしめるものである。労働賃銀が何故に低下するかと云へば、労働の需要は資本の増減によつて多くもなり少くもなるのであるから、資本が減少すれば労働の需要を減少し、過剰の労働者を生じて、労働者の間に競争が行はれ、従つて労働賃銀を引下げることとなるのである。

かくて資本家は、低廉なる労働を使用して、以前より廉價な費用で商品を生産し、之を市場に賣出すことが出来るのである。ベンガル其他の英領植民地に於ける企業家が、短時間の間に莫大な富を築く所以は、是等衰亡に瀕せる國の労働賃銀は非常に低廉であつて、資本に對する利潤が甚だ高率だからである。

地質、氣候、並に他國に對する位置等、自然の事情が其國にあたへ得る富の最極限に達し、最早や此上進歩の望みなく、さりとて退少もせぬ國に於ては、労働賃銀も、資本利潤も共に頗る低率である。土地の廣袤と資本の總額とに比して、人口の稠密な國では、労働者間の競争が頗る激甚であつて、辛うじて現數の労働者を維持し能ふ點までは、労働賃銀を低下する。而して、其國の人口は既に充塞してゐる故、其上増加することはないのである。其國に存在する凡ての産業に比して、資本の充塞する國に於ては、産業の性質と範圍

とが許す限り、各産業に對して多額の資本が使用さるべく、隨つて資本家間の競争が激甚で、普通利潤は最低限に低落するのである。

然し恐らく、富のかゝる最極限に達した國は未だかつてない。支那は久しく靜止的狀態にあり、而して既に久しい以前より、其法律と社會組織の下に於て達し能ふ富の最極限に達したやうである。しかしこれは現在の法律と社會組織の下に於ての最極限であつて、その法律と社會組織とが變動したならば、同一の土地と氣候と國家の位置とを以つて、遙かに大なる富の程度に達するであらうことは明かである。

第四節 制度法律の不備による高利

富者と大資本家のみが安全を保證され、貧者と小資本家は常に下級官吏によつて、各種の口實の下に誅求掠奪されるやうな國家に於ては、其國家内の各種の産業に使用される資本の額は、その産業の性質と分量が當然要求する所の額に到ることが出来ない。何れの産業に於ても貧者を壓迫する結果は、富者の獨占壟斷を招き、彼等をして法外の利を貪らしめる結果を招くのである。

また法律の不備のために、貧富の關係以外に、一國の金利を昂騰せしめることがある。法律の權威をもつて、契約の實行を強制しない國では、凡て金を借りようとするものは、法律の完備せる國に於ける破産者若くは信用缺乏の人間と同様の地位に立たなければならぬ。斯る國では貸金の回収は不確實である故に、貸主は勢ひ高利を徴收しなければならぬ。

曾て羅馬帝國の西部地方を蹂躪した蠻人の間に於ては、契約の履行は全く當事者間の自由放任せられ、政府や法律は一切之に干渉することがなかつた。凡て古代の國民間に於て、金利が非常に高かつた理由の一つは、これに起因するのである。

エドワード六世は法律を以つて利子の徴收を一切禁じたが、此禁令は實際無効であつた。貸借を不自由不安にして金利を反つて高からしめたに過ぎない。金を借りるには、餘儀ない事情に迫られてする人が多い。然し金を貸す者は、其金を以て快樂を得べきこと、利潤を得べきことを知る故に、たゞで人に金を貸さうとはしない。祕密に利子を徴收する場合には、法律を潜る困難と危険を知る故に、非常の高利を要するに至るのである。

第五節 普通利潤の最低限

七四

普通利潤の最低限は、資本の使用によつて時々蒙るべき損失を償うて尙多少餘りがあるのを程度とする。純利とは即ち此餘剩のことである。かの總利益といはれるものゝ中には此餘剩の外に、臨時の損失を償ふために積立てらるべき金額をも含有してゐる。而して、金利は此純利の多少によつて支配されるべきもので、總利益には關係がない。同様にまた金利の最低限は、貸附のために時々蒙るべき損失を償うて尙多少の餘剩を残す程度でなければならぬ。

市場に於ける普通の金利は、普通の純利に比例すべきものであつて、純利多ければ利息高く、純利薄ければ利息は安からざるを得ぬ。英國では、利子の二倍の利益を得ることを以て、商人は頗る豊富な利益と見做すやうであるが、余の見る所をもつてすれば、是れは全く普通の利益にすぎない。借りた資金に關する凡ての危険は借主が引受けねばならない。此點、借主は貸主に對して其資金を保險するものと云ふことが出来る。而して多くの商業に於ては、此保險料と、其資金を運用する手数料として四分乃至五分の利益を收得するを

以つて至當と思惟される。

既に其國の達すべき富の程度に達し、凡ての産業に用ひ得る限りの最多額の資本の使用される國では、其純利が甚だ薄く、隨つて其中より支拂はるべき金利の率は極めて低く、大富豪でなければ利息によりて生活することは困難である。故に、小資本家若くは中等階級の人々は凡て自ら自己の資本を利用する方法を講ぜねばならない。斯くて社會の大多數は商業若くは何等かの業務に従事することゝなるのである。

富の迅速に増進しつゝある國では、利潤の比率が低い故に、労働賃銀の高價なるにも關せず、労働賃金の低い富まぬ國同様の代價で財貨を賣ることが出来るのである。實際に於ては労働賃銀の高い事よりも、利潤の大なることの方が、多く物價を騰貴せしめる。例へば麻布製造に於て、麻の精製者、紡績者、織工等總ての職工が一日二片宛増給されたとする。麻布の代價を騰貴せしめるに相違はないが、職工の數に二片を乗じ、夫にまた其使用日數を乗じただけを騰貴するに過ぎない。即ち財貨の騰貴は労働賃銀の騰貴に對して算術的の比例で増加するに過ぎない。是に反して、是等職工の屋主が凡て五分宛以前よりも多くの利益を得ると假定すると、利益に還元せらるべき物價の部分は、製造の諸階段を通じ

て、利益の増加に對し、幾何學的の比例で騰貴する。製麻業者も紡績業者も機織業者も、各々其の製品を賣るに當つて、自分の買ひ入れた原料の代價と、労働者に支拂つた賃銀との兩者に對して、五分宛の増額を求めることとなるのである。商人や製造家は、労働賃銀昂騰のため物價が騰貴し、内外の販路を失ふことを嘆するが、併し彼等が高率の利益を得ることの方が、何れ程物價を騰貴せしめるか知れない。

第六章 異なる産業間に於ける 賃銀と利潤

第一節 賃銀及利潤の平均化

異なる産業間に於ける、労働及び資本に對する利と不利とは、同一地方に於ては全く同一であるべく、さもなければ常に同一ならんとする傾向を有して居る。若し同一地方に於て他の産業に比して特に有利な産業があつたならば、何人も利益の尠い己れの職業を捨て、利益の多い他の産業に走るべく、斯くて其産業に従ふ者が多くなり、特種の利益は減じて他の産業と同一程度に平均せられる。固より此作用が十分に行はれるには、其社會に完全な自由があつて、何人も自由に其職業を選択し、また何時でも自己の職業を變更し得るの
でなければならぬ。斯様な自由な社會では、人々の利己心は、彼等を驅つて速かに不利の地位を去り有利の地位に就かせるのは最も自然なことである。

第二節 産業の性質より起る不同

七八

利潤及び賃銀は斯く平均化する傾向があるが、労働及び資本の使用される方面の異なるに従つて、金銭上の報酬と利益とは、何處の國でも非常な相違がある。その相違は、一は各産業特有の事情に因り、又一には各國の政策に因るのである。

第一に、産業自身の性質から起る相違を述べやう。

或る種の職業に於て少額の報酬が支拂はれ、他の職業に於て比較的多額の報酬が支拂はれる主なる事情は、左の五項に概括することが出来る。(一)其職業が愉快であるか不愉快であるかの相違、(二)其職業を習ひ覚えることの難易及費用の多寡、(三)其職業が繼續的であるか間斷的であるかの別、(四)其職業に従事する者に多くの信用を要するか否かの別、(五)其業務の成功が確實であるか不確實であるかの別。是を左に少しく説明しよう。

(一)労働賃銀は、其労働が骨の折れるものであるか平易のものであるか、清潔のものであるか不潔のものであるか、名譽なものであるか不名譽なものであるか等に随つて相違する。裁縫職人は織工よりも所得が少い、それは其仕事は織工に比して容易だからである。

織工の所得は鍛冶工より少い。それは織工の仕事は必ずしも鍛冶工より容易ではないが比較的清潔だからである。鍛冶は一種の技術で鑛夫は單純な労働者に過ぎないが、鍛冶工の十二時間労働よりも鑛夫の八時間労働の方が所得が多い。それは鍛冶工の仕事は鑛夫の夫れに比して不潔の度も危険の度も少く、且つ地上白日の下で従事し得るからである。名譽は凡ての職業に於て其報酬の一部を形成する。屠殺業者は大抵の場合他の普通職業より収入が多い。それは其仕事は殘酷で嫌悪すべき性質を有するからである。

不愉快と不名譽とが資本の利益に與へる影響も労働賃銀の場合と同様である。料理屋、旅館などは決して愉快な名譽な營業ではないが、小資本をもつてする營業でこれ程収益のあるものはあるまい。料理屋は名譽を重んずるが、その名譽は、
料理屋は名譽を重んずるが、その名譽は、
料理屋は名譽を重んずるが、その名譽は、

(二)労働賃銀は其職業を習得するの難易及び是に要する費用の多少によつて相違する。一箇の高價な機械を据ゑ附けた場合には、磨損し終らぬうちに十分に是を使用して、其機械につき込んだ資本を回収しなければならぬ。多大の苦心と歲月とを費やして、熟練と技巧とを要する職業を修得した人間は、斯様な高價な機械に比べることが出来やう。熟練労働者の報酬と普通労働者の夫れとの相違は、この理由による。技藝家及學術的職業に従事す

る者の受くべき教育は一層困難で多くの費用を要する故に、畫家、彫刻家、法律家、醫師等の受ける報酬は随つて一層大ならざるを得ないのである。

資本に對する利益は、其資本の使用せられる業務を習得するに、容易であるか困難であるかによつて、影響を受けることは極めて少い。資本は各種の方面に使用されるが、其各の業務を習得するに伴ふ難易の差は左程甚しくない様に思はれる。内國商業と、外國貿易とを比較して見ても、兩者のうち何れが複雑で困難であるかといふ差等は餘り無いのである。

(三) 労働賃銀は其労働が繼續的であるか斷續的であるかに随つて高下の差がある。或種の職業は、年中間斷なく働き口があり、或種の職業は季節の關係や其他の事情によつて、時には働きたい意志はあつても働けない場合がある。斯様な斷續的な職業に従事する労働者は、其仕事の休止した期間、即ち無収入の期間に備へる爲めに平常餘分の賃銀を取らねばならぬ。

資本が間斷なく利用されるか否かは其業務に關係なく、是を使用する人に由つて決定せられるのであるから、業務の繼續的なのと斷續的なのとは資本の利益に影響する所がない。

(四) 労働賃銀は其職業に要する信用の大小によつて相違する。金銀細工師寶石師などの報酬は何處でも、他の普通の労働者に比すれば甚だ高い。是れは、貴重な品物を委託するのであるから、技術上にも人格上にも、信用に價する職工でなければならぬ理由に基づく。醫師、辯護士の如きは、人の生命、財産、名譽等貴重なるものをあづかるのである。彼等に必要な信認は決して普通労働者の持ち得る所ではない。彼等に對する報酬は彼等をして大なる信認を負うて世に立たしめるに足るものでなければならぬ。其業務に従事するものに對して多くの信用を置く必要があると否とは、資本の利益に影響する所がない。

(五) 労働賃銀は其職業に對する成功の確實不確實によつて、高下の差を生ずる。職業によつては、人の性質、運不運によつて、前途の成功を豫め見極める事の出來ぬものがある。藝術家、辯護士などはそれである。

公平な富籤では、當籤者は他の落籤者が損失する金額全部を收得するのを法とするやうに、世人の失敗者に對して僅か一人の成功者を得るやうな高等職業では、一人は他の世人が若し成功したら得べき筈の全額を得なければならぬ。

資本に對する利益の比率は、其業務の安全さによつて多少の影響を免れない。併し危険

の度に正確に比例する譯ではなく、又其危険より起る損害を辨償する程の程度ではない。不安固な商業で破産を來すことのあるのは珍らしくもない事實である。

以上に列舉した五つの事情のうち、労働賃銀と資本利潤と同時に影響を及ぼすものは、其業務の愉快不愉快、及び安全と危険、この二事情だけである。併し是等の事情とても、資本利潤に及ぼす影響は、労働賃銀に及ぼす影響程甚しくない。是をもつて観ると、同一社會若くは其附近に於ては、資本に對する普通利潤は、労働賃銀に比すれば、異種産業間に於ける高下の差が少く、常により多く平均を保つといはねばならない。普通労働者の所得と、辯護士、醫師等の所得との相違は、異種の産業間に於ける普通利潤の相異に比して遙かに大きい。

右の五箇の事情は、労働賃銀と資本利潤、若くはその何れかに大なる影響を及ぼすものであるが、實際上から云つても、又推理上から云つても、各種の業務間に存する全體的利害に影響するものではない。或業務に於ては、右の事情が金錢上の所得の不十分なることを愉快、名譽等が補足し、他の業務に於ては金錢上の比較的多額な所得を、不快、不名譽、危険等が減殺する傾向があるにすぎないのである。

しかし此平均作用をして、十分に働かしめるには、完全な自由の行はれる所でも、尙左の三箇の條件を具備しなければならぬ。

(一)斯る平均作用は、其職業が世に熟知され、永く存在したものでなければならぬ。

他の事情に變化なき場合には、労働賃銀は舊い職業よりも新しい職業の方が多額である。茲に一の企業家があつて新たに事業を開始するとせば、彼は他の企業家よりも多額の賃銀を出して労働者を誘致しなければならぬ。而して彼が、其労働者の賃銀を一般の平均相場に引き下げる事が出来る様になる迄には、多少の時日を経過しなければならぬ。

奢侈的流行的商品の製造業は、世間の嗜好の變遷するに隨つて變遷し、永年に亘つて同様の状態で存在し得るものではないけれども、是に反して必要品の製造業に於ては、變化に逢ふ事少なく、同一商品の需要が百年も通じて變らない實例も乏しくない。斯の如く相違する業務に於て、労働賃銀は前者の方が高く、後者の方が低い。パーミンガム市では主として流行品嗜好品類を製造し、シェツフィールド市では、主として必要品の製造に従事してゐるが、兩市に於ける賃銀の相違は、よくその製造品の性質に照應してゐるといはれる。

製造業でも商業でも、又農業でさへも、曾て人に知られなかつた新方面に手を着けることは、一種の投機的性質を含むものであつて、其企業者は巨利を博さうとする野心を持つてゐるのである。その野心は時として實現されることもないとは限らないが、時としては全く失敗して莫大な損害を蒙らないとも限らない。何れにしても、從來あり來りの通常事業と同率の比例を保つものではない。新企業が圖に當つて成功すれば非常な利益を得るが、それが段々世に知られ、多くの模倣者を生ずるに至つて、遂には他の一般事業と同様の水準に引下げられるのである。

(二)異種の事業間に於ける労働と資本の全利害を平均する作用は、其事業が通常の状態即ち自然の状態にある場合に限り行はれるものである。

労働に對する需要は、殆んど凡ての労働に於て、時には普通よりは大に、時には普通よりは小に、當に動搖して止まないものである。従つて労働賃銀も、需要の多少につれて高下するを免れない。農業労働は草刈時及び收穫時に最も需要多く、従つてその時期には賃銀は昂騰する。戦時に當り、四萬五萬の水夫が商船から引上げられて戦争に従ふ場合には商船の水夫の補缺に對する需要が急に起り、隨つて其賃銀は倍額に昂騰することも珍しくない。

之に反して、衰退に向ひつゝある産業の労働者の多くは、解雇せられるよりも寧ろ普通以下の低給に甘んずる者が多いのである。

資本より生ずる利益は、其資本の使用によつて産出された商品の價格の變動に隨つて高下する。商品の價格が普通以上に昂騰した時には、少くとも其商品を市場に賣出すまでに要した資本の或部分に對する利潤は増加するが、之れに反して普通相場以下に低落した時には、其利益も亦低落しなければならない。

あらゆる商品は價格の變動を免れないけれども、或商品は其變動が甚しく、或物は左程甚しくない。人工によつて産出される商品産額は、年々の消費額に出来るだけ接近すべく年々その商品生産に使用される資本と労働の分量は、その年々の需要高によつて支配される。前章で説いた様に、或種の産業は同一の資本と労働を使用すれば年々同一の生産額を得ることが出来る。例へば織物などは、同一の機械と同一の労働者を使用すれば年々同一若くは同一に近い生産額が得られる。故に斯る商品の代價に變動が生ずるのは、不時の出來時によるのである。然し或種の産業では、同一量の資本と労働とは必ずしも同一量の生産を齎さない。例へば穀物、砂糖、果實酒の如きは、同一の資本と労働を使用しても年々

燭
燭

の産額は決して同一ではない。故に斯る商品の価格は需要によつて變動するのみならず、産出額の多少によつても變動し、其價格の騰落は常に測ることが出来ない。されば斯る商品の賣買に従ふ商人の利益も亦、商品價格の變動に隨つて變動すべき筈である。かの投機商なるものは、常に主として斯る商品を取扱ふのである。彼等は其商品が騰貴するだらうと見込む時に是を買占め、下落するだらうと見込む時に是を賣放つのである。

(三)異種の産業間に於ける労働と資本との有利と不利とを平均する作用は其産業が是に従事する人にとつて、唯一の主要職業なる場合にのみ起り得るものである。

茲に一人があり、或職業を以つて生活してゐるが、其職業は彼の全時間を占めるに至らず、彼はその餘暇を以つて他の仕事に従ふとすれば、此場合に於て彼は世間普通の相場以下の給料に甘んずることが出来るであらう。

斯る副業的労働によつて生産された商品は、普通以下の價格で市場に現はれることがある。蘇格蘭の多くの地方では、手編の靴下が、他の地方の器械製靴下よりも廉價に製造されることがある。これは、他の仕事を以つて生活費の主要部分を得てゐる僕婢其他の労働者によつて製造されるからである。

産業の盛んな國では、其市場の範圍が廣大である故に、何の職業に従事する者も、其全時間を之に充當して不足することはあつても、餘暇のあることはない。一の職業によつて生活するものが、同時に他の仕事に従つて多少の収入を得るといふ様なことは、多く貧國に見る實例である。

第三節 政策より起る不同

次に、各國の政策より起る不同を述べよう。

歐洲各國の政策は、完全な自由を認めない故に、多くの不同を生ずる。そして此事情は産業そのもの、性質から起る諸事情よりも一層重大である。

其不同は次の三つの事情に原因して生ずる。(一)自由に放任すれば、多くの競争者を生ずべき場合に、法律によつて、或種の産業の競争者を少數に限る事。(二)是と反對に、或他の産業に於ては、人爲によつて、自然に放任する場合よりも多くの競争者を生ぜしめること。(三)一地方より他の地方に、また一産業より他の産業に資本と労働の流通移轉することを防げる事、これである。

歐洲各國政府では、各種の産業に於て、競争者の數を減ずる政策を採つてゐる。その目的に用ひられる主なる方法は、組合に特權を附與することである。

或種の職業組合に對して特權を與へることは、其組合の存在してゐる地方の組合員以外の者を競争から排斥することになる。そして通常この組合に入る權利は、其市内の適當の資格を有する主人の下に徒弟として一定の年限勤め上げることによつて得られる。而して一人の主人が持ち得る徒弟の人數も組合の規約によつて制限されることがある。

エリザベス女王が發布した『徒弟法』なるものは、徒弟として七年の年期を終へた者でなければ、其當時英國に行はれた如何なる職業、技術、若くは祕傳をも行ふことを得ずと規定し、從來各都市の組合の細則として存したものを、全英國の各市に行はるゝ凡ての職業に適用する公法としたものである。

人が其勞働によつて得る所の財産は、他の凡ての財産の基本であつて、最も神聖なものである。而して貧民の財産は其手腕の強健と熟練の外にはない。されば他人に害を及ぼすことなく、自ら適當と信ずる所に其力量と熟練とを使用する事を防げるのは、此神聖な財産を犯すものといはねばならない。又勞働者及び傭主の自由を束縛するものといはねばな

らない。即ち勞働者に對しては彼れが適當と信ずる事に従事することを妨げ、傭主に對しては彼れが適當と信ずる勞働者を使用する事を妨げるのである。勞働者を雇傭するに、之れを決するのは直接其利害の衝に當る傭主の判斷に委せて好い。立法者が之れに干涉するのは壓制であると同時に餘計な世話である。

法律をもつて徒弟の年期を長くしたとて、劣等品が市場に現はれるのを防ぐことは出来ない。劣等品が市場に現はれるのは詐偽の結果であつて、技術が未熟な爲めではない。如何に徒弟の年期を長くしたとて詐偽を防ぎ得ないのは云ふまでもない。

長年期の徒弟制度は、決して青年勞働者をして業務に勤勉ならしめる所以ではない。仕事の出來高によつて賃銀を受ける職工は、勤惰の結果が直ちに自己の收入に現はれて來る故に、仕事に勤勉なのを常とするが、徒弟に至つては直接に利害を感ずることがない故に、概して怠慢に流れるものである。徒弟をして長い年期を勤めさせるのは全く無益である。何んなに複雑な仕事でも、實際左程に長年月の修業を要するものはない。普通の機械的職業に至つては數日數週間の修業で事足りるものである。職工として一方仕事の出來高による賃銀を支拂ひ、一方で仕事に對する責任を負はせる方が、其仕事に精勵させ、従つて最

も教育的効果ある方法である。勿論その結果として舊來の親方は損失を受ける。彼れはこれ迄其徒弟の労働から搾取し得たものを失はねばならない。又結局は徒弟自らも損失者となるを免れぬかも知れない。何故なれば彼等が職工として世に立つ時、そこに多くの競争者を生じ賃銀が低落するであらうから。斯くして親方も徒弟も傭主も職工も皆損失する事になるが、是等の人々によつて産出される物品の價格が下落する故に、社會一般は大いに利益するのである。

凡ての組合及組合法の大部分の目的とする所は、自由競争を制限する事によつて、物價の下落を防止し、隨つて報酬と利潤の減少を防止せんとするにある。都市の各職業が組合を作り競争者の侵入を制限すれば、各職業のものは何れも多少高い代價で他人の生産品を買はねばならず、己れの生産品を高く賣ることによつて得る利益と相殺して損得のないことになる。併し田舎との取引きに於て、彼等は多大の利益を獲得した。都市を繁榮せしめたる主なる原因は全くこれであつた。

凡ての都市は生活の必需品と工業の材料とを田舎に仰がなければならぬ。そして都市が田舎に向つて支拂ひをする方法は二つある。第一は、田舎から得た材料に加工して再び

之を送り還すのである。此場合には都市は材料の代價に労働賃銀と傭主の利益とを加へた金額を田舎から徴収する。第二は、他國の材料と精製品、並に國內の他の地方より其都市に輸入された物品を田舎に送ることである。此場合には其物産の原價に、水陸の運送業者の報酬、及び商人の利潤を加へたものを、田舎人に支拂はせるのである。以上第一は製造者によつて都會が得る利益で、第二は内外貿易によつて得る利益である。是等二種の方法によつて得られる利益なるものは、全く労働賃銀と企業者の利潤より成立すものである。故に凡て是等の利益を増加せしめる傾向ある法律規則は、都市の少量労働をもつて、田舎で多量の労働を以つて生産された物品を購買せしめる傾向を有する。斯る法律規則は都市の商工業者には非常に便利であるが、田舎の地主、農夫、労働者にとつては頗る不利益である。若し自然に放任したならば、相互の間の利益は平均される筈であるが、人爲の作用によつて、一方は利益し一方は損失するのである。

都會が年々他地方から輸入する食料品及原料の代價として實際に支拂ふ所の代價は、其都市より他地方に向けて年々送り出される製造品其他の物品の分量である。それ故都市から他地方に輸出される物品の代價が高價であるほど、都市が他から購買する物品の代價は

廉價となるのである。例へば従来一圓の帽子が一圓五十錢に騰貴したとし、米一升五十錢で買へるとすれば、帽子一つに相當する米は一升だけ従来より増加しなければならぬ。即ち都會人は一箇の帽子で一升だけ前より餘分の米を購買することが出来る。

何處の國でも、都市に行はれる産業が田舎に行はれる産業より有利であることは、別に面倒な計算をする迄もなく、單純な觀察で知る事が出来る。到る處の都市的産業、即ち商工業に於ては、小資本を以つて莫大の富を作れる人が珍しくないのに、田舎で農業によつて、一躍巨富を積んだといふ例は極めて乏しい。是によつても都會の資本と労働とが如何に有利な地位にあるかは分る。かくて、資本と労働とは、水の低きに就く如く、有利の地を追うて流動するものであるから、自然に農村を去つて都會に集中することとなる。

都會の住民は一地域に多數集合する故に團結するに容易である。それ故都會では、極く輕微な職業でも組合を設ける。組合を設けないまでも組合的精神が行はれて、外來者を排斥し、同業者互に氣脈を通じ、相互の約束によつて、法律規則の禁じ得ぬ自由競争を阻止する。殊に同業者の少數な産業は、それをするのに最も容易である。

之れに反して田舎の住民は互に相隔離する故に、團結する事が容易でない。彼等は組合を作らないのみならず、組合的精神を缺いてゐる。

都市の産業をして田舎の産業よりも有利の立場に立たしめるものは、只組合法のみではない。其他にも種々の法律があつて、同様の傾向を助長してゐる。外國輸入品に對して重税を課するのも、其一つである。組合法は都市の商工業者をして内國人の競争を拒否することを得しめ、關税は外國人の競争を防遏する。そして是等二種の法律によつて騰貴させられた價格は、地主、農夫、農村の労働者によつて支拂はれるのである。

第四節 農村及都市の利潤平均の傾向

英國では、都市の利潤が田舎の利潤に比して高率であつたことは、今日よりは以前の方が遙かに優つてゐた。前世紀及び現世紀の初めに比すれば、農村労働者の賃銀は餘程工場労働者の賃銀に近づき、農業資本の利潤は、商工資本の利潤と大差なきに至つてゐる。これは都市産業の有利からして徐々に生じ來つた必然の結果である。即ち都會に貯蓄された資本の額は次第に増加して其特種の産業に使用するのみでは以前の如く豊富な利潤が見られなくなる。資本の増加は勢ひ競争を増加し遂に其利潤を低下する。都會で其利潤を低下せ

九四
られた資本は田舎に流れて行き、其處に農業的労働者の新需要を作り、其の必然の結果として田舎の労働賃銀を騰貴させる。斯くて都會に蓄積された資本は、漸く全土に普及し、農業のために使用されることとなるのである。歐洲至る處に於て、田舎地方の開発は、斯くして都會に蓄積された資本に負ふ所が多いのである。

第五節 人爲的に競争を増加する政策

歐洲各國政府の政策は、或職業に關しては自然に放任する場合よりは多くの競争者を産出する事により、各種の職業間に於ける労働と資本とに前項とは反對の不同を生ぜしめる。高等の職業に従事せしめるために、多くの青年を教育する事は最も必要と思推され、時としては公共によつて、又時としては私人の篤志家によつて、給費、奨學金等が支給される。是が爲めに人爲的に是等の職業に多くの人を吸引する結果となるのである。而して、長年月の間多くの費用を投じて、困難な教育を受けた者も、それに相當する報酬を得ることが出来なくなるのである。

各國の政策により、労働と資本とが一つの職業から他の職業に、また一の場所から他の場所に自由に移轉することを妨害するために、各種の職業に使用される資本と労働との間に大なる不公平を生ずることがある。

徒弟制度と組合の排他的特權は、茲にも大なる弊害を醸してゐる。一の製造業では労働者に高給を支給しつゝあるに反し、他の製造業では僅かに生活を支へるに足るだけの賃銀しか支拂ひ得ないといふ様な事は屢々ある。一は進歩的情態にあつて常に労働者に對する新需要あり、一は衰微しつゝある故に、日々労働者の過剰に苦しんでゐる。斯様な二種の相異なる製造業は時として同一市内に、否時としては相隣接して存在し、しかも相互に少しの助力をも與へ得ないことがある。徒弟の制度と組合の排他的特權は、斯る二箇の製造業が互に相助け合ふ事を妨げるのである。多くの製造業は或程度までその仕事は相似てゐる故に、斯る愚劣な制限と束縛とさへなくば労働者は容易に一の職業から他の職業に轉ずることが出来るのである。

勞力が一の産業から他の産業に轉ずるのを妨げることは、等しく資本の移轉を妨げるのである。一の産業に使用され得る資本の額は、是に使用し得べき勞力に關係すること甚だ深い。勞力がなければ資本を使用しようとしても不可能である。

組合法が勞力の移轉に妨害を與へることは全歐洲に亘つて普通の事實であるが、「貧民法」が同一の結果を與へることは、英國獨特の現象である。貧民法は、貧民の屬する教區より他の教區に移住することを妨げ、時としては自己の屬する教區以外に於て仕事に就くことを禁じられることさへ珍らしくない。組合法はたゞ職工と製造家の自由移轉を妨害するに過ぎないが、貧民法は居住の自由を妨害する故に、普通勞働者の自由移轉をも困難ならしめる。英國に於て、距離の遠からぬ場所で勞働賃銀に非常な相違があるのは、居住法に依つて、貧民が免許狀（彼れの居住權を證明するもの）なしに一の教區から他の教區に行つて職業に従事することを許さぬためであらうと思はれる。何ら犯罪人でもないものを其居住を束縛するとは明かに自由正義に反した行爲である。

第六節 賃銀及び物價の公定

最後に賃銀及物價の公定に就いて一言する。古代に於ては一般に賃銀を公定する習慣があつた。今日でも、或特殊の地方で特殊の勞働のために、報酬を規定する事がないではない。例へばジョージ三世の法律第八號は、倫敦及び其周圍五哩の地内に於て、國葬の場

合に於て、一日二志半片より多く支拂ふ仕立屋も、之を受けた職工も、共に法律を以つて罰せられることを規定して居る。

傭主と勞働者との間に何かの規定を設ける場合、立法家の相談に参加するものは傭主の利害を代表する人々である。故にその法律規定が勞働者の利益となる場合は正義公平といひ得るけれども、傭主の利益となる場合は不正義不公平といはなければならぬ。例へば諸種の職業に於て、傭主等をして其被傭人に現金で支拂はしめ、物品で支拂ふことを禁ずる法律がある。是れは正義公平な處置であつて、傭主等にとつて決して不當な命令とはいへない。彼等は往々物品で其賃銀に相當するものを支拂ふと稱して、其實、賃銀の實價以下のもを支拂ふことあるが故に、斯る規定は勞働者にとつて最も必要といはねばならぬ。

是に反してジョージ三世の法律第八號は、傭主等の利益のために設けられて居る。傭主等がその勞働者の賃銀を低下しようとする時には、彼等はひそかに同盟して或罰則の下に、何程以上の賃銀は支拂はないと規定するのを常とする。然るに若し勞働者にして之と同様の同盟を作り、規定以下の賃銀では働かないと團結すれば、法律は必ず之に干渉し

て禁止するのである。公平とはいはれない。若し公平たらしむるなら、等しく傭主の規約を禁すべきである。然るにジョージ三世の法律は、傭主達が私の團結によつてなさんとする所を、政府の法律を以つて規定するのである。それが傭主にとつて便利であるのは勿論だが、労働者が之に反對して、技倆優れた労働者と普通労働者とを同様の待遇の下に一括せんとする不都合不公平な法律であると唱へるのは、蓋し至當の論といはねばならぬ。

また古代に在つては、食料品其他の物價を公定して、商人其他の利益を制限せんとすることが行はれた。然し近世に至るにつれて、段々斯ることは行はれなくなり、予の知る所では、今日この種の規則が行はれて居るのは、パンの代價を規定以上に吊上げてはならぬといふ規則だけである。

獨占的組合が存する限り——彼等は搾り得る最高の代價を、常に需要者から搾り取らうとしてゐる故に——一方に於て日用品の代價を規定することは必要であらうが、斯る組合が無いが、組合勢力が有力でない場合には、自然の競争に一任した方が、人為の法律よりも遙かに有効な結果を齎すであらう。

第七章 地代論

第一節 地代の性質

地代は借地人が土地の使用料として地主に支拂ふもので、土地の利便豊度に應じて、或ひは高く支拂はれ或ひは安く支拂はれる。而して地代は常に借地人より地主に支拂ひ得る最高の代償である。何故なれば地主は常に、借地人に向つて、借地人がその土地の生産物中から種子肥料を支拂し勞銀を支拂ひ、家畜並に其他の耕作用具を購買又は維持する資本を、其地方の耕作資本の普通利潤を添へて引去つた外には、何も分前を與へまいとしてゐるからである。この限度の分前たるや、實に借地人が土地を借用してかへつて損失を蒙らないだけの最少の分前であつて、地主がこれ以上を與へるやうなことは殆んどない。千圓の總資本を使用し三千圓の年收をあげ得る土地と、同じく千圓の總資本を使用し年收四千圓をあげ得る土地との差額——勞働其他の事情に依らず土地の豊度利便等にもとづいて

生ずると思はれるこの差額は、地代として地主の手にとり上げられるのである。もつとも時として地主はこれを見逃すことがある。併しそれは地主の寛大によるか、稀には地主の無智によるかするのであるが、また時としては借地人の無智により、普通以上の地代を地主に支拂ふことがある。即ち借地人が其地方の耕作資本の普通利潤よりもいくらか尠い利潤しか取らない場合がある。しかしこんな場合は極めて稀である。

地代とは地主がその土地の改良に投じた資本に對する利潤又は利子に過ぎぬと考へられる場合が屢々あるやうだが、それは一部分事實である。併しほんの一部分の事實である。地主は改良の一度も施されない土地に向つても地代を要求する。そして改良費に對するこの想像上の利子利潤の加きは、土地の「原始的地代」——即ち土地が本來具有する使用價值に對する地代に附加される一の附加物にすぎない。加ふるに、土地の改良は常に地主によつて爲されず、借地人に於て爲される場合が多いが、地主は新たな借地の契約を結ぶ場合には、その土地改良が恰も自分の資本で爲されたやうに、此改良に相應する地代値上げを要求するのである。

土地に對する資本の投下の如何に拘らず、地代が要求されることは、次の實例でよく分るだらう。ケルプは海草の一種で、是を焼いてアルカリ鹽を製し、ガラス其他の工業品の原料に用ゐられる。英國の諸地方に産するが、殊に蘇格蘭に多く産する。海中に在つて毎日二度づつ満潮時に水をかぶる岩石の上のみ生育する。従つてケルプの生産は人工をもつてしては如何ともし難いのである。しかるにこのケルプを産する岩石を持つ海岸を所有する地主は、恰も穀物を産する田畑同様に地代を要求する。

セツトランド諸島の近海は海魚に富んでゐて、同地の住民の食物の大部分は魚である。彼等は海上で仕事をするので、その爲めには海岸に住居を持たねばならない。そこで同地の地主は、その土地の農耕によつて得る利益に比例する地代を要求しないで、海上で得る儲けに對しても地代を要求する。彼の地代は一部分海魚をもつて支拂はれるのである。

右の如く、地代は土地を占有することによつて得られるのである。そして土地は一度占有された以上は、何人も他に之を作り出す力をもつてはならない。そして天然の與へた好地位や豊度は、人力で多少變更は加へる事は出来ても、大なる變化を加へることは出来ない。否右のケルプの實例の場合の如きは、絶対に人力の左右することを許さない。故に土地の使用料たる地代は、一の独占價格たるを免れないのである。その價格は、地主がその

土地の改良に投じた資本に比例せぬばかりでなく、地主が徴收し得ると見込んだ限度にも比例せず、只だ農夫が支拂ひ得る最高額によつて決せられるのである。

通常、商品として市場に送り出される土地生産物は、普通の販賣價格によつて、その生産物を市場に持ち出すに要する資本を回收し、それに加へて、資本に對する普通利潤をも收め得るものに限るのである。普通價格がこの程度以上であれば、その超過額は自然に地代となるだらう。若し其普通價格がこの程度以下であるならば、たとへば財貨は市場に持ち出されても、其價格は地主に提供すべき何等の餘剰も生まないであらう。そして其土地生産物が普通價格で賣られるか否かは、いふ迄もなく其財貨に對する需要の如何によつて決定されるのである。

土地生産物のうちには、その生産物を市場に提供して損のない價格よりは高い價格で賣られるほど、常に強大な需要の存するものと、また普通價格を維持するに足りないほど、需要の薄弱なものとある。前の生産物は地主に地代を與へ、後の生産物は時としては地代を生じ、時としては地代を生ぜぬことがある。

地代はそれ故、價格の組成分ではあるが、同じく價格の組成分である所の賃銀及び利潤とは少しく趣を異にしてゐる。即ち高い賃銀、高い利潤は高い商品價格の原因であるが、高い地代又は低い地代は高い價格又は低い價格の結果である。或商品が市場に高く賣られ或は低く賣られるのは、其商品を市場に持ち出すために、即ちその商品を生産するために、高い或ひは低い労働賃銀と資本利潤が支拂はれるからである。然るに地代の高下は、賃銀と利潤を價格から差引いたあとに餘剰が多く残るか少く残るかによつて決するので、即ち價格の高下が地代の高下の原因となつてゐるのである。

土地の生産物を観るに就ては、かくて常に地代を生ずる生産物と、常に必ずしも地代を生むとは限らない生産物とを區別し、對照する必要がある。次節には、常に地代を生ずる土地生産物を研究する。

第二節 常に地代を生ずる土地生産物

人類もまた他の動物と同様に、生存手段の豊かさに比例して増殖するのであるから、食物は常に大なり小なり或程度の需要をもつてゐる。食物が増えれば増えたやうに人口が増えて食物を需要し、食物が減れば減つただけ從來の人口によつて熱心に食物が要求される。

食物は人類に缺くべからざるものである。故に食物は常に或分量の労働を購買する能力をもつてゐる。換言すれば、食物を得るために労働に従事しようとする人間が常に至る所に存してゐる。勿論、食物が購買し得る労働量は、若しも食物が最も経済的に無駄のない方法で取扱はれたら維持し得るであらう所の労働量に常に必ずしも等しくはない。何故なれば、屢々ほんの生活を維持するだけの賃銀よりも高い賃銀が、労働に與へられるからである。併し乍ら食物は、或種の労働が其地方に於て普通に維持されてゐる所の率に従つて、食物が維持し得る丈の労働量を常に購買し得るのである。

しかし土地は、何處でも、食物を市場に持ち出すに必要な一切の労働を支持して尙十分に餘裕ある程の、多量の食物を生産するものである。そしてその餘剰は、生産に使用した資本と、その利潤を控除して尙餘りあるのが常である。従つて食物生産に使用される土地は、地主に對する地代として常に或物を生ずる。

諸威及び蘇格蘭に於ける最も荒れた土地でも、尙家畜を飼養するための或種の牧草を生ずるのであつて、常にこの家畜の乳と、其産出する仔畜とは此等の家畜を飼養するに必要な一切の労働を維持し、且つ其牧畜者即ち家畜所有者に普通利潤を供するのみならず、地

主に對する地代をさへ生ずるのである。此地主の地代は、牧場の優劣に従つて増減する。優秀な牧場は、面積は同一でも劣等な牧場よりも多數の家畜を飼養し得るのみならず、比較的狭い面積に多數に集合せしめることによつて、是を世話し生産物を蒐集する労働を少くする。即ち生産物の増加と、労働の節約とによつて地主は二重の儲けを取る。

地代は土地の豊度によつて異なるのみならず、其豊度の如何に關らず地位の如何によつて大なる相異を生ずる。都會の附近の土地は、僻遠の場所にある同様の土地よりも大なる地代を生ずる。都會附近の土地も僻遠の土地も、之を耕す労働には變りはないであらうが、僻遠の地から生産物を市場に搬出するには一層多くの勞力を要する。従つて僻遠の土地の生産物は、都會附近の生産物よりも一層多くの労働者を維持し、従つて農業者の利潤及び地主の地代に對する割前は減少せざるを得ない。併し乍ら地方僻遠の地の利潤率は都會よりも高いから、地主に對する割前は農業者の利潤たる割前よりも少なからざるを得ない。

都會附近の地代と田舎の地代との相異を緩和し、平均化するものは、交通機關の改良である。交通機關が発達すれば、僻遠の土地の生産物も運送費を節減し得て、都會附近の生産物と大差なく有利に賣られ、一國中の最大部分を占めてゐる地方の耕作が獎勵を受ける

ことになる。交通機關の發達は、都會への貨物輸送を容易にし、都會附近の耕作者に恐るべき競争者を與へることになるが、都會の消費者はそれによつて利益を得る。否、都會附近の耕作者も別方面で利益する。何故ならば舊市場に若干の競争者を作るけれども、新たに多數の市場が開け、生産物に對する需要が激増するから。

普通豊度の田畑は同面積の牧場よりも、人間のために多くの食物を生産する。田畑の耕作には遙かに多くの勞働を必要とするけれども、しかし種子肥料代を回収し勞銀を支拂つた後に残る剩餘も遙かに大である。それ故屠肉一封度はパン一封度よりも大なる交換價值があるとはじめからきめて掛りさへしないならば、右のより大なる剩餘は、何處でも後者の剩餘よりも大なる價值を有し、そして農業者に其利潤を供し地主に其地代を供するため、より大なる元本をなすであらう。

屠肉の價值が穀物の價值よりも大であるといふことは、いつの時代にもさうであつた譯ではなく、農業發展の時代の異なるに應じて、兩者の相對的價值は變動がある。農業の原始時代には、當時國土の大部分を占めてゐた原野は凡て家畜の飼養に充てられた。屠肉は穀物よりも豊富であつた。従つて穀物に對する獲得競争は屠肉よりも強大で、従つて又價格

も高かつた。併し乍ら段々耕地が増えて、一國の土地の大部分が耕作されるやうになると事情は異つて来る。その時には穀物は屠肉よりも豊富となり、從來の地位が逆になる。そして屠肉の價格は穀物の價格よりも大となる。

耕作が擴大されるに従つて、人の手を加へられない荒蕪地は段々狭くなり、牧場が減少して屠肉の需要に供給するに足りなくなると、一旦耕作された土地が家畜を生産するため改めて牧場に使用される。さうなると家畜の價格は、家畜を飼養する勞働に報償するだけでは十分でなく、此土地が耕作に使用されたならば地主、農業者が獲得するであらう地代並に利潤をも含まねばならぬことになる。最も不毛荒蕪の原野で生産された家畜も、その品質重量さへ等しければ、最も人工を加へられた土地で生産された家畜と同値で賣られる。荒蕪地の所有者は、それによつて利益する。そして家畜の價格に比例して、自然のままの原野の地代が引上げられる。

斯様にして、文明の進歩と共に、改良せられざる牧場の地代と利潤とは、幾分か改良された牧場の地代と利潤とによつて支配されるやうになり、そして又後者は穀圃の地代と利潤とによつて支配されるやうになる。併しこれは一國の大部分の土地を通じて行はれる法

則と理解されねばならない。勿論地方によつて例外があるのである。

穀物或は家畜以外の生産物を得るためには、概して其土地を整理し若くは改良するため、多くの資本を投下することが必要であり、さもなくば耕作のために年々多くの費用をかけねばならぬ。故に表面から見れば多くの利潤と地代を得てゐる様であるけれども、其實是等の増加せる費用に對する相當の利息たるに過ぎぬ場合が多い。

「ホップス」、果物、野菜等を栽培する方が地主の地代、農夫の利潤ともに、穀物及び牧草を生産するよりは大であると云はれるが、土地を是等の生産に適せしめるには、多くの費用をかけねばならぬ。地主に多くの地代が與へられるのはそのためである。そして是を生産するには一層の手數と熟練を要する。農夫の収入の一層大なる所以である。そして「ホップス」及び果物の收穫は、穀物若くは牧草に比して、一層不確實で、年により出来不出来がある。故に其代價は常に費用を償ふのみならず、また保険料に當るものを得なければならぬ。即ち凶作で損をした場合の償ひとなるものを、平常得て置かねばならぬ。此種の栽培者が大體に於て餘り富まないことは、彼等が決して過當な利益を得て居ないことを證明してゐる。

併し時としては或特種の生産物に適した土地があつて、その區域が限定され、生産額が社會の需要に應じ切れないで、地代、勞銀、利潤の相當額を支拂つて尙多くの餘剰を剩すものがある。併しこれはほんの例外である。そして、その餘剰の大部分は、地主の收める所となるのである。

葡萄酒の醸造より生ずる地代、利潤と、穀物及び牧草より生ずる地代、利潤との間の普通の比例は、葡萄酒を作るに只だ砂地であれば好いといふ場合と、さうでなく、特定の土地でなければ特定の風味が出ないといふ場合とで異なる。

葡萄酒は他の果物に比べて土地の影響を受けることが最も大きい。或る土地から生産するものは、特殊の風味を有し、他の土地では如何に苦心しても之と同様のものを生産することが出来ない。此特殊の風味なるものは、實際三四の地方の葡萄園に限られるのである。市場に持ち出される斯る葡萄酒の全額は、實際の需要を充すことが出来ない。即ち普通の葡萄酒に拂はれると同様の相場で、之を市場に持ち出すに要する地代、利潤、勞銀の全部を支拂はうとする需要者の全部の要求を充すことが出来ない。そこで此種の葡萄酒は、普通以上の高値を支拂ふ需要者に向つて賣渡され、したがつて其葡萄酒の相場は普通のもの

より遙かに高價となる。そしてその高價の度に大小があるのは、其葡萄酒が世人に愛好される程度と、その供給不足の程度の如何によつて、需要者の熱心を異にするによつて定まる。何れにしても、其高價な價格の大部分は地代として地主の懐に入るのである。

併し葡萄は土地の主要産物ではない。文明各國に於ける土地の主要産物は人類に直接食物を供給する穀物である。それ故特殊の土地を除いたすべての土地は、穀圃の地代によつて支配されてゐる。故に英國は、何も佛蘭西の葡萄園や伊太利の橄欖園を羨む必要はない。英國の穀圃の豊度は是等兩國中の孰れにも劣らないのである。

第三節 時として地代を生じ、時として

地代を生ぜぬ土地生産物



土地の生産物中、常に地代を生ずるのは、人間の食物のみのやうだ。其他の生産物は、事情を異にするにつれて時としては地代を生じ、時としては地代を生じない。

凡そ人間が生存のために欲望する物は、食物のほかは衣と住の資料である。

原始的の天然のままなる土地は、食物を人間に供給するには甚だ吝であるが、衣と住の

資料を供給することは甚だ豊富である。如何なる野蠻人と雖も、食物には不足しても衣住には不足しない。したがつて衣住資料の生産は、何等地代を生まない場合が多い。

山野に獸類を追ふ狩獵民は、食物をとるために獸類を殺すのであつて、その肉を去つた獸皮は、彼等にとつて大した價值のあるものではない。彼等の衣服の料に使用される獸皮を除いた大部分の獸皮は、餘り使ひ途をもたない。若しも彼等が他民族と交易することを知らなかつたら、この獸皮は全然無價値なものとして放棄されるであらう。

耕地が甚だ少く、天然の森林に圍繞された地方では、住居の資料となる木材の價値は殆んど認められない。亞米利加北部の森林地方では、若しも他人が自己所有の森林地から材木を無斷で伐採して行つたら、怒るところか、かへつて悦ぶであらう。何故なれば彼は森林よりも耕地を欲してゐる。たゞ樹木を伐り拓く勞力がない爲に森林の儘で置くのであるから。

自然の供給が斯くの如く人間の需要に對し豊富である財貨は、その産物を獲得するには只だ勞力を拂ひさへすれば好い。勞力と器具の損失を犠牲にさへすれば、いくらでも獲得し利用することが出来る。したがつて左様な財貨は、賣買の價値を持たない。

しかし交易の途が開けて、斯様な原生産物を他の地方に送り出し、その地方の特産物と交換されるやうになると、そこに若干の交換価値を生ずることになり、幾分の地代を與へられる。蘇格蘭の高原地方の家畜の大部分が、同地の住民の食料として消費された時代には、彼等の皮革の輸出は蘇格蘭貿易の最重要品をなし、そして皮革と交換された所のものは、此高原地方の所有地の地代に若干の添加物を齎した。昔時英蘭の國內で消費し盡されずまた加工もされなかつた羊毛は、その當時英蘭よりもヨリ富みヨリ旺んであつたフランダースに市場を發見し、フランダースで賣られた羊毛は之を生産した土地に若干の地代を提供したのである。蘇格蘭の獸皮及び英蘭の羊毛は、かくして僅か乍らも市場を見出すことが出来て若干の地代を生じたが、その以前にあつては、その大部分は無用物として放棄され、従つて地主に對して何等の地代も提供し得なかつたに相違ない。

一國人口の大小は、其國民に供給され得る衣住には比例せずして、食物の供給に比例する。食物が人口増加の決定者である。食物が不足しない場合には、必要な衣住を見出すことは容易である。之に反して衣住が十分手許にあつても、食物を見出すことの出来ない場合があらう。最も簡単な家屋は、一人一日の労働で建築され得るであらう。衣服中最も簡

單なもの即ち動物の毛皮は、これを衣服として仕立てるまでには右の労働より若干多くの労働を必要とするだらうが、併し大した労働量を要する譯ではない。野蠻民間にあつては全一ケ年の百分の一又はそれよりも少し多い労働で、全一ケ年の衣住を供給するに足りるだらう。残りの九十九分の労働は悉く食物探求に使用され、それでも尙食物不足を告げることがある。

然るに土地の改良耕作により、一家族の労働が二家族の食物を供給し得るに至ると、其社會の半數の人の労働が全社會に食物を供するに足るやうになる。したがつて他の半數の人々の大部分の労働は、食物以外の欲望を満足するために用ひられ得る。そして衣服、住宅、家具の如きものが、斯る欲望の對象になる。富者の食物は貧者の食物よりは手數がかかつてゐるであらうが、その量に於ては富者も貧者も同一である。人間の胃袋が同一である限り、欲望する食物の量も同一である。しかるに衣服住宅その他裝飾品等の欲望は無限に増長し得るものである。それ故、自己が消費し得る以上の食物に對する支配力を有する人々は、常にこの食物の剩餘——即ち剩餘の價格——を悦んで食物以外の欲望充足物に支拂ふ。斯様にして、限定された欲望を満足した上で、残る所のものは常に満足されること

のない無限の欲望の満足のために提供される。貧者は其食物を得んがために富者の是等の欲望を満足せしめんと働く。そして此食物の獲得を一層確實にする爲に、彼等は相互に競争して其仕事の低廉と完全とを競ふ。働く人の數は食物の量の増加につれて、換言すれば土地の改良耕作の増大するにつれて増加する。そして彼等の仕事は分業によつて生産能率を大いに増進する。かくして益々贅澤となる建物、服裝、家具等を造るべき原料に對する需要が起り、地底深く埋藏された化石、鑛物、寶石等が發掘される。斯くの如く食物は實に地代の原始的本源たるのみならず、又、各種の生産物が、土地の改良耕作による食物生産上の勞働生産力の増加から、地代を生むに足る價值を引出す所の源本となるのである。

食物生産力の増加につれて、段々地代を生むに至つた土地生産物は、何處でも同じ様に地代を生むと云ふ譯ではない。

例へば炭坑が地代を生むか否かは、一部分はその豊度に一部分は地位に基づいて決定される。

如何なる種類の鑛山でも、その豊度といふものは相對的で、一鑛山に於て、一定量の勞働で搬出され得る鑛物の量が、同量の勞働を以て同種の他の鑛山の大部分から搬出され得る鑛物の量に比し大であるか小であるかによつて、豊饒といはれ瘦薄といはれる。

たとへ地の利はよくとも瘦薄な炭坑は、その生産額が費用を支辨するに足りない場合は誰も之を採掘するものはなく、したがつて地代を生じない。また夫れより少しく豊度の高い炭坑でも、やうやく勞銀と利潤とを支辨するやうな炭坑は、若しその鑛區を他人から借り、借區料(地代)を支拂はねばならぬとしたら、その地代だけ損をするから誰も採掘しない。かゝる炭坑は自ら地主にして企業家を兼ねる者で、採掘資本に對する利潤を收めやうと欲する人によつてのみ、經營され得る。蘇格蘭の多數の炭坑はこの方法で經營されて居る。

蘇格蘭には又、十分に豊饒ではあるけれども其地位の不良のために經營されない多數の炭坑がある。事業費を支辨するに足るだけの鑛量は普通或ひは普通以下の勞働量で斯る鑛山から搬出され得るであらうが、人口稀薄で交通機關の不備な所では、この石炭を賣る方法がない。

石炭は一般の使用燃料としては衛生上よろしく不快な燃料とされてゐる。で、石炭

が一般に用ひられてゐる所があるとしたら、其所では木炭よりも石炭の方が得やすいのである。木炭より低廉豊富に石炭が得られる所に限るのである。石炭はそのやうに、價値の至つて低いものであるから、豊富に生産され容易に需要者の手許に届けられるやうな、有利な條件の炭坑でなければ、經營しても引合はず、勿論地代などは生じない。

貴金屬、寶石等の需要は社會の進歩と共に増大し、それを産出する土地が稀少であることによつて、非常に高い價格を保つてゐる。併し貴金屬等の鑛山も亦、その相對的豊度によつて、經營するに足りまた經營することの不可能なものとなる。貴金屬寶石等は石炭等と異つて容積小さく、運搬に便利であるから、その地位の利と不利は餘り苦にならない。しかしその運搬の至便といふことが、多くの鑛山をして反つて利益を失はしめてゐるのである。何となれば、鑛山の豊度は自然のままのもので、豊度の高い鑛山が発見された場合には、たゞそれを掘つて取りさへすれば、いくらでも産出することが出来るのである。斯る豊富な鑛山から、同一労働量をもつて多量に生産された金屬が世界中に向つて輸送されたならば、同一の労働量で遙かに少量の生産しかなし得ない他の多くの鑛山は、生産品の價格の下落によつて損失を蒙らねばならない。そこで斯様な瘦せた鑛山は、閉鎖されて仕舞

ふ。若し今まで地代を生んでゐたとしても、閉鎖した以上は地代も最早や消滅して仕舞ふ。

寶石などはその稀少性、即ち之を鑛山から採取するの困難と費用が大であることによつて、珍重されるのである。その高い價格は、それを掘り出すに要した労働賃銀と、資本利潤とによつて大部分占められてゐるのである。したがつて地代は極めて僅かの分前を持つに過ぎない。いや價格中何等の分前をも持たないと思はれることがよく有る。そして著しく巨額な産出のある鑛山だけが、多額の地代を提供し得るに過ぎない。一寶石商は、フォルコンダとビジアプールのダイヤモンド鑛山を訪ねた時に、その鑛山の持主である國王が最大最良のダイヤモンドを産出する鑛山の外は全部閉鎖するやうに命じたといふことを聞いた。最良の鑛山以外の鑛山は、その時經營採掘に値しなかつたのであらう。

貴金屬並に寶石の價格は、世界中で最も産出力に富む鑛山に於けるその價格によつて支配されるから、貴金屬と寶石との鑛山がその所有者に提供し得る地代はその鑛山の絶對的豊度に比例せずに、其相對的豊度即ち其鑛山に對する優越の程度に比例する。それ故南米の銀山が、その優秀な産額によつて歐洲の諸銀山を閉塞せしめたやうに、若し他に新たな

優者絶

ヨリ優秀な銀山が発見されたら、南米の銀山も閉塞させられるであらう。西班牙領西印度の発見前にあつては歐洲に於ける最も産出力に富む銀山は、今日ペルーに於ける最豊富な銀山と同様に、巨額の地代を其所有者に與へたであらう。尤も其當時産出した銀の量は、ペルーに於ける今日の産出量に比して遙かに少なかつたが、其全量は今日ペルーで産出する銀の全量が他の財貨と交換されると同一量の他の財貨と交換されたであらうし、又その銀山所有者の獲た分前は、ペルーの銀山主と同様に労働又は財貨の同一量を購買又は支配し得たであらう。

貴金屬や寶石を産出する銀山は、其最も豊富な山でも、世界の富に對して貢獻する所は極く僅かである。是等のものは只だ稀少なるが故に高い價值があるので、それが豊富に供給されたら必然價值は貶される。その代りに得る所は只だ、銀製食器や金製装身具やあつても無くつても好い裝飾品が従前よりも少量の労働若くは少量の財貨で購買し得ることだけである。



然るに此事情は地上の所有物に關しては違ふ。地上生産物並にその地代の價值は、其絶對的豊度に比例し、相對的豊度には比例しない。衣食住の或資料を生産する土地は、常に或數の人々に衣食住を供給する。そしてその地主の取る分前は、其比例の如何に關らず、常に彼に、他人の労働並に他人の労働生産物に對する支配力を賦與する。そして最も瘦せた土地の價格と雖も、それが最も豊饒な土地の附近に存在するといふ理由によつて放棄減少せしめられることはなく、反つて増大される。豊饒な土地の生産物によつて養はれる夥しい人間は、瘦せた土地の産物の多くの部分を吸収する一市場を作つてやる。實にこの市場たるや、その瘦せた土地みづからの生産で養ひ得るやうな人口を以てしては、到底作り出し得ないものである。

第四節 常に地代を生ずる生産物と時とし

て地代を生じ時として地代を生ぜ

ぬ生産物との間の價值比例の變動

土地の改良耕作の結果食物生産が益々増加すると、食物以外の衣住や裝飾に使用される土地生産物に對する需要は必然増加する。故に土地の改良耕作の進歩の全階梯を通じて、右の二種の生産物の『比較的價值』は、前者の價值が段々低くなると共に後者の價值が段

段高くなるといふ、たゞ一つの傾向を示す。即ち技術及労働方法の進歩するにつれて衣服住宅の原料、化石、金屬、寶石類の需要は益々増大し、愈々益々多量の食物と交換されるであらう。換言すれば食物を以て購ひ得る是等の財貨は益々高價となるであらう。このことは大抵の場合に於て、過去の事實が證明してゐる。そして若しも或特殊な偶發事變が起つて、是等のうちの或物の供給を、需要の増加よりも一層大なる比例で増加せしめなかつたら、あらゆる場合に於て、あらゆる物に就てこのことは事實であつたらう。

例へば、水成岩山の價値は、其附近の地方の人口の増加産業の進歩とともに必然増大するであらう。然るに一つの銀山の價値は、其銀山の附近、かなり隔つた所に他の銀山が一つも存在しない場合にさへ、其存在する國の改良進歩と共に必然増大することはない。粗末な建築石材に對する需要はその附近數哩以内の住民に限られ、それ以上に擴大されることは稀である。従つてその需要は其一小地方の改良進歩と人口數に比例せざるを得ない。然るに一つの銀山の生産物に對する市場は、既知の全世界に擴大され得る。従つて全世界の改良進歩が進捗するのぞなければ、銀に對する需要は、此銀山の存在する國の進歩改良によつてすら、大して増加することはない。それから又、既知の全世界が一般に進歩しても、

その進歩の經過中に、從來知られたよりも遙かに豊富な銀山が発見探掘されたならば、右の進歩による需要の増加以上に供給が増加し、銀の實際價格が下落するやうなことがある。近世の南米に於ける銀鑛の發見はこの事實を物語つてゐる。斯る場合一定量の銀は從來よりも少量の労働を購買又は支配することになる、則ち労働者の生活資料の主要部分たる穀物のヨリ小なる量と交換されることになる。

銀に對する市場は世界のうち商業の發達した文明化した部分である。若しも此大市場が一般的に進歩して、銀の需要が増加し、然も一方に於て銀の供給が同一比例で増大しないならば、銀の價値は穀物の價値に比して漸次昂騰するだらう。即ち銀の或一定量は益々多量の穀物と交換されるだらう。換言すれば穀物の平均貨幣價格は愈々低廉となるだらう。(スミス時代に於ける貨幣は専ら銀を用ゐた)。

之に反して銀の供給が或偶發事變(大銀鑛の發見)によつて、數ヶ年を通じて其需要よりも一層大なる割合で増加したならば、銀價は低廉となり、穀物の平均貨幣價格は耕作改良あるに關せず漸次に高價となるであらう。

若し又、銀の供給がその需要と殆んど同比例で増加するならば、銀は引續いて同一量の

穀物を購買し又は同一量と交換されるであらう。そして穀物の平均貨幣價格は、一切の改良進歩あるには關せず、殆んど同一に繼續するであらう。

以上に述べた三つの場合は、改良の進展上に發生し得べき、すべての可能なる場合を含んでゐると思ふ。そして英國と佛國との事實から判斷すると、十八世紀以前の四世紀間に於て、右の三つの場合は茲に記したと殆んど同一の順序を重ねて來たと思はれるのである。即ち、最初には銀の需要に比してその供給が不足し、穀價が低廉となり、次には銀の供給が需要に超過して穀價が下落し、最後には供給と需要との歩調がほぼ一致して穀價は殆んど變化なく保たれてゐる。

第五節 實收地代増加の傾向

土地の改良と耕作の進歩とは、直接に「實收地代」を騰貴せしめる。即ち土地生産物に對する地主の分け前は、生産が増加するに従つて増加するのである。

土地から生ずる原料品の騰貴は、最初の間は土地の開墾と改良との結果であるが、後には土地を開發改良せしめる原因となる。例へば家畜の價格の騰貴は直接に地代を騰貴せし

める原因となるのである。地主の分け前の眞實價格即ち彼れが他人の勞力に對する購買力は、生産物の眞實價值を増加するのみならず、彼れの分け前の全生産に對する割合もまた夫れと共に増加するのである。其生産物は、其實際價格の騰貴した後と雖も、是を收穫するに以前よりも多くの勞力を要する譯ではないから、ヨリ少い生産部分をもつて、其勞力を使用するに要した資本を回收することが出来る筈である。隨つて生産物の大部分は、必然の結果として、地主の手中に歸するのである。

勞働生産力を増進するすべての改良進歩は、直接に工業製造品の實際價格を低落せしめる傾向を有し、間接には地代を騰貴せしめる傾向を有する。地主は土地の生産物中自ら消費して餘つた部分を工業製造品に代へようと欲する。されば製造品の實際價格の低落は、即ち農業生産物の騰貴を意味するのである。即ち農產品の同分量は製造品の一層大なる分量と同價格となるのである。斯くて地主は其必要品、便宜品奢侈品の一層大なる分量を購買することを得るのである。

社會の富の進むに従ひ、その社會内の生産的勞力の増加するに従つて、間接に實收地代を騰貴せしめる傾向がある。増加した勞力の或部分は自然に土地の上に使用せらるべく、

土地の耕作に多くの人間と家畜を使用すれば随つて多くの資本を要すべく、資本の増加に随つて生産の増加を來すべく、生産の増加するに従ひ地代は騰貴するのである。

是に反して土地が發展し、土地生産物が減少し、製造工業の衰微の爲めに製造品が騰貴し、社會の富の減少することは、凡て實收地代を下落せしめ、地主の富を減少せしめ、随つて地主の、他人の勞力を購買する力を減少せしめるのである。

100
9

900A

第八章 資本論

第一節 概説

社會が極めて幼稚な時代には、分業はまだ行はれず、したがつて交換、交易といふこともまだ行はれない。各人は自らその必需品を製造若くは獲得しなければならぬ。斯る時代に於ては、事業を經營する爲めに資本を蓄積する必要はない。人は皆自己の努力によつて、其需要する所のものを供給する。饑ゑた時には森に行つて獵し、衣服の破れた時には自分の殺した獸類の皮を剥いで是を衣服に仕立て、家屋が破れた時には、其附近にある樹木と泥土とを以て、是を修覆する。

然し一度社會に分業が起るや、各個人の生産する所のものは、其時々の需要の一小部分を充すに過ぎなくなる。其需要の大部分は、彼自身の作つた物、若くは是を賣つて得た代價を以て、他人の勞働の結果を購買しなければならぬ。然し他人の生産品を購買する

ことは、彼自身の生産が完成した上、是を賣却して貨幣即ち交換の媒介物を得た後でなければ出来ないことである。そこで彼は自己の生活を維持し、その生産に要する材料と器具とを供給するために、所要の時期まで、種々の物品を貯蔵しなければならない。例へば茲に織物を専門とする者があるとすれば、彼は豫め何處かに、自分の所有にせよ他人の所有にせよ、彼が織物を作り上げ、是を賣却する迄の間、彼の生活を支持し、其材料と器具とを供給する爲めの資本を用意するのなければ、彼は決して其仕事に従事することは出来ない。此の資本の蓄積は、云ふまでもなく、彼がその特種の仕事に身を委ねる以前になさなければならない。

斯様な次第で、資本の蓄積は労働に先立たねばならない故に、豫め蓄積される資本の増加するに従ひ、労働は益々小分されることが出来る。労働が小分されるに従つて、同人数によつて働き得る材料の分量は増加する。そして各労働者の仕事は、愈々單純となる故に其仕事を一層簡單にする機械の發明が刺戟されるのである。それ故分業が進歩するに従つて、同種類の労働者に断えず仕事を與へる爲めに、社會が幼稚で分業があまり行はれなかつた時代よりも多くの食料と材料と器具とが豫め用意されなければならない。如何なる産

業にもせよ、分業が進歩するに従つて、其労働者の數を増加するのを常とする。或は寧ろ労働者の數が増加する故に、自然に労働者をして、幾多の小區分に分たしむることが出来るとも云ひ得るであらう。

斯様に、分業を促進し労働の生産力を増進するためには、豫め資本を蓄積することが必要である。資本が蓄積されるに従つて、生産力の發達進歩を見るのである。労働を支持する爲めに其資本を使用する者は、出来る限り、多くの生産を得るやうに是を使用するのは分り切つたことである。故に彼等は其労働者の間に最も適當な分業を採用し、また彼が發明し、若しくは購入し得る最良の機械を採用するのは分り切つたことである。この二點に關して、彼が有する實行力は、まづ彼の所有する資本額と、彼の使用し得る労働者數に比例するものである。それ故何處の國でも、資本の増加に従つて産業の量を増加するのみならず、其増加の結果として、同一規模の産業の生産額も、從來に比して非常に増加するものである。

これが資本の増加の、産業及び其生産力に及ぼす所の影響である。

第二節 資本の發生及び種類

二二八

人の所有する資本(生活資本)が僅かに數日若くは數週間を支ふるに足るのみならば、何人も是によつて収入を得ようとはしないであらう。彼は出来るだけ儉約して是を消費し、全部消費しつくさぬうちに、他に生活の資源を得るために労働するであらう。此場合に於て彼の収入は労働のみによつて得られる。是れは凡ての國に於ける労働貧民大多數の状態である。

然し若し彼れが數月乃至數年を支ふるに足る資本を有するならば、彼は其大部分を、収入を得るために使用し、只だ其小部分だけを、やがて収入が遣入つて来るまでの間の彼の生活を支持する爲めに保留するであらう。故に彼の全貯蓄は此場合二箇の部分に區別されねばならない。彼れが収入を得る爲めに使用する部分を稱して資本(キャッシュ)といふ。他は即ち彼が直接消費に供する部分であつて、第一、始めより此目的の爲めに保存された彼れの資本の部分、第二、如何なる原因によるかを問はず、徐々に彼の手中に入り来る収入、第三、以上の二者によつて前年中に購買した衣服家具の類で未だ消費し終らぬもの等から成る。

資本の所有主に所得、即ち利潤を得せしめる様に是を使用する途が二つある。

第一、資本は財貨を栽培し、製造し或ひは購買し、多少の利益を得て再び是を賣却することに使用し得るであらう。斯くの如く使用された資本は、同じ形のまゝで彼の手中にあるうちは何等の利益も持ち來さない。商人の手中にある物品は、賣却される迄は彼に何等の利益を與ふることなく、其貨幣も再び物品に代へられるまでは彼に多くの利益を齎すことがない。彼の資本は絶えず彼の手から出でて、形を變へて再び還つて来るのである。斯くの如き不斷の循環運動によつて彼は始めて利益を得るのである。故に斯る資本を流動資本と呼ぶ。

第二、資本は土地の改良、機械器具の購入、其他持主を代へ諸方に轉々する等のことなく、利益を生ずるやうな方法で使用することが出来るであらう。斯る資本を固定資本といふ。

職業によつて固定資本と流通資本との、用られる割合は異なるが、商業に於ては主として流通資本が用ひられ、大機械大工場等を要する工業に於ては大なる固定資本が用ひられ

る。

農夫が土地の改良の爲に投ずる資金は固定資本であつて、使用人に支拂ふ勞銀は流動資本である。耕作に使用する家畜の代價は、農業器具と等しく**固定資本**で、其飼養に要する費用は勞働賃銀と等しく流動資本である。併し農夫が其家畜を賣ることによつて利益せんとする場合には、家畜の買入代も飼養料も共に流動資本である。

一國或は一社會の資本も、各個人の夫れと異なる所はない。三箇の部分に分たれ、それぞれ異なる職分を有する。

第一は直接消費の爲めに保存される部分であつて、其特質は何等の利益收入をも齎らさない點にあり、食物、衣服、家財等が消費者によつて購買され未だ消費しつくされざるものである。一國の或時代に存在する住家と其一切の附屬物もまた此部類に屬する。茲に一人の資本家があり、家屋の爲めに多少の資本を投じたとしても、彼れ自身がその家に住むならばその資本は資本たるの性質を失ひ一文の收入をも生まない。それを他人に貸すとすると、借家料を生じて資本の働きをする。併し之によつて、社會に何等の収益が生ずる譯ではなく、社會全體の收入は是が爲めに一錢も増加しないのである。

次に來るものは固定資本である。社會の固定資本は次の四種類より成る。

(一) 産業上に必要な機械器具にして勞働を便利にし且つ勞働を節約するもの。

(二) 収益を目的とする建築物にして店舗、工場、飼養場の如く、其持主のみならず其使用者にも相當の利益を與へるもの、之れは住宅と異り産業上に必要な機械器具と同等の待遇を受くべきものである。

(三) 土地の改良、即ち開墾、排水、結柵、施肥等凡て耕作栽培の便を増すこと。土地改良は生産力を増加し、同一流動資本を以て一層大なる收穫を得しめる。

(四) 一社會に生存する人間の習得した有益なる技能。教育、修練、見習によつて斯る技能を習得するには相當の費用を要する。而してその費用は彼れ一身に於て固定資本となり、又彼れによつて實現せられつつあるといひ得る。斯る技能は彼れ一身にとつて一種の財産であると同しく亦た彼の屬する社會の財産である。職工の有する熟練と技能とは勞力を省略する機械と同様に見做し得るであらう。

社會の總資本のうち、第三にあげらるべきは流動資本である。これも左の四種類より成る。

世間も同じく文士の収入は多き外、さやど、
 男にも月給の多きを望む。ニヤ女は、男の同位
 資本たり得ない。殊に 31, 8,

(一) 貨幣。貨幣によつて以下の三者は其正當の消費者に流通され分配されるのである。
 (二) 飼畜者、屠殺者、農夫、穀商、醸造業者等の手にある食料品にして、賣却して利益を得る目的に供されるもの。
 (三) 衣服、家財、建築材料等にして、未だ家具商、呉服商、建築家等の手中にあるもの。
 (四) 完成したる商品にして未だ製造家商人の手中にあり消費者の手に渡らざるもの。
 以上四種の中の三種、即ち食料、材料、及び既成品の三種は年々或は早晚必ず、固定資本或は直接消費の目的物として引き去られる。凡て固定資本は流動資本より出で、又絶えず流動資本によつて支持される。總ての機械器具は流動資本によつて材料を供給され、又労働者は流動資本によつて支持される。
 固定流動兩資本の最後の目的は、直接消費の爲めに保存さるべき資本を維持し、是を増加するに在る。此資本こそ吾々に衣食住を供給するものである。吾々の貧富は要するに流動固定兩資本が、直接消費の資本に寄與する供給の多少を云ふに外ならぬ。
 流動資本の大部分はたへず他の二大資本を充實せんが爲めに引去られる故に、絶えず他より是を補充する必要がある。この補充は主として農業、鑛業及び水産業によつて得られ

る。是等の産業によつて食料及び材料はたへず供給され、而して其材料の幾分かはやがて製作品となり、製作品は再び食料及び材料と取り代へられ、斯くて絶えず流動資本より引去られるのである。又た鑛山より生産する所のものは、流動資本のうち貨幣より成立する部分を補充する。貨幣は他の流動資本の如く引去られることはないが、磨滅を免れず、また外國に流出することがある。故に少しづつではあるが絶えず補充するを要する。
 凡て生命財産の安全を保證された國で、普通の理性を具へた者ならば、其所有する資本をば必ず現在の享樂の爲めか、將來の利益の爲めに使用するであらう。若し現在の爲めに使用すれば、それは直接消費を目的とする資本である。若しまた將來の利益の爲めに使用するとすれば、自らは是を所有することによつて利益を得る方法と、是を己が手中より手放すことによつて得る方法との二つある。一の場合には固定資本となり、他の場合には即ち流動資本となるのである。生命財産の安全を保護されてゐるにも關らず、自己の所有にせよ人から借りたものにせよ、其有する資本を以上三者の中の何れかに使用しないものがあつたなら、それは全くの狂人と云はねばならぬ。

第三節 資本の蓄積——生産的労働

不生産的労働

労働に二種ある。一は其労働の結果として物の價値を増すもので、他は斯る結果を生ぜぬ労働である。前者を生産的労働といひ、後者を不生産的労働といふ。工業労働者の労働は其原料に自己の生活費と傭主の利潤丈の價値を添加するのが常であるが、是に反して僕婢の労働は何等の價値をも増さない。工業労働者は傭主から賃銀を受けるけれども、それによつて何等傭主に負擔せしめる所がない。何故なれば彼は其労働によつて傭主に利潤を與へるからである。然るに僕婢に支拂はれた賃銀は再び歸ることがないのである。多くの職工を使用することは富を増す所以であるが、僕婢を多く使用することは富を減らす原因である。僕婢の労働は固より無益のものでなく當然報酬を受くべき價値を有するが、其労働は労働の瞬間に於て消え去り、職工の労働の如く、其労働の結晶を後に殘すことがないのである。

世間で尊敬される階級に屬する者の労働にして、僕婢の労働と等しく、何等の價値をも

生産しないものがある。文武百官の如きは、一種の不生産的労働といはねばならない。彼らは公僕である。他の人民の勤勞より生ずる生産物の一部分によつて扶養せられるのである。法律家、醫師、文藝家等を始め、俳優、歌妓等の労働は、他の一定分量の労働と交換される價値をたしかに有するのであるが、同時に、その労働の結果として、後日、他の労働を購買し得るやうな何物をも生まない。皆その場かぎりで消失してしまふのである。

土地と労働によつて年々生産される一切のものは、結局は國民の消費に供せられ、その收入となるのは勿論であるが、生産物が土地或ひは労働者の手から出て來るとまづ、自ら二箇の部分に區別されるのである。其一にして、より大なる部分は、第一に資本を補充する運命を有し、他の部分は資本の利潤となる。

一國の土地と労働とより年々生産し、而して資本の補充に充てられ。部分は、生産的労働者を支持するの外、決して直接に他の目的には使用されない。利潤若くは地代として收入を組成する部分は、生産的労働者の支持に使用されると同時に、また不生産的の目的のためにも使用されるのである。

何人も其財貨を資本として使用するときには、之を回收した外なほ利潤を得ようとする。

故に只だ生産的労働者を支持する爲めにのみ之を使用する。而して其財貨が一度び資本たる職分を果し畢せた後には、所有者に對する収入を組成する。所有者がもし之を不生産的の目的に使用すれば、其瞬間から資本たる性質を失つて、直接消費のための財貨となる。

不生産的労働者及び全く労働せぬ階級に屬する者は、すべて次の二種の収入によつて支持される。第一は地代若くは利潤として、或人々の収入となるべく始めより定められた年々の生産である。第二は元來資本を回収し生産的労働者を支持することにのみ使用されるべき部分ではあるが、其生活を支持した剩餘をもつて、生産的或は不生産の兩様の目的に使用されるのである。斯くて管に大地主大資本家のみならず、一介の職工と雖も相當の收入ある者は、僕婢を雇ひ、觀劇に赴き、以て不生産的労働者を支持せん爲に、收入の一部を投ずることが出来るのである。或は又彼が租税を支拂ふならば、彼は名譽あり且つ有益な不生産的労働者を養ふことが出来るのである。しかし始めから資本を回収する筈に定められた部分は、生産的労働を完成した後でなければ不生産的労働の維持には向けられない。故に主として不生産的労働者の支持物となるものは地代及び利潤から生ずる。故に生産的労働者と不生産的労働者との比例は、何れの國でも、年々の生産中、土地若くは生産的労働

者の手中より出で来るや直ちに資本の補充に向けられる部分と、地代或は利潤として収入を組成する部分との比例によつて決せられるのである。そして此二者の比例は國の貧富にしたがつて大なる相違がある。

現代の歐洲諸強國の資本が、古代のそれよりも遙かに大であることは、先の方の章で利潤の低下を説明した折に述べた如くであるが、貧國と富國とを較べても、富國に於ける資本の割合は、その収入に當る部分よりも遙かに大である。

故に年々の生産中資本を補充すべく定まれる部分は、貧國よりも富國に於て一層大であるのみならず、又地代若くは利潤として直接に収入を組成すべく定まれる部分に比し遙かに大なる割前を有するのである。即ち生産的労働を維持すべく定まれる資本は、貧國よりも富國に於て大なるのみならず、また生産的・不生産的の何れにも使用されるが概して不生産的に用ゐられる部分に比して、遙かに大なる割前を有するのである。

以上二種の資本の比例に隨つて、國民が勤勉であるか否かは決する。吾々今日の國民は祖先に比して一層勤勉といはなければならぬ。何故なれば、現今に於ては、遊惰のために使用される資本に比して、産業維持のために使用される資本の方が、二三世紀以前に比

して遙かに大だからである。吾々の祖先が吾々のやうに勤勉でなかつたのは、産業に對する十分の刺戟獎勵がなかつたからである。

故に何れの國に於ても、國民の勤怠の度合は、資本と収入との比例によつて決せられるといつて差問へない。資本が多ければ産業が興隆し、収入が多ければ奢侈の風が生ずる。されば資本の増減によつて、自然に産業と労働者の増減を來し、随つて年々其國の土地と労働より生ずる生産物の交換價值を増減せしめ、其國民の實際の富と収入との上に増減を來すのである。

資本は勤儉によつて増加し、浪費と過失によつて減損せられるのを常とする。人は其收入から節約し得たものを資本に加へ、自ら之を生産に充用するか、他をして利用せしめて利息即ち生産の分前を取る。一個人の資本が年々の収入より節約し得たものによつてのみ増加する如く、一社會の資本も亦同一の次第によつてのみ増加する。

資本増加の直接原因は節約であつて、勤勉ではない。勿論節約によつて貯蓄せられるものは勤勉によつて生産されるのであるが、是を節約し貯蓄しないならば、決して資本は増加しない。

人が節約によつて年々餘すところのものも、實は、彼が年々費用に充てるところのものと等しく、年々規則正しく消費されるのである。然し是を消費する當人は大いに異なる種類の人である。富める人が始めからその費用に充てる部分は主として交際費や僕婢の使用費等に消費され、消費したあとに何ものをも遺さない。しかるに彼が年々節約貯蓄する部分は資本として使用され、之が消費に當るものは労働者、職人、製造家等であつて、其消費した所のものは後日利潤を添へて回收される。即ち、彼が節約した所のものは、生産的労働者によつて消費されるのである。故に、年々其収入の幾分を貯蓄する人は、労働者を支持すべき基本金を作り出すものといふことが出来る。

節約はしかし、何も法律や契約によつて、個人に強要せられてゐるのではない。個人をして節約せしめるものは、彼の自愛心である。即ち節約によつて生ずべき利益である。

世には浪費者があつて、その収入をひたすら不生産的用途に費消し、その上になほ、資本にまで消費の手を伸べる者がある。斯くて彼等の祖先によつて蓄積せられた資本を減少し、その必然の結果として、生産的労働の量を減少せしめ、随つて年々其國の土地及び労働より生ずる生産物の價值と、其國民の實際の富を減少する。若しかゝる浪費が他の人々

の節約によつて補はれないならば、浪費者の行爲は、勤勉な人々のパンを奪つて之を怠惰者に與へることにより、彼れ自身を乞食とするのみならず、大いに其國家を貧困ならしめる結果を招くのである。

過失は、浪費と同一結果を生む場合がある。農業、工業、貿易業等に於ける未熟の計畫より生ずる失敗によつて、資本を減損することがある。

然し大國民の間では、個人の浪費若くは失敗のために、其國勢に影響を蒙るやうなことは殆んどない。一方の浪費と過失は、他方の節約と思慮深い行爲によつて辨償せられてなほ餘りあるのが常態である。

個人の節約と思慮深い行爲は、個人の浪費と過失とを辨償するばかりでなく、最も多くの場合に於て、國家の浪費過失をも辨償する。各人が自ら其地位境遇を向上せしめんとする不斷の努力により、一個人の境遇も國家社會の情態も改善されるのである。

政府の浪費により、英國國民の經濟的進歩を阻害せられたことは疑はれないが、しかもそれが爲めに自然の進歩を中止することは出来なかつた。政府が常に誅求を逞ふするに關らず資本は、各自の境遇を改善しようとする動機により、個人の節約と思慮ある行爲によつ

て、陰微の間に徐々として蓄積せられ、今日の如き大資本國を築き上げたのである。過去に於て、經濟上に於ける英國の進歩發達を促進したものは、實に、自己の境遇を改善しようとする個人の努力が法律によつて保證され、自由にその力を發揮し得たからである。英國政府は曾て節儉の美德をもつて國民を指導したことなく、また英國國民も決して此徳に殊に秀でたものではない。たゞ國民各自の自愛心が、斯く英國を發達せしめたのである。されば帝王宰相等が奢侈を禁する法律を作り、若くは奢侈品の輸入を禁退して、私人の經濟を指導しようとする如きは寧ろ僭越の沙汰と云はねばならない。社會に於ける最も大なる浪費者は帝王宰相等に外ならぬ。彼等をして彼等自身の費用に注意せしめよ。個人のごとは、個人に放任して好い。若し爲政者等の浪費にして國家を危くすることがなければ、國民の浪費は敢て意とするに足りない。

第四節 金利資本

利息を得る目的をもつて貸出された元金は常に其貸主によつて一の資本と見做される。貸主は一定の時期を過ぎれば、其使用料を添へて元金の返還されることを期待する。負債

者はその借金を資本として使用するのも、また直接消費の用に供するのも勝手である。彼が若し資本として之を利用するならば、彼はその収入に喰ひ込むことなしに、其資本を回収し利子を支拂ふことが出来る。之に反して彼が若し直接消費の爲めに之を使用するならば、彼は一個の浪費者となるのであつて、彼はその財産、地代のやうな他の収入を喰ひ込むことなしには、其元利を支拂ふことが出来ない。

利息を得るために貸出された元金は、勿論以上二種の何れにも使用され得るが、生産的に使用される場合の方が多い。直接消費のために負債するものは、やがて行詰りを來して倒産することがあらう。故に斯る貸借は何れの場合に於ても——非常の高利の場合は別として——雙方にとつて不利益である。そして斯る貸借が屢々世上に行はれるのは事實であるが、各人はみな自己の利害を考へる故に、或人々が想像するであらうやうに、それ程頻繁に行はれるものではない。

利息を得るための貸金の殆んどすべては、紙幣若くは金貨等の通貨をもつて受授される。しかし借り手が實際要求する所、貸手が供給する所のものは、金銭ではなくて、金銭の價値即ち金銭の購買能力である。

故に一國に於て利息のために貸出され得る金銭の分量は、その機關として用ゐられる紙幣貨幣等の金銭の價格によつて支配せられず、年々の生産中土地及び生産者の手から出で来るや否や直ちに資本たるべき運命を有し且つ其所有者が自ら使用することを望まぬ資本たるべき部分の價格によつて支配されるのである。此の種の資本は常に金銭で貸出され金銭で回収される故に、それに依つて生ずる利益は金利と呼ばれる。

金利は土地の収入と異なるのは云ふ迄もなく、商業若くは製造業の利益とも異なる。何故なれば商業若くは製造業に於ては所有者自身で其資本を運用するからである。

何れの國に於ても、年々の生産中土地及び生産者の手から出で来るや否や直ちに資本を補充する役目を有する部分が増加するに随ひ、利息を得る爲めに貸出さるべき資本の額も自然に増加する。所有者自らが運用する骨折をとらずに、収入を得ようとする如き特種の資金の増加は、固より一般資金の増加に伴はねばならない。更に言を換へて云へば、財富の増加するに随ひて、利子のために貸出さるべき資本部分も徐々に増大するのである。

利子のための資本の量の増加するに随ひ、利子即ちその使用料は減少する。其原因は、賣物品の増加に伴つて物價の下落を來すといふ一般原則によるのみならず、金利の場合に

限る一種特別の原因がある。資本の増加に随つて、その利用より生ずる利潤は必ず減少せざるを得ない。新たに増加せる資本を有利に利用する方法を見出すことが困難となるにつれて、資本家間に競争を生じ、既に他人の占據せる領分に侵入せざるを得なくなる。既に他人に占領せられた區域に侵入するには、他人より一層有利な條件を提出するの外はなく、彼はその商品を幾分か廉價に賣らざるを得ない。のみならず時としては原料を仕入れるのに他人よりも高價を支拂はねばならぬことがある。また資本の増加に随ひて、生産的労働者の需要は益々増加し、雇主の間に競争を生じて労働賃銀は騰貴し、利潤は減少せざるを得ぬ。斯様に、資本の利用によつて生ずる利益が低落すれば、資本の使用料たる利子が低落するのは分り切つたことである。

ロツク、ロー、モンテスキュー等を始め、多くの人は歐洲に於ける金利低落の原因をもつて、スペイン領西印度諸島發見の結果金銀の量を増加したためとしてゐるやうである。其の云ふ所によれば、金銀の量が増加し價格が低落したために、其一部分の使用は以前ほどの價値がない。随つて其使用料として支拂はるべき代價も低減せざるを得ないのである。

この議論は一見頗る道理に適つてゐるやうであるが、其實一箇の謬見に過ぎないことは

ヒュームが十分に論破してゐる。

西印度諸島發見以前歐洲各國の金利は大體一割を普通としたが、發見以後漸次低落して、國の異なるに隨ひ最高六分より最低三分の間を往來するのを普通とするに至つた。若し各國に於て銀の價格が利子の相場と同一の比例で下落したと假定したならば、利子の相場が一割から五分に下落した國では、以前と同量の銀をもつて以前の半分の商品しか買へないことになる。是れは事實に反してゐる。そればかりでなく、銀價の下落が利息を下落せしめる些の傾向をも發見することは出来ない。

銀の量は増加しやうとも、銀の媒介によつて流通せらるる財貨の量が増加せぬならば、その結果は只だ銀の價格の下落を來すのみで、外に何の影響を生ずることもない。凡ての財貨の名目上の價格は騰貴するであらうが、其實價は以前と毫も異らない。同一分量の財貨を以て以前よりも多くの銀貨と交換することは出来るであらうが、是によつて使用し得る労働の分量も、維持し得る人間の數も、以前と異らない。資本の同様の部分を一方より他方に流通するには、以前より多量の銀貨を要するとも、一國內の資本は毫も増減しない。たと受授の繁雜を來すだけである。

是に反して、金銭の額が増減せぬに關らず一國內に流通する財貨の量が増加することがあれば、金銭の交換價值を騰貴させるばかりでなく、其他に種々重大な影響を生ずる。其國の資本は名目上では同一であるが、それによつて代表される實際の資本は増加したのであつて、同額の金銭で言ひ表はされる資本は、以前よりも多くの労働を使用することが出来るのである。また労働者を維持する生産の部分が增加する故に、自然に労働の需要を増加する。其賃銀も勿論需要と共に増加する。表面上の労働賃銀は以前と異らず、或ひは以前より低額なことがあつても、その賃銀によつて以前よりも多くの財貨を購買することが出来るのである。資本に對する利潤は、實際に於ても表面上からも共に減少するを免れない。資本の増加により、諸種の資本間に競争を生ずるのは當然の成行である。

第五節 資本の用途

資本は總て生産的労働を維持するためにのみ使用さるべきものであるが、同一分量の資本によつて動かされる労働の分量は、産業の種類異なるに隨つて大なる相違がある。

資本の使用される方面は、左の四種に分類し得る。第一、毎年其社會の使用消費に供さるべき天産物の獲得。第二、直接に使用消費し得るやう天産物に加工すること。第三、以上の天産物と加工物とを潤澤な地方から缺乏せる地方に運ぶこと。第四、需要者の使用消費に便利なやう、之を適當の量に小分すること。

土地の改良耕作、鑛山の開發、及び漁業等に使用される資本は第一部類に屬し、製造業は第二類、卸賣商は第三類、小賣商は第四類に屬する。

以上四種の方面に於て、其資本使用の任に當るものは即ち生産的労働者である。彼等の労働は生産品の上に實現し、少くとも彼等自身の生活維持に要した價格を其生産品の代價に附加するものである。農業、製造業、卸賣業、小賣業の利益は凡て、前二者が生産し後の二者が賣捌くところの物品の代價から出する。併したとへ同額の資本を以上四種の用途に充用しても、是によつて起る生産的労働の量に至つては非常な相違がある。また年々其土地と労働とより生ずる生産物に附加する價格に至つても非常な懸隔がある。

小賣商人の資本は其利益と共に、彼が其商品を購入した卸賣商の資本を返還し、卸賣商の營業を繼續し得させる。生産的労働者として直接に資本によつて使役せられるものは小賣商人自身のみである。されば彼れの利得中には、其勞役によつて土地と労働とより生ず

る年々の生産物に附加せらるべき全價格を含有する。

卸賣商の資本は其利益と共に、彼等が物品を購買する農夫及び製造家の資本を還済し、以て彼等の業務を繼續し得させる。彼等卸賣業者が間接に生産的労働者を支持し、其年々の生産物の價格を増すのは主として此方法によるのである。また彼等の資本は商品を買所より乙所に運搬する運送人を使役し、彼等自身の利益のみならず、運輸労働者の賃銀だけ其商品の價格を増加する。運輸労働は實に彼等の資本が直接に使役する生産的労働の一切であつて、又た直接に年々の生産に加へる總ての價值である。

製造業者の資本の一部は機械に於て固定資本として使用され、其利益と共に、是を購入せる他の製作業の資本を還済する。其流通資本たる部分は、原料の購入に使用され、其利益と共に、彼が是を購入せる農夫及鑛業家の資本を還済する。併し流通資本の大部分は、彼が使用する労働者の間に分配される。そして其賃銀と、雇主の利益だけ、原料の價值を増加するのである。故に卸賣商の資本に比すれば遙かに多くの生産的労働を使役し、また土地と労働より生ずる年々の生産に對して遙かに多くの價值を附加するのである。

農業資本は、最も多くの生産的労働を使用する。農夫にとつては、僕婢のみならず家畜

さへも亦た生産的労働者である。其上に農業に於ては自然も亦た人と共に働く。其労働に對し一錢の賃銀も支拂ふことを要しないが、其生産物の價值を増す點に於ては最高級の労働者の労働にも勝る。農業に於て最も重要なことは、自然の地味をして一層豊饒ならしむるよりも、自然の地味をして最も人間に有用な財貨を生産せしめる様指導することである。土地は、或程度まで人力を加へた上は、全く自然の手に放任するの外はない。故に農業に使用された労働者と家畜とは、製造業に於ける労働者の如く、彼等の生活費に等しい價值を其生産物に附加するに止らず、それより遙か大なる價值を附加するのである。農夫の資本と利益との外に、地代をも悉くその中から還済する。蓋し地代なるものは、天然力の生むものであつて、其天然力を地主が農夫に貸與した代償と見ることが出来るのである。地代は想像上に於ける是等の力の大小、換言すれば、想像上に於ける、自然及び人爲による土地の豊度に随つて高下するのである。人力によるものと想像し得る一切を引き去つて、あとに残るものは即ち自然の力による生産である。製造業に於ては自然力に頼ること殆んどなく、全く人力によつて生産を行ふ故に、製造業に使用されたる同量の労働は到底農業の如く大なる生産をなし得ない。製造業の生産は全く人力の多少に比例する。故に農業上

に使用されたる資本は、製造業に使用されたる同額の資本に比して、一層多くの生産的労働の活動を惹起するのみならず、また生産的労働の量に比較して一層多くの価値を、年々土地と労働とより生ずる其國の生産に與へ、随つて最も多く其國民の實際の富と収入を増加するのである。故に農業に使用された資本はすべての資本中最も多く國家社會の福利を増進するものである。

二五〇

第九章 重商主義論

第一節 富と貨幣との同一視

富は貨幣即ち金銀から成立するとは、從來一般世俗の解釋する所であるが、是れは、商業の機關及び價值の尺度として貨幣の有する二箇の職分から自然に起つた考である。

貨幣は商業機關である故に、吾々は貨幣を持つことによつて、他の財貨を持つ場合よりも一層容易に吾々の欲求する物品を得る便宜がある。故に吾々は常に貨幣を獲得すべく努める。一度び貨幣を獲得すれば、是によつて他の物品を購買することは頗る容易である。

また貨幣は價值の尺度である故に、凡ての物品が評價される場合には、其物品と交換し得る貨幣の量によつて評價を決定されるのである。吾々が富者といふのは多くの貨幣をもてる人であつて、貧者といふのは貨幣を少く持てる人である。世俗の意味で富を増すといふことは、貨幣を増すことである。即ち、富と貨幣とは全く同意義に解されてゐるのであ

Commentaire

る。

個人の場合と同じく、富國とは多くの貨幣を有する國家であつて、金銀を國內に多く蓄積することは、富國たる所以と解されてゐる。西班牙人が亞米利加を發見して後、當分の間、他の未見の土地に達するや否や、第一に探査したのは其附近に金銀鑛があるかどうかといふことであつた。そしてその探査の結果によつて彼等は、其土地が征服に價するものか否か、植民に價するものか否かを決した。

佛蘭西から、韃靼人の許へ大使として派遣された僧侶ブラノ・カーピノは、韃靼人から屢々佛蘭西に多くの牛羊があるか何うかを問はれたことを語つてゐる。韃靼人が牛羊の有無を問うたのは、西班牙人が金銀の有無を問うたのと其意味は全く同じい。韃靼人は他の牧畜民族と同じく、家畜を交易の媒介物、價値の尺度として用ゐたのである。故に西班牙人が富は金銀より成ると思つたやうに、彼らに隨へば富は即ち家畜より成立するのである。何れかといへば、韃靼人の見解の方が寧ろ眞理に近いと云はねばならない。

ロツクは貨幣と他の動産とを比較して次のやうに云つてゐる。曰く、他の動産はすべて消滅し易い性質を有し、甚だ信頼すべからざるものであるが、貨幣はさうでない。甲の手

から乙の手に、乙から丙にと轉々するが、其國內にあるうちは容易に消滅するものではない。それ故金銀は一國民の動産中最も堅固永續的なものである。だから貨幣を増殖することは、經濟學の最大目的となるのである。

或者はまた次の見解を抱いてゐる。若し何れの國民でも他國民と全く孤立して存在するならば、其國內に流通する貨幣の多少は國の貧富に何の關係もない。何故なれば一國內に在る金銀の多少は、只だそれによつて流通する消費品が多くの貨幣と交換されるか少額の貨幣と交換されるかと關係するばかりだからである。國の貧富は是等の消費品の多寡によつて決するのである。然し外國と關係を有し、外國と戦争を開き、遠隔の地に艦隊と陸軍とを支持する必要がある國民にとつては、事情が全く異つて来る。是等の備へをするには海外に金銀貨を支拂ふことを要する。海外に金銀貨を支拂ふには國內に多くの金銀を所有する必要がある。故に斯る國民は、平時に於てなるべく多くの金銀を貯藏し、一朝有事の際に備へなければならぬ。

斯様な通俗な見解から、歐洲各國では何れも國內に金銀を蓄積する方法を講じた。是等金銀を歐洲に供給する主なる金銀鑛の持主で、歐洲諸國へ金銀を供給した西班牙、葡萄牙

の兩國は、罰則を設けて金銀の輸出を禁じ或ひは重い輸出税を課した。斯様な政策は古代歐洲の何の國にも行はれたやうである。同一政策が英佛二國に行はれたのも勿論である。然るに是等の諸國が漸く商業的となるや、商人は此禁止政策の不便を感ずることが益々甚しくなつた。彼らは外國品を購入するに當つて、物品と交換するよりは貨幣を支拂ふ方が非常に便利である。そこで彼等は此禁止政策をもつて商業の發達を妨害するものとなし、抗議運動を起すに至つた。

彼等は第一に外國品を購入する爲めに金銀を外國に送ることは、必ずしも常に國內の金銀を減少するものでなく、かへつて是を増加する所以であることを主張する。何故なれば一旦外國から輸入された商品は國內で消費されない部分は加工せられて再び外國に輸出され、多くの利益を得て、以前に支拂つたよりは多額の金銀として回收されるからである。

彼等は第二の理由として、金銀は容量の小なるものであるから密輸出することが極めて容易であり、禁令は全く空文に畢ることを擧げる。若し十分に目的を達しようとするなら、只貿易の均衡に依頼するの外はない。即ち一國の輸出額が輸入額に超過すれば、其超過額だけは外國から貨幣をもつて支拂を受け、國內の金銀は増加する。是に反して輸入が超過すれば、それだけの貨幣は外國へ流出し、國內の金銀は減少するのである。

第二節 貿易均衡説

右の議論の一部分は眞理であるが、一部分は詭辯である。商業上に於て金銀を外國に流出するのは却つて其國の利益たることがあるとは眞理である。又た金銀を外國に流出することによつて利益を得らるべき場合には、たとへ禁令を設けても流出を防止することは不可能であるといふのも眞理である。然し彼等が金銀を國內に留保し、是を増加せしめるために、他の物品の量を増加することよりも多くの注意を、政府が拂はなければならぬやうに論ずるのは誤謬である。斯様なことは、別に政府の注意に俟つまでもなく、自由に放任すれば、自然に適當の分量を供給し得られるものである。

然し斯様な理論も、甚だ當時の人々を動かす力があつたのである。當時の商人等は此理論をもつて王侯、議員、地主等に説いた。外國貿易によつて國家の富を増したことは貴族も、地主も經驗によつて知つたが、如何にして國富を増したかは誰も知らなかつた。商人は自己等の業務である故に如何にして彼等自身を富ましめたかは十分に知つたが、國家の

ことは自ら別問題である故に、如何にして國家を富ましたかは彼等も知らなかつた。彼等は、外國貿易に關する法律の改正を要求するに至つた時まで、此問題を考へたことはなかつた。此時に至つて始めて彼等は、外國貿易の國家に及ぼした好影響と、當時存在した法律のために如何に妨害を受けたかを云々するに至つたのである。

彼等の主張は貫徹せられて、英佛二國に於ては金銀輸出の禁を解き、只だ其國定の貨幣だけ輸出を禁ずることとなつた。和蘭其他二三の國では其國の貨幣までも輸出を許した。而して政府の努力は、金銀禁輸より轉じて、通貨を増加する唯一の方法として、貿易均衡の一點にのみ集中されることとなつた。これは實に、一の無益な政策から、一層複雑にしてしかも等しく無効な他の政策に轉じたものに過ぎない。斯くて、貿易熱が支配的勢力を振ひ、凡ての商業のうち最も重要な内國商業は外國貿易の附屬物と見做されるに至つた。内國商業は國內の金銀を外國に持ち出すことはないが、外國から内國へ持つて來ることもない。故にその振不振は間接に外國貿易に影響を及ぼすが、直接に國家の貧富の上には何等の影響をも與へるものでないと思はれたのである。

其領土内に金銀鑛を有せぬ國家は、勿論外國から金銀を得なければならぬ。それは葡萄を産せぬ國が、葡萄酒を外國から輸入するのと異ならない。併し政府が、葡萄酒の輸入よりも金銀の輸入に一層注意しなければならぬ理由は少しもない。金銀もまた他の財貨と同じく、相當の代價をもつて購買し得るものである。金銀が他の財貨の代價たる如く、他の財貨も金銀の代價たり得るのである。故に政府の干渉がなくとも、商業上の自由さへあれば、金銀は何時でも相當の代價で購入することが出來、敢て困難を生じないのである。

人間が購買し又は生産し能ふすべての財貨の分量は、自然に實際の需要——其財貨を生産して市場に送り出すために支出さるべき地代、勞銀及び利潤を支拂はんとする需要者——の如何によつて左右される。併し金銀ほど容易にかつ正確にこの需要に左右されるものはないであらう。蓋し金銀は取扱に便利である故に、過剰な所から缺乏せる所に、高い所から低い所に、有無相通する作用が最も完全に行はれるからである。

それ故、金銀の産出がその需要に超過する國が、如何に金銀の輸出を嚴禁しても其實行は不可能である。是に反して金銀の分量が需要に應ずる能はず、隨つて其代價が近隣の諸國より高い國では、政府の干渉を俟たずして金銀の輸入が行はれる。たとへ政府がそれを禁じても無効である。

自然は斯くの如く作用する。假りに一步を譲つて、金銀を他國に仰がねばならぬ國が金銀の不足を來したとしても、それが爲めに受ける困難は他の物品の不足した場合よりは輕易である。若し製造の原料を缺いたならば、工業は中止しなければならぬ、若し又食料を缺いたならば國民は餓死しなければならぬ。然るに金銀が缺乏した時は、假令不便でも實物交換によつて其不足を補ふことが出来る。況んや、十分に整つた紙幣制度があるならば、何等の不便も感じないのである。

貨幣の缺乏を訴ふる聲は常に至る所に聞かれることであるが、貨幣も亦葡萄酒と同様なもので、之を買ふ貨幣を持たず、また其貨幣を他人から借りる信用を持たない人間は、常に缺乏を感じるに相異なる。しかし其何れかを有する人は、彼等の必要とする貨幣なり葡萄酒なりに不足することはない。

然し乍ら貨幣不足の苦情は、先見の明のない浪費家にのみ限られたことではない。此苦情の聲は往々にして一商業都市全體或ひは其附近の地方全體を通じて聞かれることがある。實際資力の限度を超えて事業を營むこと、即ち資本力不相應の取引をすることが、此苦情の普通原因である。其事業計畫が資本に相應しない——即ち資本に較べて法外に大きな事業

計畫をする人が、動もすると貨幣に行詰ることは、恰も其費用が其收入に超過する浪費者の場合と異なる。彼等の計畫が實行に着手されない前に、既に彼等の資本は何處かへ消えてなくなり、それと共に彼等の信用は消失して終ふ。彼等は東奔西走血眼になつて貨幣借入れに努めるが、誰も彼に貸す貨幣はないと答へるのみである。貨幣缺乏の斯かる一般的苦情はしかし、常に必ずしも、其國內に通常數量の金銀片が流通してゐないことを證するものではない。只だ此等金銀片に代へて與ふべき何物も持たない多數の人々が、金銀片の缺乏を感じその充足を要求してゐることを證するに過ぎない。商業利潤が偶々普通よりも大なる時には、事業の過大、即ち實際の資力を超えて事業を經營することは、大小商人が普通に陥り易い間違ひである。彼等は必ずしも、平等よりも多くの貨幣を國外に輸出するのではないが、併し彼等は内外國に於て異常の數量の商品を信用買し、是を遠隔の市場に或る期間の後に利潤を儲けて歸つて來るであらうことを豫期して送り出す。所が、其商品が利潤を得て歸つて來る前に、其商品の本來の供給者から、支拂ひ請求が來る。彼等は此の請求に應ずべき貨幣を持たず、賣つて貨幣に代ふべき物を手許に持たず、借金の擔保として提供すべき物を手許に持たない。

かくの如くして、一般的なる貨幣不足を惹起するのは、全く金銀の不足ではなくして、過大の商取引をせる人が貨幣を借入れるに際して見る困難、及び彼等の債権者が、債権の取立てに際して見る困難に過ぎないのである。

富は貨幣のみより成立せず、貨幣によつて購買せられる財貨により成立する。金銀はただ他の財貨を購買する價值があるだけである。斯様に明白なことを、眞面目腐つて論證するのは寧ろ滑稽であらう。貨幣は固より資本の一部分を構成する、併し最も利益の少い部分であることは、前に金利を論じた際に述べた。

貨幣を以て他の財貨を購買することは、財貨を以て貨幣を購買するよりは概して容易である。併しそれは、貨幣が他の財貨よりも一層重要な富の部分だからではない。只だ貨幣は最もよく人に知られた交易の機關で、容易に他の物品と交換し得るからである。その上多くの物品は貨幣に比すれば保存の便少く、又支拂機關としても他の物品よりも貨幣の方が便利である。更に又物品を購買するよりも賣却することによつて、利潤は直接に得られるのである。凡て是等の事情が相重つて、何人も其所有する貨幣を物品に換へるよりも、物品を貨幣に換へようとするのである。

商人は賣らんが爲めに、即ち貨幣に換へる爲めにのみ、其商品を倉庫に貯へる。それ故貯藏商品が適當の賣れ口を見出し得なかつた場合には、彼は破産することがある。併し國家の場合は事情が別である。一國に於て、年々の生産中外國に賣出さんとする部分は國內の消費に充てられる部分に比べれば僅かの部分に過ぎない。それが外國の金銀に換へられなかつたとて國家が倒産することはない。勿論多少の困難は生ずるであらうが、併しそれが爲めに其土地と勞働との年々の生産は變化せぬ。或は殆んど變化せぬ。

物品は貨幣と交換される外、多くの用途に供せられるが、貨幣は物品を購買するの外、何事もなし得ぬ。故に貨幣は必ず物品に附隨するが、物品は必ずしも貨幣に附隨しない。物品を購買する者は、必ずしも是を再び貨幣に換へず、自ら消費することがある。然し物品を賣却する者は、賣つて得た貨幣で再び何物をか買はんとするのである。人が貨幣を欲求するのは、貨幣を最後の目的とするのではなくして、得たる貨幣をもつて他の物を購買しようとするのである。

或者は論じて曰ふ、消耗品はすべて速かに消失するが金銀は永久に存續する。若し入るを謀り出るを制して斷えず蓄積して行つたならば、數代の間に莫大な國富が蓄積されるで

あらう。此永續的な金銀をもつて、忽ちに消費さるゝ物品と交換するのは國家にとつて非常な損失ではないかと。

併し乍ら我々は英蘭の鐵器類と佛蘭西の葡萄酒との交易を目して、英蘭に不利益とは思はぬ。しかも鐵器類たるや、高度の持續的財貨であつて、若しも是を不斷に輸出することがなくば、鐵器類も亦金銀の如くよく數代の間蓄積せられ得べく、つひに其國の鍋や釜を信ぜられぬ程増加するだらう。然し乍ら斯る器具の數は何れの國にあつても、其國が是等器具に就て有する用途によつて必然制限されるのは、明かなことである。そして其國に於て平常消費される食物を調理するに必要な限度を超えて、多くの鍋釜を有することが如何に馬鹿々々しいかも明かである。また若しも食物の量が増加すれば、増加された食物の量の一部分は鍋や釜の購買に使用され、又は鍋釜を製造することを業とする人々の増加數を維持するために使用されるから、鍋釜の數は食物の量の増加と共に容易に増加するであらうといふことは容易に考へられる。それと同時に、金銀の量は何の國に於ても、其國で金銀に就て存する用途によつて制限されて居り、そして金銀の用途は鑄造貨幣として財貨を流通せしめ、又金銀製器物を供給するにあり、鑄造貨幣の量は何れの國に於ても、是によつ

て流通せしめられる財貨の價值によつて決定され、此財貨の價值を増加すれば直に此財貨の價值の一部分は、此財貨を流通せしむるに必要な鑄造貨幣の増加量を獲得する爲に何處でも金銀の獲られる外國に送り出されるであらうし、又金銀器物の量は、此種の奢侈に耽らうとする人の數及び其富によつて決定され、かゝる人及び富を増加すれば、此増加された富の一部分は、金銀製器物の増加量を獲得購買するために何處へでも送り出されて使用されるであらうし、而して何れの國たるを問はず其國の富を、金銀の不必要なる量を輸入し蓄積することによつて増加せんとすることは、或家庭が勝手道具の不必要なる數を保有するために御馳走の増加を企てることと同様全く馬鹿々々しいものであることが容易に分る。

是等不必要なる道具を購買する費用は、家族の食物の量も又品質をも低下せしめるものではあるが増加せしむるものではないと同様に、金銀の不必要なる量を購入する費用は、何の國にあつても、其人民に衣食住を供給し其人民の生活を維持する富を必然的に減少せしめる。金銀が、鑄造貨幣の形態を取らうが金銀器物の形態を取らうが、結局道具に過ぎないことを記憶せねばならない。金銀の用途を増加すれば、即ち金銀によつて流通される

物品の量を増加すれば、貨幣の量は増加する。しかし不自然の手段によつて金銀の量を増加しようとするれば、金銀の用途及びその量さへも、反つて減少せしめるものである。蓋し金銀にして其用途が必要とする量以上に蓄積されれば、金銀の輸送は極めて容易であり、且つ空しく死蔵することの損失は極めて大である故に、如何に嚴重な法律でも、金銀が直に其國外に輸送されることを防止し得ないであらう。

第三節 戦争と貨幣

他國と戦争をする際に、金銀がなければならぬとは、重商主義の主張の一つであるが、しかしそれは常に必ずしも必要であるのではない。即ち金銀にのみ依らないで、戦争は出来るのである。陸海軍は金銀を以て維持されずして、砲彈糧食等の消費財を以て維持されるのである。其國內の産業から生ずる年々の生産物からして、遠く戦線に在る軍隊船艦の必要物は調達される。——或ひは本國から直接に必要な物資を輸送することに依り、或ひは本國生産より生ずる所得をもつて外國の物資を購買することに依り。

一國、遠民は隔の地に在る軍隊の給料を支拂ひ其食料品を購買するのに、次の三方法を採ることが出来る。(一)は其國に蓄積された金銀を、(二)は其國の製造業の年々の生産物の或部分を、(三)は其國の年々の農産物の或部分を、海外に輸送することによつて。而して何れの國たるを問はず、其國內に貯藏されてゐる金銀は(一)流通貨幣、(二)私人の有する金銀器具、(三)君主の國庫に貯藏されてゐる貨幣の三部分に分けることが出来る。

其國に流通してゐる貨幣の中から、多大の節約をすることは困難である。貨幣は平時に於て、其國の財貨を流通せしめるに相應した分量が國內に流通してゐるのであつて、それ以下に止ることはないが、またそれ以上に過剰に存在することもない。戦争に際しては多數の人民が國外に送り出され、國內で維持される人口數が減るから、従つて従前より少い財が國內に流通され、この減少した財を流通せしめるに必要な貨幣數量は従前よりも少くなつて來るし、また斯る非常時に於ては大藏省證券や銀行券が多額に發行されて金銀貨幣に代用するから、平常よりは、戦時に於ては海外に輸送し得る金銀の量を増加する。さりとら右の一切の事情を合せても、巨額の経費と長い歳月を要する外戦を維持することに比較すれば、それは貧弱な一手段を提供し得るに過ぎない。

私人の有する金銀器物を鑄解して、戦費の幾分を調達することは出来るが、然しその限度たるや極めて貧弱で、幾何の貨幣もそれによつて造出し得るものではない。

君主の有する金銀は、往時に於ては國民の富の中の重要部分をなし、戦費を捻出する上に於て右二者に比して一層大きな一層永續的な財源であつた。しかし現代國家に於ては、普魯西を除外すれば、君主が多大の金銀を蓄積することは何の君主の政策にも採用されてゐないのである。

佛國との戦争は大不列顛國に九千萬磅以上の出費をかけた。而して此経費の三分の二以上は、遠隔の諸國——獨逸、葡萄牙、亞米利加、地中海の諸港及東印度等で費された。英蘭の諸王は未だ決して多大の蓄積された金銀を有たなかつた。また英國民はその戦争中、私人の有する金銀器物が多量に鑄解されたことを聞かなかつた。而して英國内に流通してゐた金銀貨はそれまで一千八百萬磅を超えるとは想像されなかつたのである。君主の所有金銀も、民間の所有金銀も、流通貨幣額も斯る状態であつたに拘らず、英國は海外に於て少くとも六千萬磅の戦費を支出して、しかも何等の困難も感じなかつたのである。貨幣を獲得する必要手段を有する者にして、貨幣の缺乏に苦んだ者は一人もなかつた。是に依つて

觀るに、戦争の莫大な経費は、金銀の輸出に依らずに、何かしらの英國財貨の輸出によつて、主として支辨されたのである。

農業生産物は價格低く、容量大にして、海外に輸送するに不便不利である。のみならず一國の農業生産物といふものは、其國の需要を充す限度に止るものであつて、それ以上に多量に生産されることはない。しかるに工業生産は、比較的容量小にして價値の大なる物を生産する。而して其生産は、農業生産の如く自然の制限を受けること少く、人爲を以て多大に増加し得るものである。故に戦争に當つて外國に有利に輸出し得る財貨は、工業生産物である。

第四節 外國貿易より得る眞の利益

金銀の獲得は、一國民が外國貿易より得る主たる利益でもなければ、況んや唯一の利益でもない。外國貿易は、如何なる場合に於ても二箇の利益を齎す。即ち外國貿易は、諸國の土地及勞働の生産物中自國內の需要を充して餘つた餘剰を海外に輸送し去り、而してこの不用な餘剰部分の代りに自國內に必要な需要のある何か他の物を持ち還る。斯る外國貿易

易の作用あるが爲めに、其國に於て上進し得る技術又は産業上の分業は最高度にまで上進し得て、内國市場の狹隘な繩張りに制限されないことになる。即ち市場の擴大によつて分業の促進を可能ならしめるのは貿易の一徳である。其國の労働の生産物中の如何なる部分たりと雖も、其國內消費に超過する部分があれば、是に最も廣濶な市場を展開してやることによつて、外國貿易は労働生産力を益々増進せしめ、而して之に依つて、其社會の眞實の所得及眞實の富を増加せしめる。外國貿易は實に、貿易の營まるる諸國に對して此等の甚だ重大な職務を絶えず果してゐるのである。一國に餘剰の物を、之に不足する他國に輸送し、そして市場を擴大することによつて生産力を増進させる、これが貿易の眞の利益で外國から金銀を持つて來るのが貿易の目的ではない。外國から金銀を持つて來るのも、金銀鑛のない國にとつては必要なことで、之も一つの貿易の仕事ではあるが、しかしそれは貿易中の微々たる部分である。唯だ單に金銀を輸入する爲めに貿易を營むであらう處の國は、備一世紀間に一艘の船をふ必要もないであらう。

亞米利加發見が歐羅巴を富ましたのは、金銀を亞米利加から持つて來たからではない。亞米利加鑛山の發見によつて、歐洲の金銀は従前よりも低廉になつた。一切の金銀製器

物は、十五世紀に於て之を購買するに要したであらう處の穀物、又は労働の三分の一で、今日は買へる。従前と同量の買物をするのに、我々は従前よりも多量の金銀を肩に擔がねばならぬ。そして従前は銀貨一箇を携へて行けばよかつた所に、今は同じ銀貨十箇を携へて行かねばならぬ。金銀貨が低廉となつて是丈の不便を増したのである。而してこの不便と、金銀が豊富低廉となつたことから受ける便利と差引勘定したら何れが重いかは、にはかに斷言することは出来ぬ。

しかし乍ら亞米利加發見は現代歐洲に重大な本質上の變化を與へた。即ち歐洲の凡ての財貨に對する無盡藏無際限なる一新市場を展開することによつて、往時の商業の狹隘な範圍では決して發生することを得なかつた新分業及び技術の新改良を惹起せしめた。新しい生産方法を惹起せしめた。之に依つて労働の生産力は増進し、歐洲各國の労働生産物は増加した。そして之と相俟つて歐洲諸國民の眞の所得と眞の富とが増加した。歐洲の諸財貨は殆ど皆亞米利加にとつて新しく思はれ、又亞米利加の財貨の多くは歐洲にとつて新しく思はれた。かくて従來夢想だにしなかつた處の新交換が行はれ、兩方の大陸に對して、利益を與へた。

亞米利加發見と略時を同うして起つた喜望峰經由印度航路の發見は、一層廣濶なる市場を開拓した。印度、支那、日本、其他東印度の若干國は、墨國や祕露の様に金銀鑛には富んでゐなかつたが、その土地はよく耕され、總ての製造及技術に於て亞米利加諸國よりは遙かに進歩してゐた。しかも富んだ文明國民が相互間に行ふ交換は、文明國民が野蠻人や夷狄との間に行ふ交換よりも、常に遙かに大なる價值を齎すものである。

富は貨幣換言すれば金銀より成るとの通俗の見解は、非常に一般的である。日常用語上で貨幣は富を意味することが屢々であり、そして此言辭の曖昧は此通俗の見解を人々に甚だしく親炙せしめてゐるので、其不合理をよく知つてゐる人でも、往々その原理を忘れ勝ちなのであつて、自己の論法を推し進めて行くうちに、いつしか貨幣即富なる觀念を是認して終ふ。商業に關する英國の優秀な著者中の或者は、一國の富は單に其國の金銀からのみ成るのではなくて、亦其國の土地、家屋、及びあらゆる種類の消費財からも成るといふことを述べてゐるが、更にその論理を推し進めて行くうちに、此土地家屋及消費財等は彼等の記憶から消失して終ふやうに思はれる。そして彼等の議論の調子は、一切の富は悉く金銀より成り、そして此の金銀を増殖することは一國民の商工業の大眼目だと主張するか

に想はせるのである。

かくして、富は金銀より成り、そして自己に鑛山を有しない國では、貿易均衡、換言すれば其國の輸入する商品の價值よりも大なる價值の商品を輸出することに依つてのみ金銀を獲得することが出来るといふ、二箇の原理が確立されたので、内國消費用の外國品の輸入を出来る丈け減少せしめ、而して内國産業の生産物の輸出を出来る丈け増加せしめるのは、經濟學の大眼目とされるに至つた。夫故經濟學が其國を富ましめる一大手段は、輸入に對する抑制及輸出に對する獎勵となつた。即ち保護貿易政策の採用である。吾々は次章に於てこれに對する批判を試みよう。

第十章 保護貿易論

一七二

第一節 内國市場獨占の効果

高率の關稅により、或は絶對的の禁止により、自國に生産し得る商品の輸入を禁止することは、或程度まで、是等の商品に關する内國産業をして、内國市場を獨占せしめるものである。

内國市場を内國産業に獨占せしめることによつて、其産業に大なる獎勵を與へ、斯る政策のない場合に比すれば遙かに多くの資本と労働を其産業に向はしめることがあるのは、疑はれぬ事實である。然し是れが爲めに、社會の一般産業を繁榮せしめ得るか、又その産業の方向を最も適當に按配し得るかは、疑はしい問題である。

社會の一般産業は、それに使用し得る資本の額以上に超過することは出来ない。人の使用し得る労働者の數は其資本に比例しなければならぬが、それと同様に、社會の凡ての人

によつて使用され得る労働者の數は、其社會の總資本額に比例しなければならぬ。産業に關する如何なる法律を制定しても、資本が支持し得る程度を超えて産業の分量を増加することは出来ない。只だ自然に放任すれば他の方面に向ふべき資本部分を、特種の方面に向はしめ得るだけである。而して其自然の方向を轉じて人爲的に他に向はしめることが社會の爲めに利益であるかどうかは、容易に斷言し得ぬのである。

何人も其資本を最も有利に使用しようとして常に努めてゐる。固より彼の念頭にあるのは社會の利益ではなくて自己の利益であるが、併しその自利を圖ることが自然に、或は一層適切に言へば必然的に、彼をして社會に最も有利な産業を選ばしめるのである。

第一に、各人は皆出来る限り其身邊に近い所に其資本を下さうとする、隨つて彼が若し普通或は普通より甚だしく劣らぬ利潤を得ることが出来るならば、彼は其資本を内國産業に投下するであらう。内國産業に使用される資本は、外國貿易に使用される同額の資本に比すれば一層多くの産業を活動せしめ、又た一層多くの國民に収入と職業を與へ、かくて自然に内國産業を興隆せしめるのである。

第二に、内國産業に其資本を使用する人は、何人も必ず最大の價值を生産し得るやうに

其産業を指導しようとする。産業より生ずる生産とは、産業によつて其目的物即ち原料の上に附加されたる價值を云ふのである。資本家の利潤は生産されたる右の價值の大小に比例する。人が資本を投下するのは利潤を得んが爲めである。故に彼は常に最大の價值、即ち貨幣若くは他の物品の最大量と交換し得る價值を生産し得る事業に、其資本を使用せんと努めるであらう。

然るに社會の歳入といふものは、其社會の全産業の生産せる交換價值の總和に外ならぬのである。各人が最大の價值を生産せんと努力することは、取りも直さず、社會の歳入を最大ならしめる所以である。

如何なる内國産業に資本を投下すべきか、如何なる産業が最も多く價值を生産し得べきかは、政治家、立法者等よりも、其地方の事情に精通せる産業家の方が、是を判斷するに遙かに便利な地位にある。若し政治家が、如何なる方面に資本を使用すべきかに就て人民を指揮せんと欲すれば、彼等に不必要なる種々の思慮を要する。其上に、個人には勿論如何なる政治機關にも委すべからざる權限を彼等に與へねばならない。自ら斯くの如き難事を爲し得ると妄想する者に、これを托するほど大なる危険はあるまい。

如何なる産業にしる、内國産業に内國市場を獨占せしめることは、資本使用に就て個人を指揮命令することになり、如何なる場合にも有害無益の政策である。内國製品を、外國製品と同様の價格で市場に供給し得る場合は、斯る政策は無用の長物である。若しまた外國製品が内國製品より廉價な場合には、斯る政策は概して有害である。何故なればそれは自家で製造するよりも廉價に購買し得るものを、自家で製造する愚かな仕方である。仕立屋は靴を靴屋から買ひ、靴屋は仕立物を仕立屋に依頼する。彼等は各々自己の熟練せる職業に全力を注ぎ、其生産の一部分——其一部分の價值をもつて必需品をそれ／＼購買する。一家の經濟も國の經濟も理窟は同一である。外國品にして、自國內で生産するよりも廉價に購入し得るものがあつたなら、自國內で有利に生産し得る生産品の價值の一部分をもつて、是を購買した方が好いのである。

人爲の法律により、時として或種の産業は自然に放任するよりも速かに國內に樹立され、或時期が來れば外國と同價、或ひは其以下で生産し得るに至ることがあるのは確かである。然し一國の産業及び收入の全額は、是がために増加することは決してない。一國の産業はたゞ其資本の増加によつてのみ増加するを得、而して資本は收入を貯蓄することによつて

のみ増加することを得る。然るに斯る法律の直接の結果は、資本が最も有利な方向に向ふことを妨げ、随つて其収入を減少することになるのである。故に自然に放任するよりも速かに資本を増加し得るとは、考へられないのである。斯る法律のないために、國內に或特種の産業が興らなかつたとしても、さらに損失ではない。資本は其期間他の産業に最も有利な事情の下に使用されつゝあるのである。

或る一國が、特殊の財貨の生産上有する所の自然的優越は、往々にして全世界がこぞつて競争しても無益な程廣大である。温室を用ゐれば蘇格蘭にも極く良好な葡萄が出来る。そして又極めて良好な葡萄酒が、この葡萄から醸造出来る。しかしその爲めには、これと同等の葡萄酒を外國から輸入する場合の三十倍の費用を要する。只だ單に蘇格蘭に良好な葡萄酒の醸造を奨励するために、凡ての外國産葡萄酒の輸入を禁止するのは、馬鹿げた法律ではなからうか。一圓の費用を以て外國から購買し得る財貨と同量の財貨を自國に於て生産する爲めに、三十圓の費用を投ずることは、それ丈け其國の資本及び産業を無益な方面に轉向させることである。或一國が他國に對して優れてゐる有利な地位が自然的であらうと後天的人爲的であらうと、それは孰れにしても此點に就ては無關係である。或一國が

此等の有利な立場を有する限り、そして他國がこれを缺如する限り、後者は之を自ら生産するよりは他國から購買した方が常に有利である。職業分業は自然的なものでなく、習得せられたる後天的のものである。大工が家屋を建てるに就て他人より優る所のものは、生れつき持つて來たものではなく、習練によつて獲たものである。しかも鍛冶屋は、自ら家屋を建てるよりは、大工に之を依頼する方が有利であることを知つてゐる。

第二節 保護關稅の必要な場合

然し内國産業を保護する爲めに外國品に課税した方が好い場合が二つある。

第一は、或特種の産業が國防上必要な場合である。例へば英國の國防は主として水夫と船艦に依頼する。故に航海條令によつて、英國の水夫と船艦で英國の海外貿易を獨占せしめ、外國の船舶にして英國に來るものに重税を課し、或ひは全く之を禁止したのは、當然の處置と云はねばならない。航海條令は勿論外國貿易上不利である。例へば該條令は英國の商品を他國に持ち行くために來る外國船舶に對し課税しないが、しかし外國人が禁止或は重税によつて英國に商品を賣ることを妨害されるとすれば、彼等は英國の商品を買ふ

ことも出来ない。何故なれば、彼等の船は積荷を持たずに英國に來ねばならぬからである。
航海條令は斯る不利を伴ふ、しかし一國の國防は其富よりも重大なのである。

第二に保護關稅を課すべき場合は、内國生産の或種の商品に對して租稅の賦課される場合である。此場合には同種の外國品に對して同率の關稅を賦課するを至當とする。これによつて外國と内國の商品を、課稅前と同一の出發點から競争せしめることが出来る。然し乍ら、猶ほ考慮に入れるべき二つの事情がある。

或外國が我國の製品の輸入を禁じ、或は重稅を課したる場合、之に對する報復の手段として、其國から我國に製品の輸入されることを禁じ或は重稅を課するのは、これは人情の自然であつて、各國とも斯様な手段は實際に採つてゐることである。若しこれによつて、對手國をして禁止を解き、或ひは重稅を輕減せしめることが出来たなら、この手段も亦一策たるを失はない。

次に、外國品の自由輸入を暫く阻止して居つた後、再びその自由を回復する時には、特に慎重な考慮を要するのである。或特種の産業が、外國品輸入の防壁によつて、可成の發達を遂げ、多數の勞働者を使用するに至つた場合に、一朝にはがに一切の制限を解いたならば、低廉な外國品は洪水の如く侵入し來り、忽ち無數の勞働者を失業せしめる結果を生ずるであらう。この悲惨なる結果は疑もなく重大である。併し乍らこの産業界の混亂は、普通に想像されるであらうよりも、恐らくは微少である。何となれば、次の如き理由が之を緩和するから。

第一、苟も或る部分が獎勵金なしで外國に通常輸出される處のすべての商品は、外國製の其商品が全く自由に輸入されても、殆ど惡影響を受けることはなからう。何となれば斯る商品は海外に於ては同種同質の外國品なら何んでもそれと同様に低廉に賣却されねばならず、内國に於てはそれよりも一層低廉に賣却されねばならぬ。従つて斯る商品は外國からの輸入を自由ならしめても、矢張り内國市場を占有して失はぬであらう。よしんば氣まぐれの有産者が、時として、内國製のヨリ低廉なヨリ良質な商品を買はずに、單に舶來品といふ名前に眩惑して高價惡質の外國製品を買ふことがあるとしても、斯る愚擧は、事の性質上からいつて、極めて少數の人々が行ふに過ぎないから、人民の一般職業の上に何等見るべき影響を與へはしない。

第二、自由貿易實行の結果として、多數の人民が、彼等に普通に行互つた職業——其生

一七八
此の條令は、
はるかに
おのゝ
あつた
おのゝ
あつた

存の通常の方法——の外に投げ出されやうとも、そのために彼等が全く職業なり生活資源なりを奪はれることはなからう。英佛戦争の終局に當つて陸海軍人を減少したので、十萬人以上の兵卒及び水兵——其数は最大の製造業に従事してゐる者の人数に等しい——が忽ちにして彼等の職業地位から投げ出された。彼等はそのために疑もなく不便を蒙つたが、併しその爲に全く其職業及生活資料を奪取されはしなかつた。水兵兵卒の大部分は機會を見付けて漸次に商工業に復歸し、結局人民の大衆中に吸入され千種萬様の職業に従事することになつた。武器を扱ふことと、劫掠強奪とに馴れた之等の十萬人以上の人々の地位状態が、斯様に變化したにも拘らず、そこから何等の大動亂も何等重要な無秩序も生じなかつた。浮浪の失業者の数は、國內の何處に於ても、格別不安を感じしめる程には、達しなかつた。且つ又、労働賃銀も、海運業の労働賃銀を除けば、何の職業でも減少されなかつた。

兵卒が平和な他の職業に轉ずる場合と、平常平和な一職業に従事しつつある者が他の平和な職業に轉ずる場合とを考へて見ると、後者の場合の方が、その平常の習慣上からして轉業が容易である。製造労働者は彼の労働のみによつて、彼の生活を維持するに慣れてゐる。兵卒は政府から扶養されるに慣れてゐる。丹誠と勤勉は労働者の常となつてゐる。怠惰と放恣とは兵卒の常となつてゐる。勤勉の方向を或一種の労働より他の労働に変更することは、怠惰と放恣とを勤勞に轉向するよりは遙かに容易である。且又、諸製造業の大部分は、其性質の極めて類似する附隨的製造業と連絡してゐるので、労働者は容易に一の製造業から他の製造業に轉ずることが出来る。

保護關稅が撤廢されて自由輸入が許されるやうになつても、國內に在る資本の額は増減しない。従前或人数の労働者を雇つてゐた資本は、依然として國內に存して他の方面の労働者を使用するであらう。資本の額が同一であれば、労働に對する需要も全く同一か、殆んど同一に近い筈である。——尤も労働は從來と異なる場所異なる産業部門に於て行はれるではあらうが。人民にして職業を選ぶ完全な自由が許されるならば、換言すれば同業組合の排他的獨占、徒弟條令、居住法の如き、労働者が其職を選び住居を移すの自由を阻害する惡制度を完全に無くするならば、社會一般も亦個人も、兵卒の除隊の爲に苦しむよりは一層ひどく、労働者の或部分の失業に苦しむやうなことはなからう。